弘前大学農学生命科学部・農学生命科学研究科

平成 30 年度　教育改善に向けたアンケート調査

報　告　書

令和元年 12 月 18 日

弘前大学農学生命科学部

自己評価委員会

巻　頭　言

農学生命科学部長　佐々木　長市

平成 14 年度に開始された「卒業・修了生を対象としたアンケート調査」は、今年で 16 回目になります。この内容は、学部の教育改善の明確化や特徴などを示唆してくれる貴重なデータとなっています。この取り組みは、学部では自己評価委員が解析の労を執り、教育改善員会とともに検討し、構成員に FD として公開しています。この情報は、各教員の教育研究における有意義な情報及び改善点を提示してくれている貴重なものです。特に、新任の教員にとっては有効性が高いと考えています。なお、このアンケートは、「学部・大学院教育のあり方」と「教員対象の教育評価ト」が大きな特色です。

今日では、大学及び学部も学生教育における質の向上を図るため、学生の意見を聞きながら改善を図ってきております。学部・研究科の教育理念、教育目的、教育目標、学科の教育目標さらにはアドミッションポリシーなどの指針に基づき教育がなされております。こうした明確な指針に沿った教育は、大衆化した時代の教育の質の保証には重要なことと考えられます。また、内容や評価の公表は、大学あるいは学部の個性的な教育の深化に大いに貢献すると思われます。このデータは、学部のより良い教育や個性化に貢献する一助として大いに評価されるべきでしょう。

本アンケートからは、ガイダンス、シラバス、専門教育に対するする学生の満足度が学部全体で約 80%と高い肯定的な意見が確認されています。施設への要望では、プロジェクターの更新やエアコンなどの設置などの改善がなされ、この質問項目への満足度を高めているようです。施設の利用面での不便に対して改善を進めていますが、今後学生数が増えるに従い、新たな要望が出ると考えられます。学部の卒論に対する満足度は学部全体として約 90%にまで上昇しました。これまでの長い間のたゆまない改善がこうした結果に結びついているのでしょう。

令和元年度、弘前大学の機関評価が行われています。この評価に対し、本アンケートが大いに役立ちましたことは周知の事実です。

最後に、本調査に対し、労をいとわずにとりまとめいただいた自己評価委員会の各位に衷心より謝意を申し上げます。

目　次

巻頭言　1
はしがき　3
Ⅰ．学部卒業時学生対象教育評価アンケート　4
　１．　アンケート調査内容　4
　２．　調査結果　7
Ⅱ．研究科修了時学生対象教育評価アンケート　63
　１．アンケート調査内容　63
　２．調査結果　66
Ⅲ．教員対象教育評価アンケート　90
　１．　アンケート調査内容　90
　２．　調査結果　92
Ⅳ．教員対象授業アンケート（学部授業及び研究科授業）　109
　１．　アンケート調査内容　109
　２．　学部授業に関する調査結果　112
　３．　研究科授業に関する調査結果　120
Ⅴ．アンケート調査結果に対する各学科の見解　127
　生物学科　127
　分子生命科学科　128
　生物資源学科　128
　園芸農学科　130
　地域環境工学科　130
Ⅵ．教育改善委員会（平成 30 年度教育改善にむけたアンケート調査についての意見 ）　132
　学部卒業時・研究科修了時学生対象アンケートについて　132
　教員対象授業アンケートについて　133
　教員対象教育評価アンケートについて　133

はしがき

農学生命科学部の自己評価委員会は，学部ならびに研究科の教育の適正化，カリキュラムの改善などを目的に，学部４年の卒業予定学生及び研究科２年修了予定学生を対象にした授業評価と，各教員を対象とした専門科目の授業評価についてアンケート調査を実施してきた。平成 14 年度(15 年 2 月実施)以降，これまで 15 回行われ，今回は第 16 回目である。平成 17 年度からの調査では，それ以前の内容に加えて学生と教員を対象として教育評価アンケートを実施している。そのアンケートにおいては，学生および教員対象の各アンケートに同種の質問項目を設けており，学生と教員との間における意識の相違についても読み取れる。また， 各年のアンケート結果の比較によって，カリキュラムの改変や施設状況の変化の実態やそれらの影響，学生の意識・要望の変化，教員の取り組みの変化なども読み取れる。

以上のような背景から， 本年度もこれまでのアンケートとの継続性に配慮し，それらの内容を踏襲して次の４事項についてアンケートを実施した。

Ⅰ．学部卒業時学生対象教育評価アンケート

Ⅱ．研究科修了時学生対象教育評価アンケート

Ⅲ．教員対象教育評価アンケート

Ⅳ．教員対象授業アンケート（学部授業及び研究科授業）

各アンケートの設問内容は，それぞれのアンケート調査結果の冒頭に示した。設問は， 選択肢式のものと，その回答理由を記述させるもので構成した。選択肢として，「強くそう思う」，「そう思う」，「どちらとも言えない」，「そう思わない」，「全くそう思わない」等の５段階を設定した場合は，順に 1～5 の番号を付して選択するものとした。設問の回答に関する分析では，「強くそう思う」と「そう思う」を併せて「肯定的な評価」とし，「そう思わない」と「全くそう思わない」を併せて「否定的な評価」とした。また，学生の回答理由の記述は，明らかな誤字や個人名以外は，できるだけ原文のまま箇条書きで記し，各学生が選んだ選択肢番号を行頭に付し，学科あるいはコース別に記載した。

本アンケートの設問の設定については， 大きな変更はせず，設問の趣旨が的確に受け取られるような範囲の変更にとどめている。これは， 本報告書の内容は，教育改善や組織評価等に活用されると想定され， さまざまな取り組みの成果や問題点の把握を可能にする経時的データの役割もあると考えたためである。

本アンケートの結果は教育改善に活用されるべきことから， 昨年度と同様に教育改善委員会と各学科の学科長にも本報告(案)の一読を願い，それに対する見解，意見を提出してもらい，本報告の最後に掲載した。

今回の卒業・修了時学生によるアンケート結果にも，本学部・研究科の授業や教員の教育方法に対して厳しい意見や，教育体制に関するさまざまな意見が含まれている。関係各位および教育改善委員会におかれては，カリキュラムの教育内容や方法の改善のためにはもちろん，教育体制の充実を図るためにも，それらを大いに参考にされることを望む。

Ⅰ.学部卒業時学生対象教育評価アンケート

１．アンケート調査内容

調査目的：農学生命科学部の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため，４年間この学部で教育を受け，今まさに卒業しようとしている学生を対象に，学部教育について総合的な評価を得ることを目的とした。

調査方法:指導教員をとおして研究室所属の学生にアンケート用紙を配布し,無記名方式で行った。回収は本学部棟正面玄関に設置した回収箱で行った。

調査対象：平成 31 年 3 月学部卒業予定者 192 名

調査期間：平成 31 年 2 月 21 日～3 月 8 日

有効回答者数：155 名　（回答率 81%）

調査項目：設問は以下のとおりである。(ただし，下記の[　]の項目名は，回答結果の分析にあたってグループ化のために設けたものである。)

[学部・学科の教育目標等の認識]

設問 1．あなたの所属学科をお答えください

設問 2．本学部の教育理念，教育目的および教育目標を知っていますか。

設問 3．あなたが所属する学科の教育目標および入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

(1) 教育目標について　　(2) アドミッションポリシーについて

設問 4.

(1)あなたが所属する学科の教育目標は添付資料の通りですが，学科のカリキュラム（21 世紀教育科目および専門教育科目）はその目標に合致していると思いますか。

(2)上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

[学科の専門教育について]

設問 5．本学部では年度初めに学年毎にガイダンスを行っていますが，ガイダンスの内容は適切だったと思いますか。

設問 6．シラバスは受講科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。

設問 7.

(1) あなたが所属する学科で受けた専門教育に満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

[教員の指導について]

設問 8.

(1) 所属する学科の教員の，講義・実習・演習などにおける学生への指導や対応に満足していますか（卒業研究については設問 15 で別に聞きます)。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 9．履修した科目の成績評価について質問します。

(1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。

(2) 疑問や異議があったときは，学部教務に「成績評価の問い合わせ」を提出し問い合わせできることになっていますが，あなたはそれをしましたか。した場合，その回答に満足し

ましたか。具体的に記入して下さい。

［学生の主体的学習について］

設問 10．講義や演習の受講に当たり、その講義の受講期間中にあなたは講義室での受講時間の何倍程度の時間を、講義室外での学習（予習や復習など）に当てましたか。大学設置基準に、「１単位は 45 時間の学習を必要とする内容」と規定されています。２単位の科目の場合、90 時間の学習が必要な計算になりますが、講義室では 30 時間（90 分を 2 時間として扱い×15 回＝30 時間）の学習時間しかありません。そこで、講義室外での学習が必要になります（講義室での 2 倍の時間）。学習時間にはインターネットを利用した関連情報の収集、課題や実験レポートの作成、外書講読・文献講読・専門英語の予習、小テストのための勉強、中間や期末試験のための勉強、研究室内でのプレゼン準備なども含めても構いません。ある 1 科目を想定して回答しても構いません。

設問 11．大学教育では，学生自身の主体的，意欲的な学習が要求されます。

(1) あなたは講義に対してどのような姿勢で取り組みましたか。

(2) 実験・実習についてはどうですか。

(3) 大学在学中のカリキュラム（21 世紀教育も含む）の中で，もっとも印象に残った科目があれば，その科目名と理由を記入して下さい。

それぞれについて簡潔に記入して下さい。

［学生への教育支援，施設・設備について］

設問 12．本学部や本学では皆さんに助言したり，皆さんからの相談・苦情を受け付けたり，皆さんのニーズを把握するために，下記のような 10 のルートを用意しています。在学中あなたは次の(1)～(3)の項目について主にどれを利用しましたか。（　）内に番号を記入して下さい。 (1) 学業（　　） (2) 学生生活（　　） (3) 進路（　　）

1．学生センター　2．クラス担任と面談　3．指導教員と面談

4．指導教員以外の教員と面談　5．学科長と面談　6．学生総合相談室

7．保健管理センター　8．就職支援センター　9．学部長直言箱

10．学長直言箱　11．その他　12．利用したことはない

設問 13．本学部の以下の施設について、どのように感じていますか。

(1)．下表の該当する欄に〇を書き込んで下さい。

評価 ＼ 施設	1.充分満足	2.ほぼ満足	3.どちらとも言えない	4.やや不充分	5.かなり不充分
1.講義室					
2.実験・実習室					
3.情報処理演習室					
4.蔵書室（４階）					
5.学生自習室・学生控室（２階）					
6.卒業研究を行った研究室					

(2). 各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

［卒業研究について］

設問 14.

(1) 卒業研究を行ったことに満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 15.

(1) あなたの卒業後の進路は次のどれですか。

(2) 本学部のカリキュラムで学んだことは、進路の決定にどのように影響しましたか。

(3) 本学および本学部の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。

［本学部の教育のあり方について］

設問 16.

(1) あなたが本学部を卒業するに当たり、大学卒業者に相応の知識や学力を身に付けたと感じていますか（大学卒業者に相応の知識・学力は自分のイメージしたもので結構です)。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 17.

(1) 本学部の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を、次の項目の中から一つを選んで下さい。

(2) 上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい

設問 18.

(1) 総合的に判断して，本学部・学科の教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を記入して下さい。］

２．調査結果

設問 1．あなたの所属学科をお答えください。

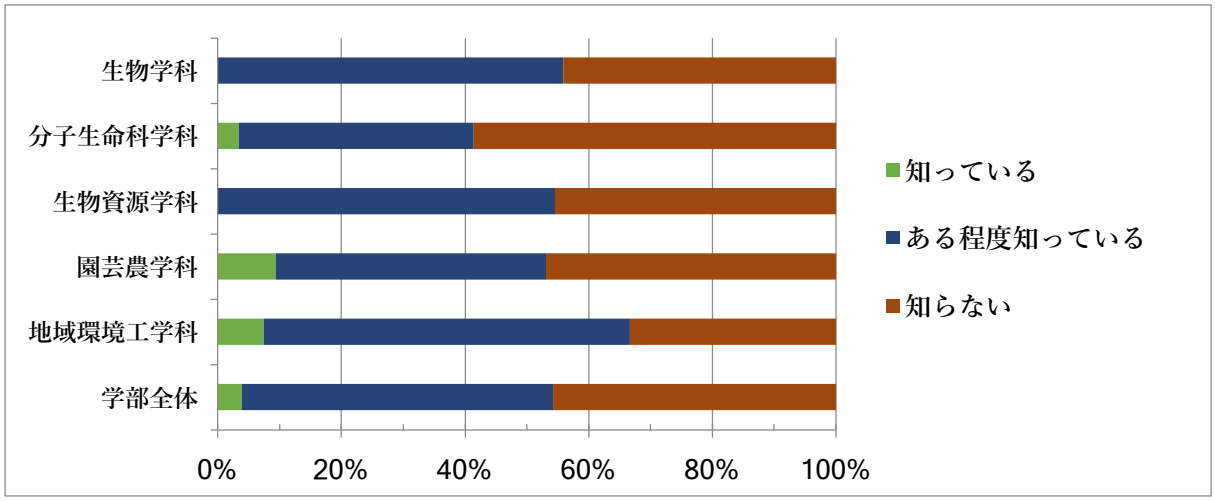
表Ｉ－ 1．各学科の卒業生と回答者数の推移

	H30 年度			H29 年度			H28 年度		
	卒業生数	回答者数	回答率（%）	卒業生数	回答者数	回答率（%）	卒業生数	回答者数	回答率（%）
生物学科	46	34	74	40	26	65	43	25	58
分子生命科学科	44	29	66	40	29	73	53	23	43
生物資源学科	37	33	89	31	31	100	36	35	97
園芸農学科	36	32	89	39	23	59	37	26	70
地域環境工学科	29	27	93	31	26	84	31	24	77
合　　計	192	155	81	181	135	75	200	133	67

平成 30 年度の卒業予定学生 192 名のうち，回答者は 155 名 （回答率 81%）であり，平成 29 年度の回答率（75%）に比べ上昇したものの，90%には至っていない。上昇の理由として，卒業証書引き渡しの際，アンケート未提出者に協力依頼を徹底したことがあげられる。アンケート実施時期が遅いとの意見があり，今後は回答率上昇のため，卒業研究発表会前の 1 月末からアンケートを実施し，卒業研究発表会の際に学科長が回収する必要があると考えられる。

[学部・学科の教育目標等の認識について]

設問 2．本学部の教育理念、教育目的および教育目標を知っていますか。



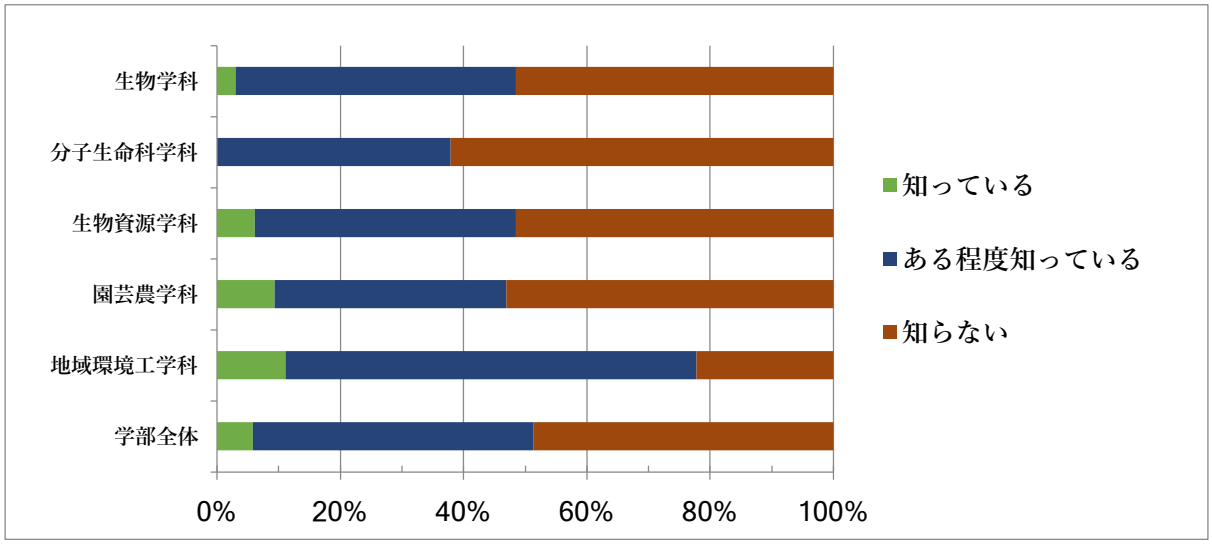
図Ｉ－ 2．理念、教育目的および教育目標の認識

学部全体で見ると、「知っている」と「ある程度知っている」の合計は 54%以上で、過去 3 年（平成 27 年度 51%、平成 28 年度 54%、平成 29 年度 54%）と比べて変化はなかった。分子生命科学科では比較的「知らない」と答えた学生が多く、およそ 60%を占めた。

設問 3．あなたが所属する学科の教育目標および入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）

を知っていますか。

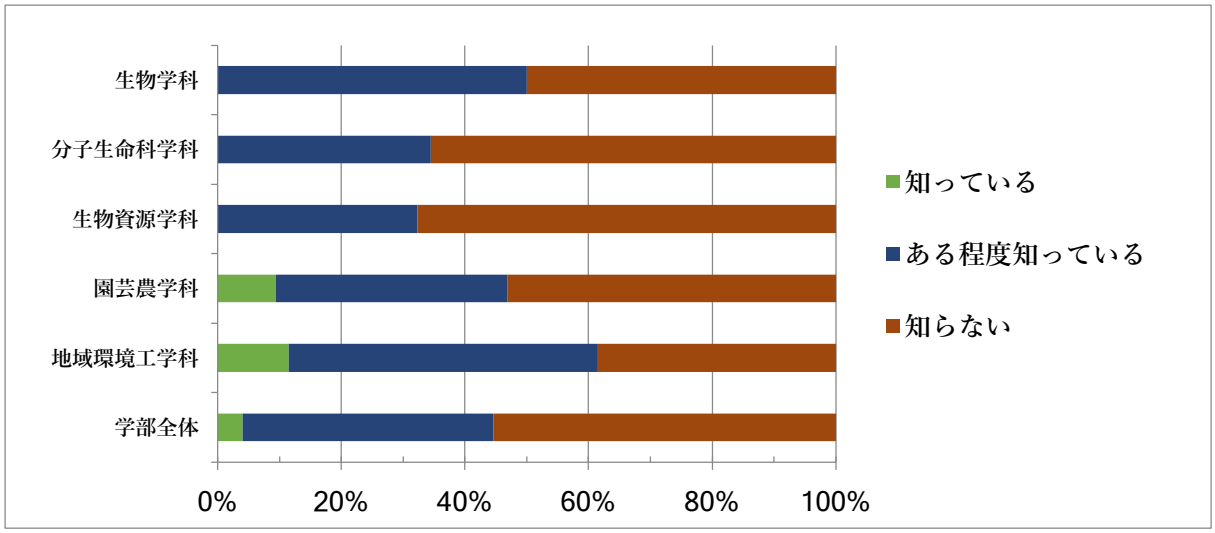
(1) 教育目標について



図Ⅰ－3(1). 学科の教育目標の認識

学部全体では、「知っている」と「ある程度知っている」の合計は 51%で、過去 3 年と同程度であった（平成 27 年度 51%、平成 28 年度 58%、平成 29 年 59%）。地域環境工学科では「知っている」と「ある程度知っている」の合計が高い傾向があった。分子生命科学科では「知らない」の割合が 60%を超えていた。

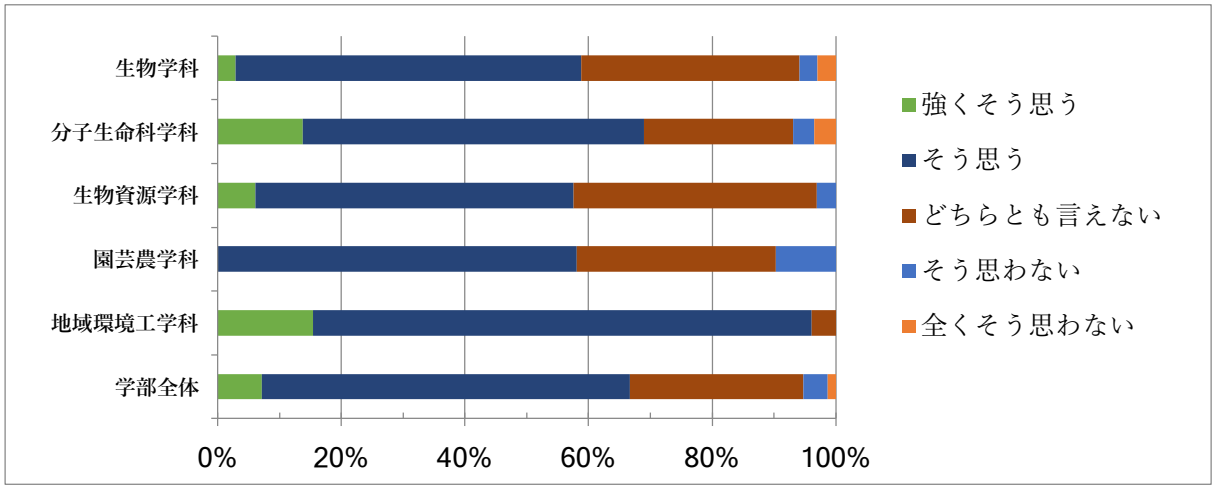
(2) アドミッションポリシーについて



図Ⅰ－3(2). 学科の入学者受け入れ方針の認識

学部全体では、「知っている」と「ある程度知っている」の合計は 45%程度であり、過去 3 年（平成 26 年度 39%、平成 27 年度 44%、平成 29 年度 49%）と同程度であることが分かった。分子生命科学科と生物資源学科で「知らない」の割合が高く、60%を上回った。

設問 4. (1) あなたが所属する学科の教育目標は添付資料の通りですが、学科のカリキュラム（21 世紀教育科目および専門教育科目）はその目標に合致していると思いますか。



図Ⅰ－4. 学科の教育目標とカリキュラムの合致

学部全体で見ると、肯定的な評価が 67%で、過去 3 年（平成 27 年度 71%、平成 28 年度 68%、平成 29 年 66%）と同程度であった。地域環境工学科で、肯定的評価がとくに多く、その点はコメントからもよくうかがえた。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない　5. 全くそう思わない

【生物学科】

1. 今まで受けてきた授業を思い返すとまさに目標と合致していたと思うため。
2. 生物学の基礎知識をフィールド・座学通して、学ぶことができたから。
2. 研究室がバラエティに富んでいるため。自分のやりたいスケールで研究を行える。
2. 野外実習やその他専門科目が目標に沿っていると感じた。21 世紀科目のテーマ科目の一部は学科の目標からは逸れていると思う。
2. 生物の様々な分野に興味を持てるようなカリキュラムであったため。
2. 特に合致していないとは思わなかったが、白神についての講義は人気の割に少なく、受講の機会が乏しい。
2. 先生方それぞれが専門としている分野で授業をそれぞれで行っている感があり、それはそれでいいのですが、目標を達成するための授業の構成かと言われると、また違う気がしています。
2. 授業を通して様々な事を学ぶことができたから。
2. 授業で生物の一通りのことを学び、実際に野外実習で体験するということもあったから。
2. 専門教育科目については概ね目標に沿ったカリキュラムと思うが、21 世紀教育科目は必要性に疑問がある科目も存在し、学部学科に合わせ、もう少し専門性があっても良いように思ったため。
2. 基礎生物学分野をもう少ししっかり学ぶべきだと思う。
2. 特になし。
2. 野外実習等を通して、実際に自分の手で生物に関わることができ、興味を深めることができたから。
3. あまり深く考えたことがないので、「どちらとも言えない」
3. 21 世紀科目は、大学という自由に勉強できるはずの場には合っていない。また、生物学科の教育目標にも合致しているわけではないと思う。

3. 全てのカリキュラムを把握していないため。
3. 特になし。
3. 生態系の文章が多く、細胞や基礎系に対しての言及があまりないため。
3. 普段はあまり感じない。
3. 教育目的を知らないため。
4. 21 世紀教育で受ける授業の多くが学科の教育目標と合っていない。研究室配属前に専門教育科目の配属に関わるような授業を受けれないものが一部ある。
5. 大学生なんて遊ぶために入学しており、本当にそのために学びたい学生は存在していない。

【分子生命科学科】
1. 教授達の熱意がわかるから。
1. だいたいその通りに行われている。
1. そう思ったから。
1. いろいろな科目を学ぶことができたから。
2. 専門以外の学部全体に関わる授業が必修とあったから。
2. 添付資料にあるような授業内容が多い。
2. 遺伝子実験を多く行って、応用研究により、生命のメカニズム解明を目指しているため。
2. 目標に即したカリキュラムになっていると思ったから。
2. 授業内容と一致する点が多いため。
2. 学科のカリキュラムの内容が、教育目標に沿っているから。
2. 教育目標の達成に必要な科目がしっかりカリキュラムに組み込まれているから。
2. 研究室配属された後に役に立ったため。
2. バイオテクノロジーについての専門的知識を学ぶことができたから。
2. そのような授業を受けられたと思う。
2. 目標にあった科目と研究室があったから。
2. 専門的な授業を受けられたから。
3. 21 世紀教育科目、テーマ科目が何も学科の勉強の参考にならない。
3. 分からない。
3. 豊かな人間性の育成
3. 21 世紀教育は、高校の内容と変わらず、必要性を感じなかったので、生徒のレベル意欲に合わせて、選べるようにしてほしい。専門は逆に新しく、先端の話が多く、ためになったので。
5. 基礎的な知識をしっかりと教えてくれる先生が少ない。教育目標（1）が、（2）、（3）につながっていると思う。

【生物資源学科】
1. 基礎科目からの応用がしっかりとできるような科目のレパートリーの多さが選択肢を増やす面で、とてもプラスになった。ただ、下の学年から食品系に力を入れ始めたというのは、正直ショックだった。
1. 生物資源：その名の通り、生物学の基礎について深く学んだから。
2. 教育目標に合致した授業が多く設置されており、それらが必修化されているため。

2. 各研究室に配属される前の土台作りとなっているため。
2. 育種学、食品化学、土壌学、植物病理学などの幅広い知識を得ることができたから。
2. 多くの講義が受けられるから。
2. 専門的知識を学ぶ上での、基礎から応用的なものまでの科目が揃っていると思う。
2. 教授の方々が熱心に対応してくれるから。
2. 講義の幅が広いから。
2. それぞれの分野の授業（食品、病理、育種など）をまんべんなく受けることができるカリキュラムだから。
2. 自由に科目を選んで学ぶ姿勢、他分野への興味を高める可能性を秘めているから。
2. 授業内容が教育目標に沿ったものだと思った。
2. 自分は目標を達成できたと思っているから。
2. 取れる授業の自由度が高いから。
2. 授業を受ける限り、目標に沿わないような指導等をするものはありませんでした。
2. 私はそうでもないけど、周りの友達はそうなのかな。
2. 分かりやすい授業が多かった。
3. 研究を選択する際に、ほとんど研究分野の被らない三つのコースに分かれるため、「幅広い研究分野の知識」があまり活用できていないような気がします。
3. 講義の内容が難しくて理解できないのがいくつかあったため。もう少し分かりやすくしないとそれに関する知識をつけていくのに抵抗ができると思う。
3. 受講する科目の分野が違いすぎるため、全体的に知識量が少なくなっており、講義につなげられるものが感じられない。
3. よくわからない。
4. 青森県産業技術センターの研究者の方を講師としてお呼びして、15 コマのうちの 1 コマでも講義していただけると面白いと思う。

【園芸農学科】

2. 専門教育科目は、他学科に比べて、理論よりも実践が重視されていると感じていた。それが目標と合致しているから。21 世紀については、微妙なところ。
2. 講義を通じて記載されてるような教育目標の内容について、学ぶことができたと感じたから。
2. 学科の授業を受けるにあたり、必要な知識を最低限身に付けるべきであり、その準備をカリキュラムとして、示していただけるのは、ありがたいと思うから。
2. 農業に関して、生産と流通の二つの面で学ぶ機会を早期に必修で履修するカリキュラムのため、農業を多面的にかつ様々な分野を関連付けて、学ぶことができるため。
2. 公務員試験で必要な科目が四年生にならないと取れないことが多い。
2. 様々な分野の授業があるため。
2. 他の大学より経済学に関する講義が多く、多面的な視点が養われたと感じたから。
2. 食と農について幅広く学ぶ事ができていると思い、そう答えた。しかし、三年次以降は研究室によって差が出るため、(2)とした。
2. 様々な分野の知識を得ることができた。
2. 二年次までに幅広く学べて、生産も流通や販売についても学べたから。

2. 幅広く学べるから。
2. 園芸農学コース、食農経済コース、どちらに所属していても必修科目で、それぞれの分野について学ぶ事や学外への視察の機会が多くあるため、教育目標にある、食と農業をめぐる課題を多面的・総合的・実学的に把握できる人材の育成と合致していると思いました。
3. 教育目標(1)、(2)は、カリキュラムと合致していると思うが、(3)はそうは思わないから。
3. 専門教育科目は適していると思われたが、21 世紀教育科目は自由度が高く、良いとは思ったが合致していないと思った。
3. そもそも教育目標を知らないため。
3. 自分の専門分野ではない科目があり、どちらとも言えない状況。
3. 21 世紀教育については、枠が広いから履修の仕方によっては、合致しないのではないか。
3. 21 世紀教育科目では、必修がなかったため。
3. 客観的視点では、目標に合致しているが、主観ではこの目標に沿うことができなかったため。
3. ある程度は合致していると思います。
3. 目標がわからない。
4. 21 世紀教育科目の中で、教育目標に必要な科目が不明瞭なため。(自然系基礎の科目の中で、必修科目がないためわかりにくい)
4. 自分は園芸農学コースに進んだため、農業経済・経営等についての学習は、ほぼ行っていないに等しかった。そもそもコース分けされるのであれば、最初から経済か農学かに分かれていた方が良いと思う。
4. 基礎的な部分は、講義で学べるものの、そこから食と農の問題を多面的に見られるかと言われたら、疑問が残るため。

【地域環境工学科】
1. みんな力をつけていたと思う。
1. 本学科の農業土木コースを卒業すると、ＪＡＢＥＥに認定された技術士補、技術士試験の一次試験免除の資格が与えられる。認定の基準を満たしたカリキュラムであるということであり、目標を達していると言える。
1. 四年間学んだ実感として、目標と合致していると思ったから。
2. 技術者の基礎が学べたから。
2. 農業土木方面に関わる知識を学びやすいカリキュラムだと思ったから。
2. 「多方面の分野」「総合的な知識」という言葉に表れている理念に合致していると考えました。
2. 土木技術及び、技能の取得に係る数学や力学の基礎の講義や専門的講義に際しては、その演習が実践されているから。ただ、コース分けが確定した時点で、履修講義を分別してほしい(農業土木コースでは、より実践的な講義がほしい)。
2. 研究室の分野の詳細について、簡単にでも書いた方が良いと思います。
2. 専門知識だけではなく、農業・農村に関わる生態系や経済など技術以外の知識も得られたため。
2. 土木のプロフェッショナルのためのカリキュラムが組まれていると思う。
2. 農業土木コースと農山村環境コースのどちらにも対応している教育目標のため、合致していると思います。
2. 講義内容の他、見学や実験などを通して、様々な知識と経験ができたから。

2. そのような仕事に就けたため。
2. 農業・農村を支える上で、必要となってくるインフラ整備の基礎知識を身につけることができるから。
2. 目標を達成できるような科目を学んできたから。
2. 農業土木に関する基礎知識を学べたから。
2. 学んでいく上で、目標に沿った知識を得られていると感じたから。
3. わからないから。

[学科の専門教育について]

設問 5. 本学部では年度初めに学年毎にガイダンスを行っていますが、ガイダンスの内容は適切だったと思いますか。

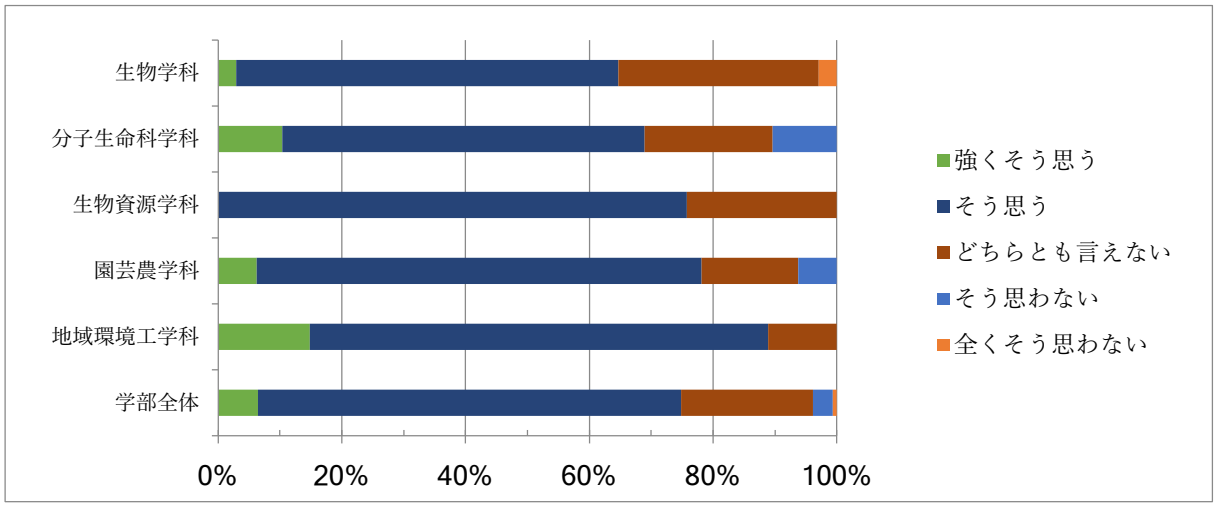


図 I－5. ガイダンス内容が適切だったか

学部全体では、肯定的な意見の割合が 72%（28 年度）、71%（29 年度）、75%（30 年度）と推移しており、昨年度と同等だった。特に地域環境工学科で肯定的な評価が高かった（89%）。

設問 6. シラバスは受講科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。

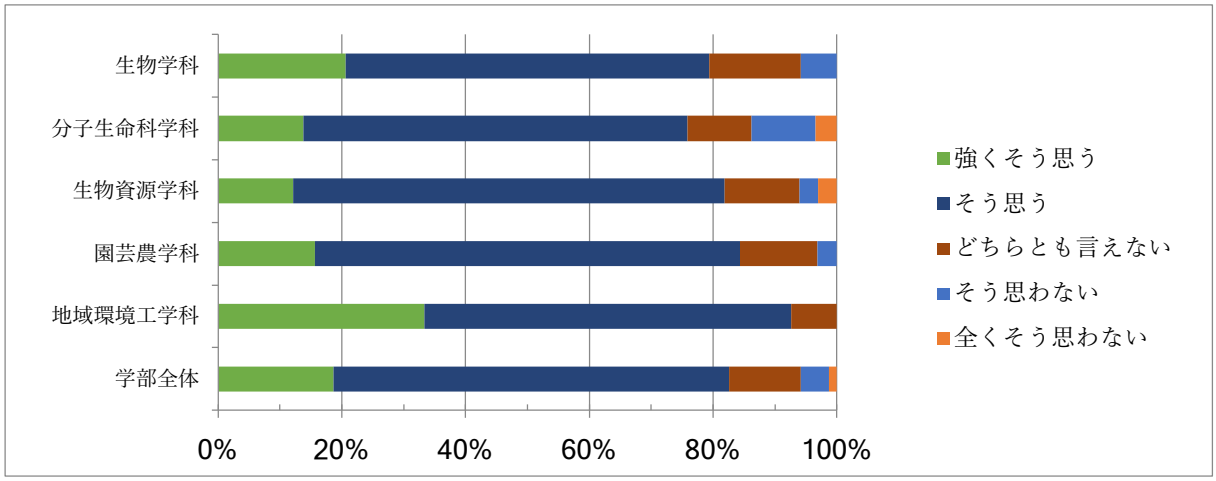
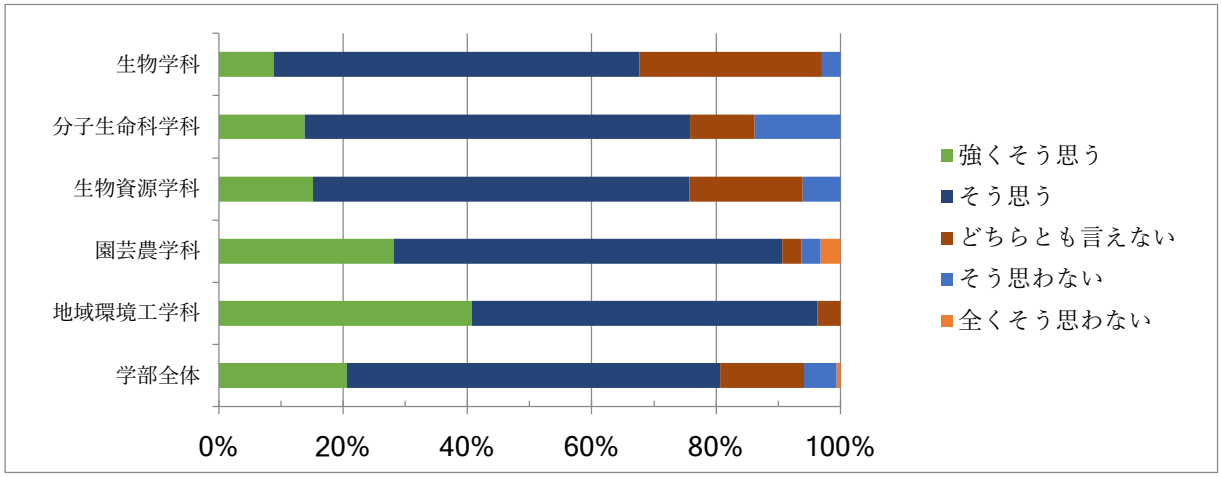


図 I－6. シラバスは役立ったか

学部全体での肯定的な意見は 83%で、過去 3 年間（平成 27 年度 86%、平成 28 年度 83%、平成 29 年度 81%）とほぼ同じであった。とくに地域環境工学科での肯定的意見の割合が高かった。

設問 7.（1）あなたが所属する学科で受けた専門教育に満足していますか。



図Ｉ－ 7(1)．あなたが所属する学科で受けた専門教育に満足しているか

学部全体では、肯定的意見が 81%で過去 3 年間（平成 27 年度 77%、平成 28 年度 78%、平成 29 年 79%）と同レベルであった。とくに園芸農学科および地域環境工学科で満足度が高かった。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない　5. 全くそう思わない

【生物学科】

1. 学科ならではの教育だった。研究室の先生が良かったのかも。
1. 実験器具や専門書など研究に必要なものが十分にあったから。
1. 様々な分野のことを学ぶことができたため。
2. とても良かったと思うが、一部の教員(〇〇先生)は、自身の考えと合わないことを論述したレポートに対して、誰が見ても聞いても納得のいかない批判をしていたから、あえて「2」。
2. 学生実験の一部がおおよそ専門とは言い難いチープな内容で高校生どころか中学生レベルのものだった。(気孔の観察など、〇〇先生担当回)
2. ミクロからマクロまで多様な視点で、講義を受けることができる。
2. 興味のある内容について、深く知ることができたから。
2. もう少し踏み込んだ内容、難易度でも良かった。けど、全体的な雰囲気としてはＯＫ。
2. 難しい部分もあったが、何とか乗り越え、自分の力になったと思うため。
2. 内容に不満はないが、もっと早い時期(一年後期頃)から受講できるようにしてほしい。
2. 保全や環境科学について、もう少し学びたかったです。
2. 特になし。
2. 研究に役立ったから。
2. 大多数の授業は満足できたが、そうでない教科もあったから。

2. 自分ではわからない大学の教授ならではの専門授業が身に付いた。
2. 生物について広く学んだことで、多角的に考える土台が形成できたから。
2. 特になし。
2. 自分が学びたかった内容に関して、不足なかったと感じたから。
2. 指導教員と生徒の数がちょうどよかった。
2. 授業間で内容がかぶっているものも多かったため、調整していただけるともっといいなと思います。
3. 十分に学ぶことのできた分野も多かったが、情報科学・統計(実用的な)・神経科学なども含んでいると研究をする上で役立つと思ったからです。
3. 授業がおもしろくない。
3. 分子と大差ないように思えたから。
3. 分野に偏りがあると感じた(森林や植物関連が多かった)。教授の専攻的に仕方がないとも思う。
3. 留学生への心のケアを少しでもしてほしかった。
3. 授業による。
3. 分かりやすい教授もいたが、その逆もいたため。
3. 先生の教え方による。
3. 植物に関する専門教育は充実していたように思えるが、動物の方はあまり専門教育の種類も数も少ないように感じた。
4. 専門的な知識を得るための科目であるが、科目によって専門性にバラつきがあり、また配属後に必要な専門的知識がかなり少ないように思えたため。

【分子生命科学科】
1. いい勉強になりました。
1. 新しい知識が増えたから。
2. 特に不満がないから。
2. 研究にある程度活かされているため。
2. 分子生命科学に関する様々な分野の教育を受けることができた。
2. 学部レベルでの専門知識は身に付いたと感じるから。
2. 専門教育の内容の基礎から学ぶことができたから。
2. 生物に関する分子生命の分野について、しっかり学ぶことができた。
2. 興味深い内容でした。
2. 楽しめたから。
2. 内容が分かりやすいため。
2. 糖鎖工学の授業が個人的に面白かったため。
2. 授業によるが、その分野の最新の話が聞けたから。
3. 分かりやすい授業と分かりにくい授業が混在しており、分かりにくい授業の中には、必修科目も多く含まれていたから。
3. 先生たちの専門にピンポイントな知識は多く学べますが、そこへ至るまでの基礎知識は、私たちは持っていません。

4. もっと根本から説明してほしかった。「これぐらいわかるだろ」的な授業になるのが、とても嫌だった。
4. 学期末に行われるアンケートの結果をきちんと反映しているのか、疑問に思う科目が多く見られた。
4. 学問の面白さを伝えるような講義が少ない。

【生物資源学科】
1. 仕事でもこの分野に関わることがしたいと思えたから。
1. 様々な視点で物事を考えることを身に付ける事ができたから。
1. とてもためになりました。
2. 多くの教員が担当領域について十分な情報を提供しており、オフィスアワーにより授業外での質問時間が確保されているため。
2. 農学に関する幅広い知識を得ることができたから。
2. 内容に繋がりのある講義がいくつかあったため。
2. 学びたかった内容があった。
2. 一つの分野に色んな知識が詰まった講義が多かったから。
2. 食品系の会社に入りたくて、この学校に入学したので、食品関係の先生が少ない中で、多くの専門科目を受けることができた。しかし、ただ一つ、コース分けが三年以降だったので、取りたくない科目もたくさん取ることになったので、またこれから科目の取り方を新しくできるようにするべき。
2. 研究室配属後には、実験やゼミなどを通して、専門的な知識や技術を学ぶことができたから。
2. 専門知識をたくさんつけられたから。
2. 興味のある内容だった。
2. 全般的な内容が多く、全体像の理解につながったから。
2. 入学前のイメージとほぼ同じでした。
2. 楽しかったので。
2. 研究室選びなどの際に、必要な科目が分かりやすかった。
2. 先生方の授業は素晴らしかったと思います。
2. しっかり学べたから。
2. 楽しんで学ぶことができたから。
2. 楽しく授業を受けられた。知識を得られた。
3. 専門科目の受講の学年制限を下げてほしかったです。
3. 内容自体、広く浅い授業もあれば、狭く深く学べる授業もあったため。
3. 興味に片寄りがあったため。
3. まだ評価できる段階ではないから。

【園芸農学科】
1. 理由はないが、満足した。
1. 実習など有意義なものが多かったため。
1. 知見が深まったため。

1. 食と農業の知識を幅広く講義されていたと思うから。
1. 興味のある分野を学ぶことができ、かつ楽しく学習できたため。
1. 詳しく学べた。
1. 授業自体が面白かったから。
2. 自分の知らない専門分野について、学ぶことができたため。
2. 農業の知識に関して、何の基盤がなかった自分でも、講義を通じて農業生産の概要や諸問題など、幅広い知識を得ることができたから。
2. 農学生命科学部生として、包括的な知識の習得、及び知見を深める事に役立つものだったから。
2. 学科の特徴に合った授業だったので。
2. 独学では難しい実習の機会や教授の知見を知ることができたため。
2. 多種多様な科目が学べたから。
2. 理解しやすかったため。
2. 研究室配属に役立つから。
2. 科目によっては、実際に現地視察に行くことができたため。
2. 幅広く学ぶことができたから。
2. 青森県の農産物と関連した講義が多かったため。
2. 自分の学びたい分野が学べたから。
2. 一つの専門分野に関して、自分なりに課題を見つけ、取り組むことができたから。
2. とても勉強になったから。
2. 農場実習から座学まで、幅広く学ぶ事ができたからです。
3. 一年次から実習や実験をしたかった。
4. 自身の心の変化があったかもしれないが、高校の時よりも生物学・農学分野の教育に対する知的好奇心が無くなってしまったため。
5. アカハラや教える内容の偏りがあったから。

【地域環境工学科】
1. 基礎がしっかり学べたから。
1. 土木に関して、たくさんの知識が得られました。就職にも役立ちました。
1. 公務員試験に大変役立ったから。
1. 就職してから、役に立つと思うから。
1. 座学だけでなく、多くの実習によって体感的に学びを深めることができた。また、技術者としての能力に直接的な関わりのない分野であるが、その世界の全体像を把握するのに役立つ教育が充実していたから。
1. 就職活動や今後の技術士として、役に立ち得る知識だと思うため。
1. 就職の役に立ったから。
1. 高校が農業高校出身だったため、高校で習った専門科目よりも深く学ぶことができた。
1. 専門的な知識を講義を通して、身につけることができたから。
2. 農業土木方面に関わる知識を学びやすいカリキュラムだと思ったから。
2. 就活で役立つから。
2. 土木技術士に必要な知識を満遍なく得られたため。

2. 授業をきっかけに職業を選んだから。
2. 就職活動に大変役に立ったため。
2. 就職試験に役立った。
2. 専門科目を勉強する上で、教科書や参考書を読むよりも授業でもらったレジュメの方がわかりやすいから。
2. 学びたいことを学んだから。
2. 各分野ともしっかり学べたと思うから
2. 農業土木に関する基礎知識を学べたから。
2. 自分の知りたかったことに加えて、幅広く学ぶことができたから。
3. 上記に関連するが、コース分け後の講義も大別してほしい。農業土木コースを例で挙げるなら、技術士習得に向けた、より専門性の高い講義(土木構造物や設計の講義等)も行ってほしい。

[教員の指導について]

設問 8. (1) 所属する学科の教員の、講義・実習・演習などにおける学生への指導や対応に満足していますか（卒業研究については設問 15 で別に聞きます）。

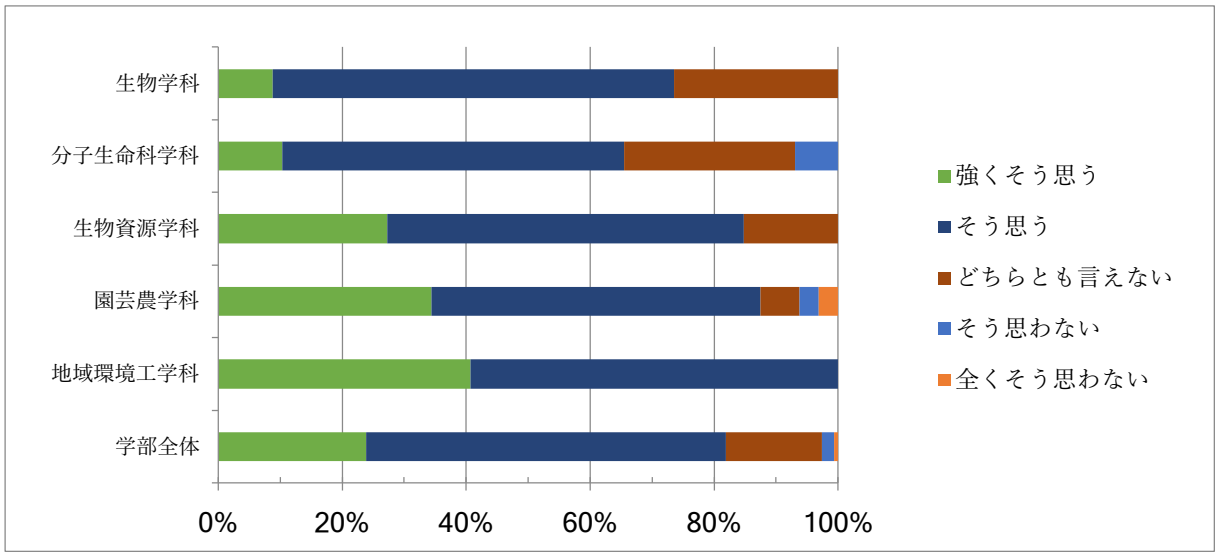


図 I－8. 教員の指導や対応に満足か

学部全体では 82%の学生が肯定的な意見であった（69%、72%、74%と推移)。過去 4 年間で微増し続けている。学科間では過去 3 年の傾向と同様、分子生命科学科で肯定的な評価が最も低かった。地域環境工学科では 100%が肯定的意見であった。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない　5. 全くそう思わない

【生物学科】

1. 特に実習は、各教員の専門分野について、詳細に学ぶことができた。
1. 十分に指導していただけたと思う。
1. すごく丁寧かつ親切に指導してくださったため。

2. 設問７に同じ。(→とても良かったと思うが、一部の教員(〇〇先生)は、自身の考えと合わないことを論述したレポートに対して、誰が見ても聞いても納得のいかない批判をしていたから、あえて「2」。)
2. 一部の教員において、理不尽な扱いや法に背く行為の強要があり、十分な教育が行われなかった友人がいた。他の教員のフォローがなければ危うかった。
2. 熱心に指導してくださった教員の方が多かったと感じたからです。
2. もう少し踏み込んだ内容、難易度でも良かった。けど、全体的な雰囲気としてはＯＫ。熱心な先生が多く、充実していた。
2. 〇〇先生の講義は単位はもらえるが、面白くなかった。
2. ラボに来たら、それなりの指導があるのは、ためにはなる。
2. 先生方の個性も良かったが、総じて皆楽しくしようという気持ちがあり、良かったため。
2. 概ね満足だが、一部の教員に関しては、間違ったことを教えたり、指導力に欠けると思う。
2. 満足するような先生が多いが、一方でそう思わない先生も数人いるから。
2. 特になし。
2. 差があるため。(人による)
2. 大多数の先生方には、満足しているから。
2. 多くの先生は学生の理解を助けるように、工夫していて分かりやすかったから。
2. 特になし。
2. やや満足です。
2. とても生徒のことを考えて指導してくれたと感じたから。
2. 先生によって差が激しく、熱心に指導してくださる方と違う方がいました。
2. プリントやレジュメを用いたより分かりやすく、あとで復習しやすい授業が多かった。
3. 教員によって、授業の質にバラつきがある。
3. 学科全体の教員となると個々の教員のやり方でやっていたため、答えにくい。
3. 分かりやすい人と分かりづらい人どちらもいたため。
3. ほとんどの教員には適切な指導・丁寧な対応をしていただき、感謝しているが、一部不適切な教員がいたのも事実であり、そこで差が生じるのは残念だと感じたため。
3. 丁寧な人とそうでない人の差が大きかった。
3. 生徒への指導が足りていない個所があった。
3. 満足する先生もいれば、そうでない先生もいるため。

【分子生命科学科】
1. 髙田先生にとても感謝しています。
1. 髙田先生には感謝しかありません。
2. 質問しに行けば、丁寧に答えてもらえるから。
2. 親身だった。
2. 親切丁寧な指導を受けているから。
2. 学生のことを思ってくれる教員が多かったから。
2. 面倒見が良かったため。
2. 丁寧に講義や実習の説明がされていたから。

2. 専門的な知識が多いので、難しいことについては分かりやすく、指導していただいたと思う。
2. 特に髙田先生には感謝しています。
2. 専門知識は増えたため。
3. 教員によって差がある。
3. 教員によって指導等は違いますので、一概には言えません。ただこちらから質問等をしやすい雰囲気を作ってくださる方々の対応はいいなと思いました。
3. 学生が理解しやすいような説明を行う工夫がなされていない講義があったから。
3. 自らの研究の面白さは話してくれるが、クセが強い。
3. 先生によってまちまちなので。
4. 仲の良い学生にひいきをしている(よく授業中に難易度や分からないところを聞いている)先生がいた。特に〇〇先生。
4. 人によって、バラバラ。

【生物資源学科】
1. 皆さん優しく良い方々でした。
1. 親身に対応していただけたため。
1. 優しい。
1. 個別に受け持ちの生徒じゃなくても、勉強に関する相談を受けてもらったりもしたし、しっかりと対応してもらえて良かった。実験では先生によって、少々教える量が少なかったりして、その時に先輩から教えてもらえないグループは辛そうだった。
1. 皆さん、優しく授業を教えてくれたから。
1. 丁寧な指導でした。
1. 生物資源の先生方は最高です。
1. 生物資源で良かったです。興味がわいた。
2. 研究等で忙しい中でも、真摯に対応してくれました。
2. 実習中の事故などの発生を抑えるための指導も施されており、十分な対応がされていると言える。
2. 研究や雑事で忙しい中、十分な指導をしていただけたと思います。
2. 学生実験などの演習では、教員含め、研究室内の学生も補助をしていただき、進めることができたため。
2. 親身になって教えてくれたから。
2. 実験など、丁寧な説明があることが多かったため。
2. 直接聞くと分かりやすく教えてくれる人がほとんどであったため。
2. 質問に丁寧に対応してくれたから。
2. 良い指導が多いから。
2. どの先生方も親身になって指導してくださったから。
2. 特に不満や不足を感じなかった。
2. 粘り強く教育してもらったため。
2. 先生方が親身になって、色々な相談を受けてくれたから。
2. 分かりやすかった。親身になってくれた。

3. 教員毎に異なります。
3. 能力・人格共に優れた方が大部分であるが、一方でその両方が欠けた大学教授の肩書にそぐわない人が存在するため。
3. あまり行き届いた指導でなかったかなと思いました。みんな遊んでいるのもあると思いますが…。

【園芸農学科】
1. 不満に感じたことがなかったため。
1. 講義形式は科目によって異なったものの、自ら学ぶ意思を尊重している教員が多かったと感じたから。実習は農作業の体験を重視しており、身をもって農業の現場・実際を感じることができたから。
1. 質問すれば答えてくれるし、生徒のことを考えてくれる教員が多かったと思うから。
1. 丁寧な指導を常にいただいたため。
1. 教員の方々は、各々独自のスタイルで、わかりやすく指導してくださったため。
1. 実習も興味が持てるものだったから。
1. 実習での事前説明がしっかりとしていた事や講義でのレジュメや進め方がわかりやすかったからです。
2. 分かりやすく指導してもらえたから。
2. 手厚い指導だったので。
2. 丁寧な対応だったと思うため。
2. 大学はこういう雰囲気の場所なんだろうなと思っていたから。
2. 分かりやすかったため。
2. 指導や対応についてのトラブルがなかったため。
2. 就活や論文指導などとても丁寧であったため。
2. 所属学科教員の教えは面白いものが多くあり、指導・対応に不平不満がなかったため。
2. 満足しています。
3. テストなどを行わない先生もいるため、全員の対応に満足しているとは言えない。
3. あまり接する機会がなかったため（ほとんどの教員と）。
5. ○○先生のアカハラがひどいから。ノイローゼやうつ病になった人がいます。

【地域環境工学科】
1. 手厚く指導していただいたイメージ。
1. 専門性が高いだけに、如何に短期間で分かりやすく知識を吸収できるか教員方は苦労していたのが、日々の講義や課題等から伺えた。
1. 学生を覚え、フレンドリーに対応してくれた。
1. 決められた時間内で適切に指導され、多くの人にとって、内容を十分に理解させるような対応であったと思った。
1. 講義は分かりやすく、実習・演習などで質問した際も丁寧に対応していただいたため。
1. 無駄のない講義だったと思う。
1. 先生方は、みんな熱心に教えてくれました。

1. 授業やレポートの内容がわからない場合、適切に指導してくれる。
1. 実験などでも良く指導していただいたと感じたから。
2. 農業土木方面に関する知識を学びやすいと思ったから。
2. 個人差もありました。熱心な先生から、なんとなく話している先生まで、色々な方がいました。
2. 指導を受ける中で、個人的に困ったようなことはなかったので。
2. 質問しに行けば、丁寧に教えてくれたから。
2. 皆様、大変わかりやすい講義だったため。
2. 学生にわかりやすいように板書やレジュメを作っていたから。
2. 丁寧に教えてくれたと思うから。
2. 授業を受けていて、特に問題なかったため。
2. 丁寧に指導していただいたから。
2. わかりやすいように工夫がなされていた。

設問 9. 履修した科目の成績評価について質問します。

(1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。

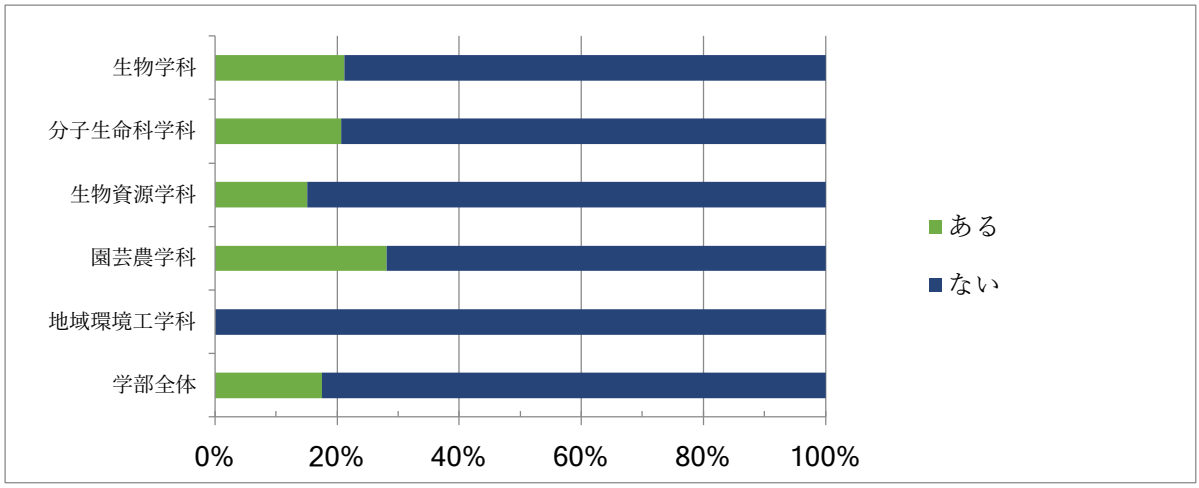
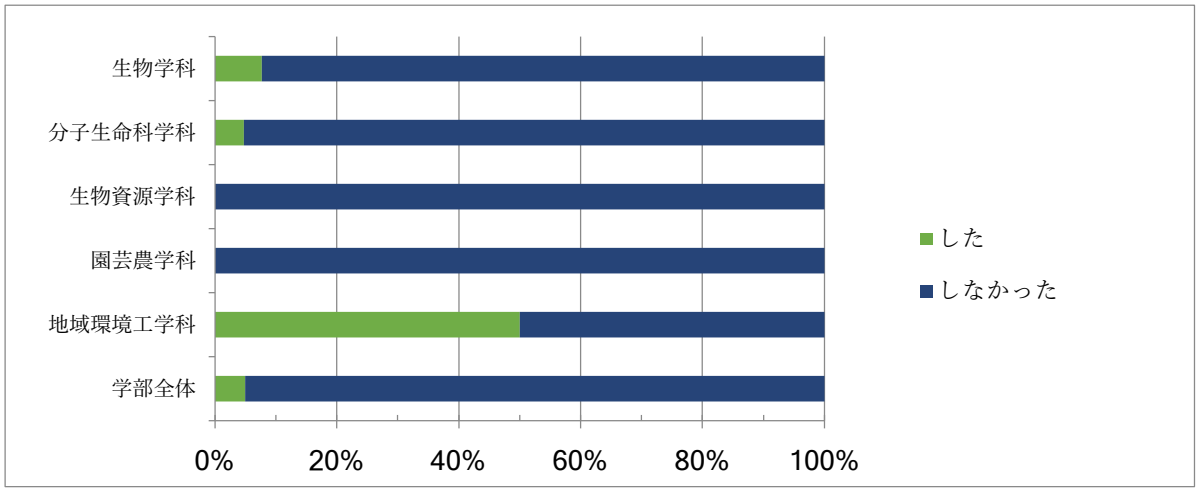


図 I－ 9(1). 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはあるか

学部全体で成績評価に疑問があったと回答した学生の割合は約 18%で、昨年度にくらべ 3%減少した。地域環境工学科で「ある」と答えた学生はいなかった。

(2) 疑問や異議があったときは、学部教務に「成績評価の問い合わせ」を提出し問い合わせできることになっていますが、あなたはそれをしましたか。した場合、その回答に満足しましたか。具体的に記入して下さい。

1. した　2. しなかった



図Ｉ－９(2)．成績評価の問い合わせをしたか

学部全体では 95%の学生が成績評価について問い合わせをしていなかった。過去 3 年（平成 27 年度 100%、平成 28 年度 97%、平成 29 年 91%）と同様、高いレベルである。地域環境工学科で問い合わせをした学生が 50%であるが、当学科で本設問に回答した学生は 4 人しかいなかったので若干の人数（2 名）が大きく反映した結果と言える。

【生物学科】
1. ミスがあり、訂正してもらったので満足。
2. 直接指導教員に聞きに行き、納得したから。
2. よくよく考えてみると、受け入れられる評価だった。他学部の授業で受講者が非常に多かったので、何となく面倒に感じて、問い合わせはしなかった。
2. 特になし。

【分子生命科学科】
1. 満足した。
2. ネット上で問い合わせできるようになればよいと思う。
2. そんな制度があることを知らなかった。

【生物資源学科】
2. 知らなかった。
2. めんどうだった。

【園芸農学科】
2. 担当教員に直接、評価について質問したことがあったが、納得のゆく回答が得られた。

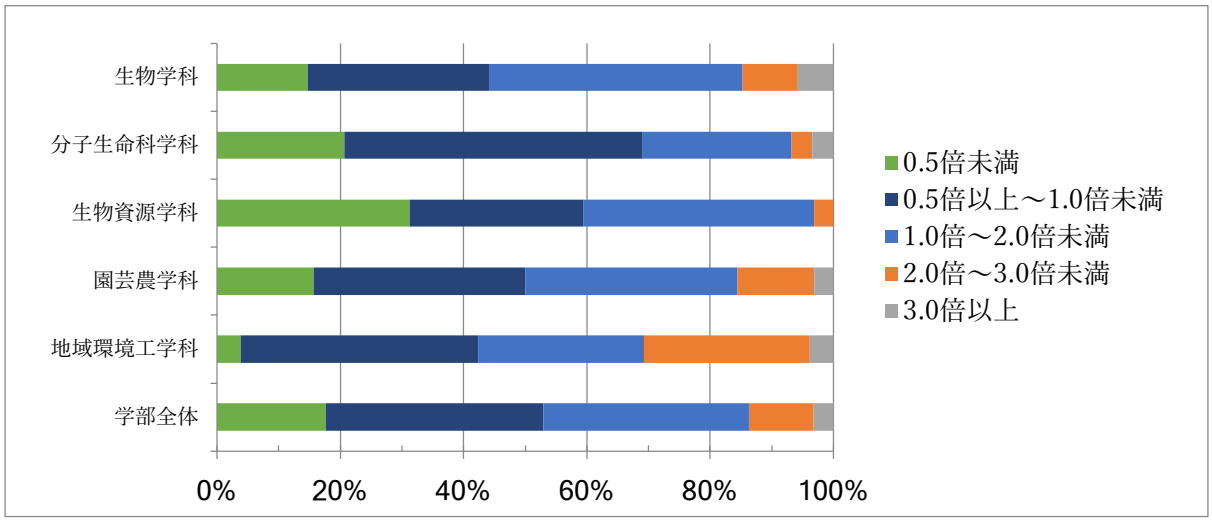
【地域環境工学科】
1. テスト結果を開示してもらったから。
1. 丁寧に教えてくれました。

[学生の主体的学習について]

設問　10. 講義や演習の受講に当たり、その講義の受講期間中にあなたは講義室での受講時間の何倍程度の時間を、講義室外での学習（予習や復習など）に当てましたか。大学設置基準に、「１単位は 45 時間の学習を必要とする内容」と規定されています。２単位の科目の場合、90 時間の学習が必要な計算になりますが、講義室では 30 時間（90 分を 2 時間として扱い×15 回＝30 時間）の学習時間しかありません。そこで、講義室外での学習が必要になります（講義室での 2 倍の時間）。学習時間にはインターネットを利用した関連情報の収集、課題や実験レポートの作成、外書講読・文献講読・専門英語の予習、小テストのための勉強、中間や期末試験のための勉強、研究室内でのプレゼン準備なども含めても構いません。ある 1 科目を想定して回答しても構いません。

1. 0.5 倍未満　　2. 0.5 倍以上～1.0 倍未満　　3. 1.0 倍～2.0 倍未満

4. 2.0 倍～3.0 倍未満　　5. 3.0 倍以上



図Ｉ－10. 1日平均どの程度の時間を予習や復習に充てたか

学部全体で学習時間が「0.5～1 倍未満」と回答する割合が最も高く 35%であった。過去 2 年は学習時間が「1～2 倍未満」と回答する割合が最も高かった（平成 28 年度は 48%、平成 29 年度は 34%）ことを考えると学習時間の低下が見られる。ただし、「1～2 倍未満」と回答する割合も 33%であり、昨年度と同程度である。その分、「2～3 倍未満」および「3 倍以上」の合計は 14%であり、昨年度の 23%を大きく下回った。「1 倍以上」の割合は昨年度と同様、生物学科と地域環境工学科で比較的高かった。授業外学習時間が短いことは依然続いており、今後の変化を見て、対策を考えるべきだろう。

設問 11. 大学教育では、 学生自身の主体的、 意欲的な学習が要求されます。

(1) あなたは講義についてどのような姿勢で取り組みましたか。

主体的・意欲的学習を、 「学生自身が講義室外で学習したことを示す記述」の有無を基準として判断すると、 回答総数 130 件のうち、 該当したのは以下を含め 17 件（13%に相当）のみであった。

回答例：「8 割は授業中に理解し、残りの 2 割は＋αを復習する。（生物学科）」、「訳のわからない授業もしくは、自分が集中できずにわからなくなってしまった授業について、その授業で扱っている教科書をすべて読んだ。（分子生命科学科）」、「講義に用いる教材をあらかじめ目を通してから講義に臨み、重要な点を事前の予習と照らし合わせながら、確認をしていく。（生物資源学科）」、「分からないこと、もっと知りたいと思ったことは、すぐに調べるようにしていた。（園芸学科）」、「主体的に取り組んだ（予習・復習等）。（地域環境工学科）」など。

これに対して、 単位を取得することのみを目的とし、受動的であることが明白な以下のような記述もあり、これは 12 件（9.2%に相当）であった。

回答例：「単位を落とさないように聞かないといけない話はちゃんと聞いた。（生物学科）」、「単位の取得のみを目標に取り組んでいた。（分子生命科学科）」、「 単位が取れるように。（生物資源学科）」、「単位を取ることを第一に勉強していた。（園芸学科）」など。

設問 10 で示したとおり、1 日当たりの予習と復習時間の合計時間が講義時間の 1 倍未満と回答した学生の割合が学部全体で 53%にのぼることからすると、「意欲的」とは講義時間内に限ってのこととも受け取れ、実際に「授業は休まずしっかり聞く／理解するよう頑張って聞く」という意味の回答が多かった。受動的と思われる学習姿勢が多い傾向は、昨年度と同様であった。大学での学びにおける「主体的・意欲的な学習」のあるべき姿勢について、入学直後から積極的に指導することが、基礎ゼミ・地域ゼミなどを介して行われるようになっている。そのような効果が現れるか、来年度以降の変化を見ていく必要がある。

残りの回答は、以下の回答例に示すように、「真剣」、「真面目」、「意欲的」という言葉を使っているが、具体的内容が書かれておらず、受動的な学習との区別ができなかった。以下に、全回答を示す。

【生物学科】

・細かく聞いて、疑問あればメモし、講義後に直接聞くか調べるようにした。
・専門性の高い部分については友人と協力して、理解を深めた。
・できる限り興味に沿うように履修をし、不明な点は直接あるいはメールで質問をした。
・落第しない。
・真面目に取り組んでいたと思う。
・どんな講義に対しても興味を持とうとした。課題に対しても時間の許す限り、良いものにしようと取り組んだ。
・面白い講義は話をしっかり聞いていた。それ以外は単位が取れる程度に行った。
・卒業できればいいやと思いながらやった。
・知識意欲を埋めるため。
・難しい話でも何とか理解しようとした。
・8 割は授業中に理解し、残りの 2 割は＋αを復習する。
・意欲的に取り組んだ。
・しっかり板書を取り、授業を受けた。
・能動的に取り組んだ。

・単位を落とさないことと休まないことを前提とし、より理解し、より高い点数を得ようとする姿勢。
・単位を落とさないように聞かないといけない話はちゃんと聞いた。
・講義へはあまり主体性・意欲がなく、卒業のため、配属のためといった考え方が中心であった。
・板書以外もメモするように努めた。
・興味深い講義はよく聞いて、自主的にも勉強した。
・頑張ってわかるまで自分で考えた。
・全力で取り組んだ。
・学べるものは学ぼう。
・目の前のもののみに集中して取り組んだ。
・積極的に受講するようにした。
・とりあえず欠席はしないように心がけた。
・時には周りの人と協力してでも理解を深めることに努力した。
・全ての講義に休まず参加するように心がけ、ノートをしっかり取るようにした。
・積極的に質問をするように心がけました。
・後で復習するときに困らないようにしっかりとノートを取る。
・常に何かを学ぼうという気持ちで取り組んだ。

【分子生命科学科】
・単位の取得のみを目標に取り組んでいた。
・講義内容が残るよう、メモを欠かさず行った。
・前のめりで。
・積極的に知識を取り入れるために、いつも集中して講義に取り組んだ。
・遅刻はしないように気を付けた。
・内容をなるべく授業時間内に理解するように努めた。
・まじめに。
・講義内容の重要な点を理解しようをいう気持ちを持って、取り組んだ。
・訳のわからない授業もしくは、自分が集中できずにわからなくなってしまった授業について、その授業で扱っている教科書をすべて読んだ。
・講義で説明される内容を理解することに努めた。
・朝が弱く、休んでしまうことが多々あった。興味のある内容に関しては、真面目に聞いていた印象。
・受講しようとした講義についていろんなことを学べるように積極的に取り組んだ。
・真面目に取り組みました。
・真面目に取り組みました。
・真面目に取り組んだ。
・興味のないものは受動的。
・バイオテクノロジーに関連した内容に限らず、幅広い分野を学習しようと努めた。
・話を聞く。
・知らないことは貪欲に。

【生物資源学科】
・自分の興味ある分野では、積極的に調べもの等をしましたが、そうでない分野では受け身でした。
・講義に用いる教材をあらかじめ目を通してから講義に臨み、重要な点を事前の予習と照らし合わせながら、確認をしていく。
・先生の仰ることを一言一句理解しようと心掛けた。
・受け身にならず、自分から学ぶ意識で取り組んだ。
・講義中に全て覚えようとした。
・なるべく前の席に座り、話を聞きやすいようにした。
・後にノートを見返して、疑問が残らないようにした。
・単位が取れるように。
・内容にもよるが、興味のあるものや受けていて楽しいものは、意欲的に取り組んでいて、そうでないものは、単位が取れれば良い程度で受けていた。
・良く取り組んだ。
・興味のある分野は積極的に、その他は単位を落とさない程度に。
・普通。
・あまり真剣ではなかったと思う。
・席について取り組んだ。
・話を理解しようとした。
・真面目に取り組んだ。
・面白いところを見つける姿勢。
・少しでも将来やりたい仕事につけるように身に付けられるものはどんどん吸収しようと思った。
・先生が話す内容の理解に努めました。
・興味のある分野について、深く学習した。
・毎回出席。
・授業中に集中して聞くようにして、分からないことは先生や友達に質問した。
・受け身の姿勢になってしまった。
・ノートは可能な限り写すなど真面目に。
・いいえ。
・テスト前は頑張る。
・あまり積極的ではなかった。
・集中した。
・その講義の時間だけで理解できるように努めた。

【園芸農学科】
・単位を取ることを第一に勉強していた。
・受け身的な姿勢で取り組みました。
・積極的に取り組んだ。
・受け身。
・受身的。
・常にテストやレポートを意識して取り組んだ。

・自分が関心のある講義ほど、関連のある情報を前もって調べておき、自分なりの意見・疑問をもって講義に臨んだ。
・一生懸命。
・友人と一緒に受講するものが多かった。
・病的な理由がない限りは、授業を休まずに受ける事、遅刻のないよう心がけた。
・分からないこと、もっと知りたいと思ったことは、すぐに調べるようにしていた。
・単位が取れればそれでいい。
・話の中で重要だと思う部分をメモする。
・ほぼ休まず出席していたが、すべての講義が意欲的であったとは言えない。
・新たな知識を得る。それがなぜ一般化されているか。
・単位取得のため、進んで自主学習をしていた。
・自分が興味ある科目は、知識を身につけるべく、真剣に取り組んだ。
・興味のある分野については、意欲的に取り組んだ。しかしながら、他の分野はその限りでない。
・講義の時間外での学習を重視し、講義では可能な限り、多くのメモを取るようにした。
・色々な知識を得たいという姿勢で取り組んだ。少しでも興味があれば、講義に参加した。
・真面目に取り組んだ。
・寝ないように頑張っていた。
・先に覚えて、あとから考える姿勢。
・一、二年次では、そこまで意欲的ではなかった。三年次以降は、自分が面白いと思う部分を見つけるようにし、理解できるように努めた。
・可もなく不可もなく。
・寝ないようにした。
・幅広い知識を得る機会なので、講義中に理解できるように取り組みました。

【地域環境工学科】
・意欲的。
・真面目に取り組みました。
・面白いと思って講義を受けていたので、真面目に講義は受けましたが、評価には興味がないので、テスト勉強等は、あまりしなかったと思います。
・正直に申し上げると、講義の優先度を自分の中で定め、力の入れようを決めていた。しかし、優先度の低い講義でも前列に座し、教員の話に耳を傾けた。
・遅刻せず、欠席せず。
・あまり聞いていなかった。
・あまり意欲的ではなかった。
・自身の知識を深め、将来に活かすため、集中して取り組んだ。
・自分の興味のある分野であったため、少しでも多くの知識を得ようとした。
・重要点を聞き逃さぬように心がけた。
・授業に遅れないように心がけました。
・主体的に取り組んだ（予習・復習等)。
・高校と同様に先生の話を真面目に聞き、ノートに写した。

・概ね意欲的に取り組んだ。
・真剣に取り組んだ。
・主体的は欠けたかもしれないが、意欲的には取り組んだ。
・無欠席を心掛けた。
・講義中以外にも先生に質問するようにした。
・真剣に。
・意欲的に取り組んだ。
・前の席で集中して、受講した。
・前方の席につき、積極的に取り組んだ。

(2) 実験・実習についてはどうですか。

全回答数 131 件中、 31 件（24%）は、下記の回答例のように自身が行った取り組みや学習成果を具体的に記述していた。

回答例 :「なぜこの操作をするのか、どういう原理で実験しているのかを考える。(生物学科)」、「その実験や実習の意味を理解できるように努めた。(分子生命科学科)」、「実験中の事故の発生がないように、焦った操作をせず、指導員の指示に従いながら、適切に結果を出した。(生物資源学科)」、「実験では役割を分担し、班員それぞれが自分の作業に集中することで、効率よく仮説を検証した。実習では、作業を覚え、少しでも多くのことに取り組むようにし、現場の辛さを自身に教え込ませるように行動した。(園芸学科)」、「実験・実習が円滑に進行するよう、事前準備やデータ整理に時間を割いた。また、実験及び実習中は班員と常に意思疎通を行い、協調性を持って臨んだ。(地域環境工学科)」など。

約半数（61 件、47%）は、「真剣に取り組んだ」、「積極的に行った」などのように前向きな記述であったが具体的な記述が無かった。

少数（11 件、 8.4%）ながら、下記の回答例のような受動的取り組みや否定的な記述もあった。

【生物学科】
・卒業できればいいやと思いながらやった。

【分子生命科学科】
・興味のないものは受動的。
・あまりしなかった。

【生物資源学科】
・単位が取れるように。
・あまり真剣ではなかったと思います。
・必要に応じて立ち歩いていた。
・積極的に動くことができなかった。

【園芸農学科】
・単位を取ることを第一に勉強していた。
・受身的。
・実験が苦手だったため、受け身になりがちだった。

・実験は面白くなかった。

(3) 大学在学中のカリキュラム（21 世紀教育も含む）の中で、もっとも印象に残った科目があれば、その科目名と理由を記入して下さい。

講義の内容や教授法のすばらしさが理由で印象に残っている科目、代えがたい体験を理由に印象に残った実験実習科目、および単位取得に苦労した科目が記入されていた。学科毎に印象に残る科目が違う中で、農場実習は多くの学科で共通して印象に残っていた：生物学科（1 名）、生物資源学科（2 名）、園芸農学科（6 名）、地域環境工学科（3 名）。各学科で 3 名以上の学生が記入した科目は、生物学科で生物学実験（3 名）、分子生命科学科では無し、生物資源学科で「植物病理学」(3 名)、園芸農学科で「農場実習」(6 名)、地域環境工学科で「地域環境工学実験」(3 名)、農場実習（3 名）であった。印象に残った科目および理由は以下の通りである。

【生物学科】

・〇〇先生の講義において、女子に対するひいきが酷かったので、印象深い。講義後の質問は受け付けないと言っており、実際に質問しに行った人たちは、嫌な顔をされていた。だが、よく見ていると、女子が質問しに行った時のみ、へらへらと楽しげに答えていたのを覚えている。
・〇〇先生　質問をしに行った際に女子学生と男子学生で対応に著しい差があった。(男子に対してはほぼ無視)
・21 世紀科目の哲学の基礎：普段の講義といえば、知識として取り入れることの方が自分で考えることよりも多い傾向にあったが、この講義では与えられたテーマとヒントを軸に自ら思考することが多く、非常に面白かったからです。
・生物学野外実験：実習内容だけでなく、教員との交流を深める良い機会であった。
・分子進化学：予習が必要で大変だったが、先生の話は面白かった。
・生物学実験：いろんな学科の先生の研究に関係する実験ができて楽しかった。レポートにはいつも追われていたけど、勉強になった。
・農場実習：牛のケツに手をつっこめなかったことが残念。
・なし。
・化学の基礎（？）：一度落したため、二度目を違う教員のもとで受けたところ、かなり分かりやすく、初めから二回目の方で受ければよかったと思ったため。
・特になし。
・臨海実験
・森林生態学・植物生物学Ⅱ：講義内容が面白かった。
・「生態学野外実験」：実際のフィールドで体力的にはキツかったが、楽しみながら実際に自然や生き物と触れ合うことで、学びの定着が強かった。
・特になし。
・生物学実験Ⅰ、Ⅱ：楽しかったから。
・特になし。
・動物生態学・行動学：自分が特に学びたかった授業であったことと、先生の授業が分かりやすかったことから。ノートの書き込みもしやすかった。
・生態学野外実験は、私の進路選択に大きな影響を与え、非常に主体的・意欲的に取り組むこと

ができ、四年間で最も良い経験を得られた。
・植物形態学：植物の構造について、より深く知ることで、今までと見え方が大きく変わったから。
・特になし。
・ハマダ先生の「生化学」です。
・動物行動学：人と似てた。
・動物行動学：入学時から受講したかった講義であり、受けたことで自身の興味の分野を再確認できたから。
・中国語：新たな言語に触れることが刺激的だった。
・発生生理学：もともと興味のあった分野で、内容も分かりやすく驚きもあったから。
・学生実験：基礎・生態のいろいろな実験手法を学べた。
・生物学野外実習：生物学科西野先生の専門授業。
・二年次の夏休みの集中講義「生物学野外実習」：実際にフィールドを自分の足で歩いて、調査や観察ができたことがとても良かったと思う。
・特になし。

【分子生命科学科】
・単位の取得のみを目標に釣り組んでいた。
・特になし。
・環境と共生
・白神の自然：身近な地域について学べたため。
・経営学の基礎、国際社会を考える：先生が事案を起こすと思わなかったから。
・特になし。
・まじめに。
・分子機能化学：内容が面白かった。
・〇〇学：先生の説明がわかりづらく、どこが重要なのかが理解できず、受けづらい講義だった。
・テーマ科目：学部以外の分野についての講義が刺激的で役に立つものだった。時間が許せば、もっといろいろな講義を聞いてみたかった。先生方も良い先生ばかりだった。
・食品栄養学：将来役に立つことが多かった。
・応用微生物学：微生物の利用について、様々な工程について学べたから。
・天然物化学
・天然物化学
・分子構造解析学
・細胞分子生物学：自分が興味を持っていた分野に一番近い内容だったから。
・糖鎖工学：雑学が面白かったため。
・特になし。

【生物資源学科】
・応用昆虫学：事前の予習が大前提の授業であったため。
・植物病理学・基礎土壌学：どちらも大学に入るまで知らなった世界を知れて、興味深かった。
・植物病理学・植物病理学研究室に進もうと思った、一つのきっかけになったから。
・学生実験：色々なことができて楽しかった。

・応用昆虫学：講義の形式や内容などが印象に残った。
・ない。
・特にない。
・農場実習
・あるけど名前を忘れた。
・「植物病理学」：先生が熱心で授業が楽しかったです。
・植物育種学Ⅱ：研究がどのように地域に活かされているかを知ることができたから。
・文学、美術
・「食品加工・貯蔵学」：お酒の造り方などの講義が面白かったから。
・農場実習：差し入れで、初めて紅の夢のジュースを飲んだ時に、こんなにもおいしいリンゴを作っているのかととても衝撃的だったから。
・専門英語：一度の授業で進む範囲が非常に大きく、予習が大変だったため。
・医学系の授業
・卒業研究
・特にありません、どれも楽しかったです。
・昆虫学実験：虫がものすごく苦手なので、今も夢に見ます。いやな意味で印象に残っています。
・食品栄養学：食品は身近なもので、興味が最も高かった。
・学生実験：先生・研究室・先輩・同期について深く知ることができました。
・キャリア教育の発展(?)Ａ？
・なし。
・生物学Ｂ：難しかったから。
・育種学：難しかったが、何とか単位を取った。

【園芸農学科】
・21 世紀教育のアニメーション学
・農場実習：農業経験がない自分にとって、実際に現場で作業する事は新鮮だったから。
・中級英語：ライティングを中心とした、一年次の前半に受講した科目。21 世紀教育であることを意識し、学生の解答を積極的に採用したり、講義の終了後に質問した時の丁寧な教員の対応が、自分で英文を作ることのおもしろさを教えてくれました。
・農場実習：農業を幅広く学べた。
・「最新医学の現状」：出席しているだけで単位が出て、あまり身に付いた感じがしなかったため。
・卒業論文：達成感があったので。
・基礎ゼミ：初めてのゼミ活動だったため。
・農場実習：自分の進路を決めるきっかけになった。
・統計学の基礎では、統計の基本から勉強することができた。また、その後もデータを見る目線が変化したことから、自身のためとなったため。
・情報デザイン入門（21 世紀・集中）：伝え方の基礎がわかった。ワークが印象的であった。
・運動と健康生活：日常生活に役立つ知識を得られたから。
・蔬菜園芸学Ⅱの講義は非常のおもしろく、勉強になったと感じており、最も強く印象に残った。
・食料経済学：まさに大学教育の入門といったところで、現在の食と農に関する問題を知ること

ができ、勉強の意欲につながった。
・果樹園芸学：単純に内容が面白かったため。
・21 世紀教育→芸術の世界（B）、出佳奈子准教授：アニメなどでよく言われる「かわいい」という言葉は、どういうことなのか学べたため。とても面白かった。　専門科目→食料経済論、石塚哉史教授：・日本の農業の問題点などについて学べたため。・レポートの書き方について、じっくりと学べたため。
・農場実習：毎週藤崎か金木に行き、実践的に学べたため。
・専門英語：日常生活の一部に支障が出るほどの負荷がかかったため。
・哲学の基礎：自分の存在意義がわからなくなり、恐怖を覚えたから。
・実習：自分のゼミナールを選ぶ基準になりました。
・国際農業論：面白かったから。
・農場実習：実際に体を動かすことで身についたから。
・科目名：農場実習、理由：私は農家出身でもなければ、農業高校出身でもないので、実際に農場に出て、作物の栽培や家畜と触れ合うことは、とても印象に残りました。

【地域環境工学科】
・専門英語：さまざまな先生の専門性のある英語を学べたから。
・専門英語：高校時代から苦手だったので、予習復習をせねばついていけず、苦労した。
・卒業研究：一から自らでプロセスしていく貴重な経験が得られた。これまで在学中に培ってきたスキルを多く用い、自分の納得いく成果が残せるようゼミ生と研究・協力できたことが楽しかった。
・山間地環境計学実習(専門)：(自然災害の）現場を知ることができたから。
・言語学の基礎
・特になし。
・農業経済論：ずっと農業土木の視点から、農業について学んできたため、経済面の話が非常に興味深かった。
・なし。
・数学の基礎：数Ⅲを履修してなかったため、難しかった。
・農場実習：普段体験できないことができました。
・地域環境工学実験：さまざまな先生の実験を行ったため。
・地域環境工学実験
・農場実習：実際に作業をしたり、自然に触れ、学ぶ事が最も多く、印象的だった。
・農業実習
・測量学実習：本格的な実習ができた。
・水理学：初めて専門科目で単位を落とした科目だから。
・地域環境工学実験：実際にやってみて、理論通りにできた時は楽しかった。
・どれも大差なし。
・特になし。
・特になし。

[学生への教育支援、施設・設備について]

設問 12. 本学部や本学では皆さんに助言したり、皆さんからの相談･苦情を受け付けたり、皆さんのニーズを把握するために、下記のような10のルートを用意しています在学中あなたは次の(1)～(3)の項目について主にどれを利用しましたか。(　　) 内に番号を記入して下さい。

(1) 学業

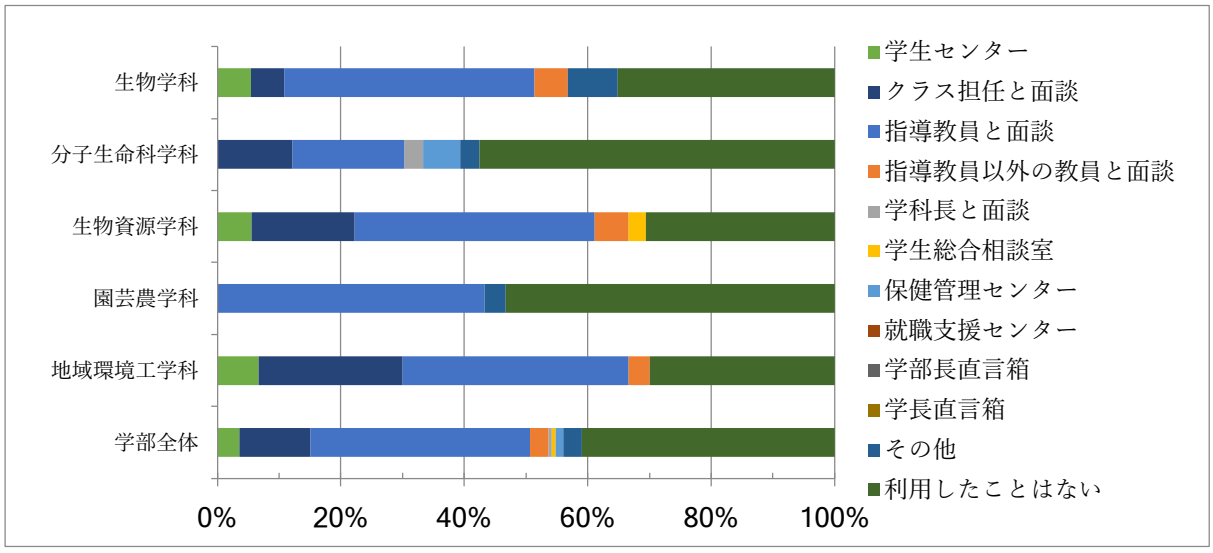


図 I－12(1). 学業に関する相談窓口

学業に関する相談の場合、学部全体では、「利用したことはない」(41%)、「指導教員と面談」(36%)、「クラス担任との面談」(12%) の順に高く、例年通りの傾向であった。学科毎で見ると、生物資源学科と地域環境工学科では「クラス担任と面談」と「指導教員と面談」の合計がそれぞれ 56%と 60%で、これら 2 学科では特に教員への相談率が高いことがうかがえた。

(2) 学生生活

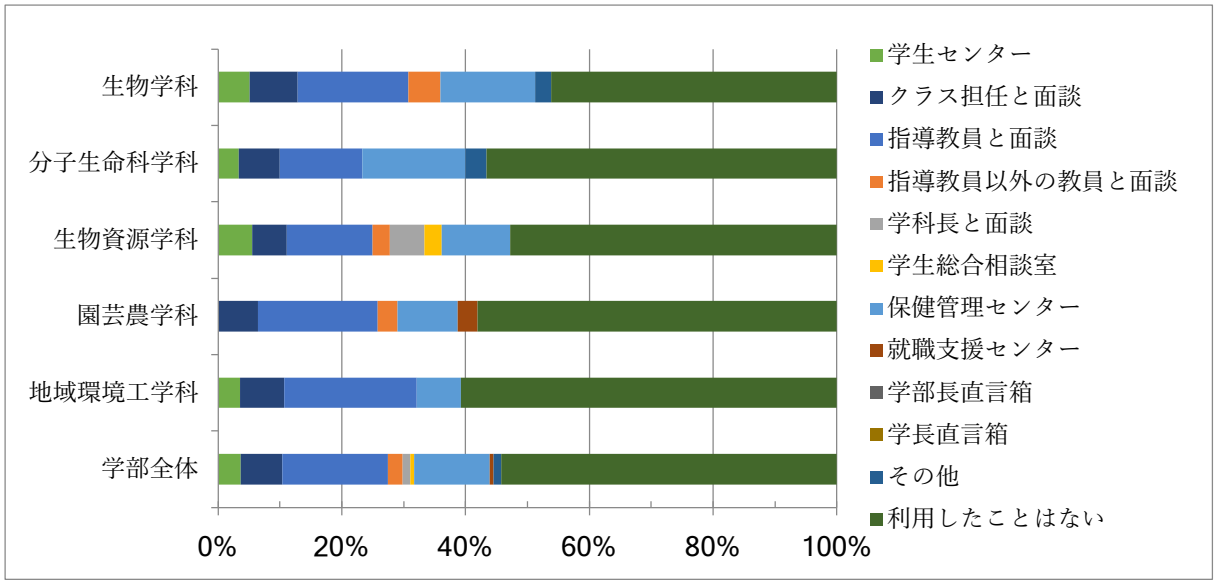


図 I－12(2). 学生生活に関する相談窓口

学生生活に関する相談の場合、学部全体では、「利用したことはない」(54%)、「指導教員と面談」(17%)「保健管理センター」(12%)、「クラス担任と面談」(7%)、の順に高かった。「クラス担任と面談」が次に多かった最近 2 年間の傾向とは異なり、「指導教員との面談」の割合が本年度は高かった。

(3) 進路

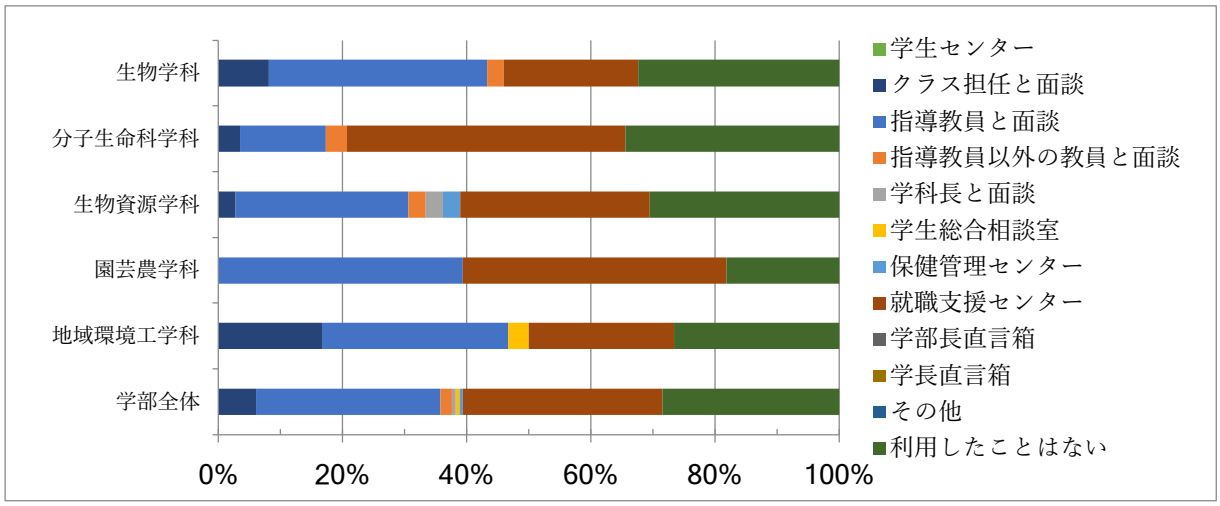


図 I－12(3). 進路に関する相談窓口

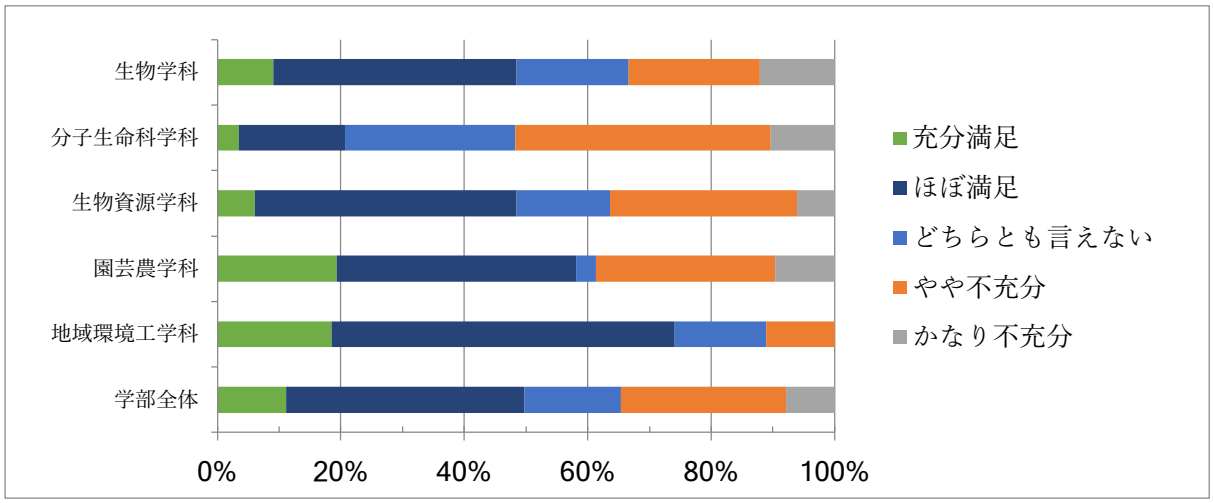
進路に関する相談の場合、学部全体では、「就職支援センター」(32%)が最も高かった。次に多い「指導教員と面談」(30%)は昨年と同様のレベルだった。「利用したことはない」(28%) は例年多いが、昨年の 36%から減少した。その他の項目に、「友人」や「農生教務」という記述も見られた。

設問 13. 本学部の以下の施設について、どのように感じていますか。

(1) 下表の該当する欄に〇を書き込んで下さい。

評　価 施　設	1. 充分満足	2. ほぼ満足	3. どちらとも言えない	4. やや不充分	5. かなり不充分
1. 講義室					
2. 実験・実習室					
3. 情報処理演習室					
4. 蔵書室（4 階）					
5. 学生自習室・学生控室（2 階）					
6. 卒業研究を行った研究室					

1. 講義室

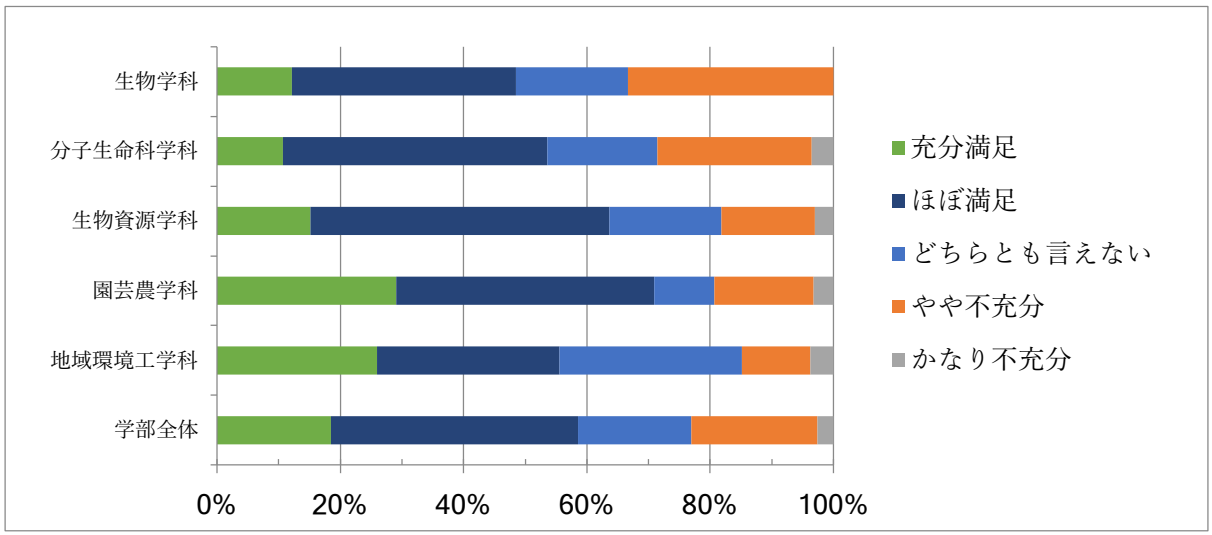


図Ⅰ－ 13(1) － 1. 本学部の施設に対する満足度（講義室）

平成 28 年度から一部の講義室に冷房設備が導入されている。その影響が現れるか昨年度に続き注目された。その結果、学部全体では「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 50%で、昨年度より 5%上昇した。その分、「やや不充分」と「かなり不充分」の合計は 35%で、昨年度から 4%減少した。したがって、本年度は満足度が不満足度を 10%以上も上回る結果となった。

設問 13(2)を読むと、変わらず講義室における夏の暑さと冬の寒さを指摘する声が非常に多い。この学年は冷房設備導入の恩恵をあまり受けていないかもしれない。現時点で農学生命科学部の多くの講義室に冷房設備が導入されてきたが、いまだ導入されていない講義室もあり、今後さらに導入を進めていく必要がある。

2. 実験・実習室



図Ⅰ－ 13(1) － 2. 本学部の施設に対する満足度（実験・実習室）

実験・実習室について、学部全体では「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 59%であり、「やや不充分」と「かなり不充分」の合計（23%）を大きく上回った。学科別に見ても多くの学科で満足

度が過半数を占めていたが、生物学科のみ過半数を割り 48%であった。

3. 情報処理演習室

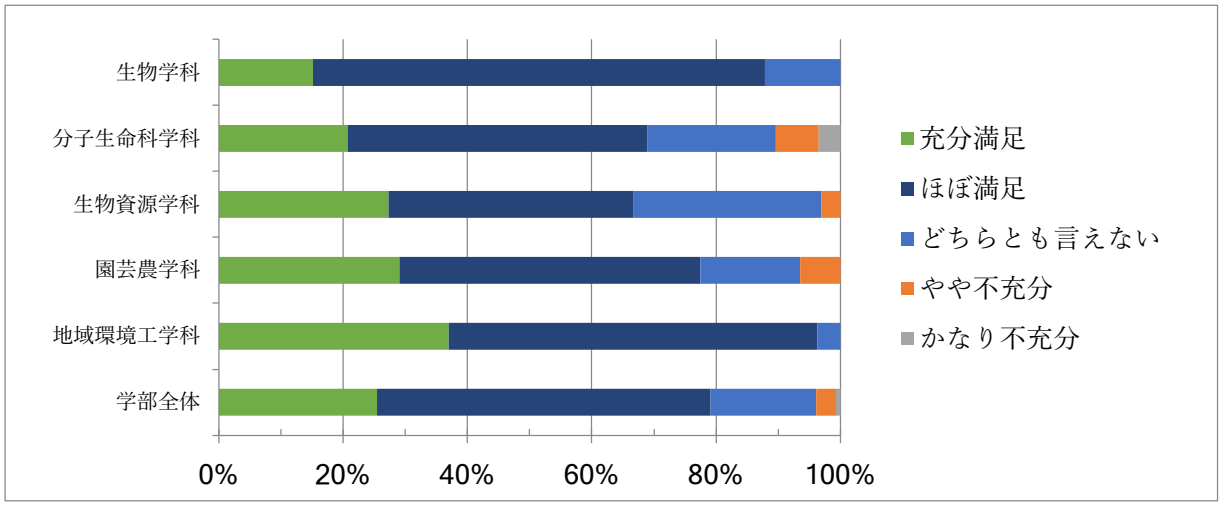


図 I－ 13(1) － 3. 本学部の施設に対する満足度（情報処理演習室）

情報処理演習室について、学部全体では「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 79%であり、「やや不充分」と「かなり不充分」の合計（4%）を大きく上回った。情報処理演習室は過去にも満足度が高く、平成 24 年度以降、「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 70～79%で推移している。満足度には学科間でやや差があるように見られるが、学科間差に年次を超えた一定の傾向を必ずしも見いだすことはできない。利用頻度のかなり低い学科もあるため、得られた値が実際に高い満足度を反映しているものかは不明である。

4. 蔵書室（４階）

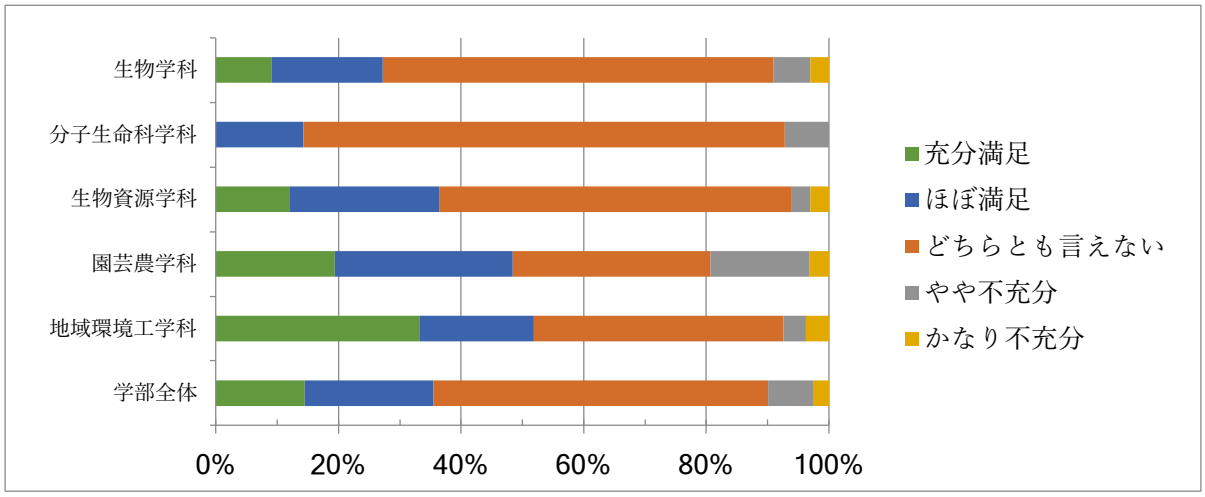
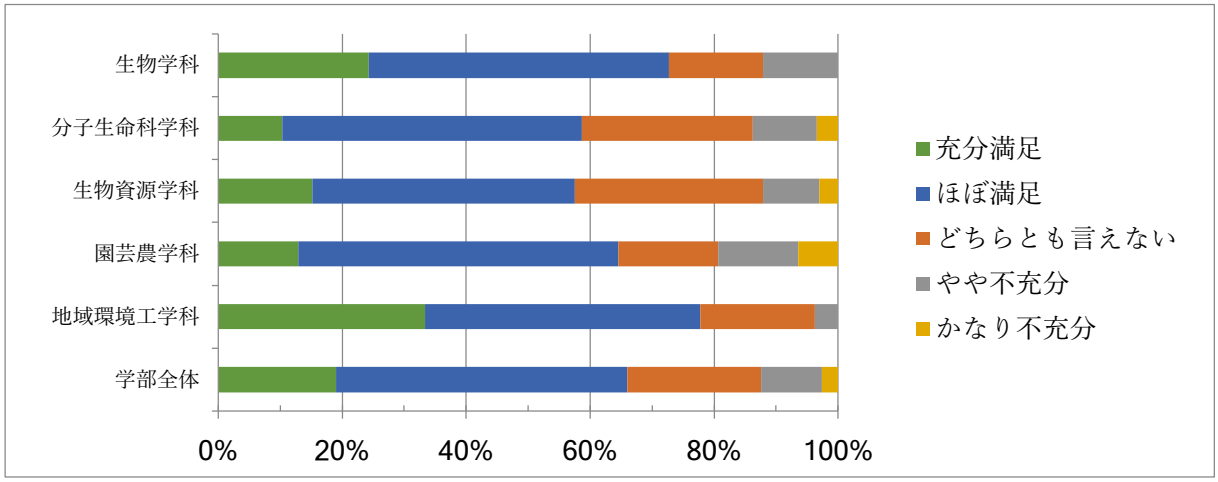


図 I－ 13(1) － 4. 本学部の施設に対する満足度（蔵書室［4 階］）

平成 27 年度に、４階に蔵書室を新設して図書閲覧室内の蔵書の大半を移設し、従来の図書閲覧室内の蔵書スペースに学生控室を設ける改修が実施された。そのため平成 28 年度からは、図書閲覧室の蔵書ではなく、新設された蔵書室の満足度を調査することとした。その結果、学部全体で

は「どちらとも言えない」が 55%で最も多かった。この割合は平成 28、29 年度の数値（56%）とほぼ同じであり、また平成 26、27 年の図書閲覧室内の蔵書スペースにおける「どちらとも言えない」の割合（47～48%）を上回った。この結果は、昨年度と変わらず蔵書室の利用が少なく、学生が所蔵図書の現状を十分に把握していないことと大きな関係があると考えられる。一方、「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 36%であった。平成 25 年度以降 27%→31%→34%→34%→34%→32%と推移してきたことを考えると、依然として改善の余地がある。書誌や雑誌の閲覧がオンライン利用に移行する中で蔵書室の利用を拡大しようとするなら、授業科目の参考図書や学部学生向けの専門図書を計画的に更新・拡充していくことが望ましい。13(2)で蔵書室に関する記述があったのは、「蔵書室は所在すら知らない」（生物学科）という意見が 1 つ挙げられていただけであった。

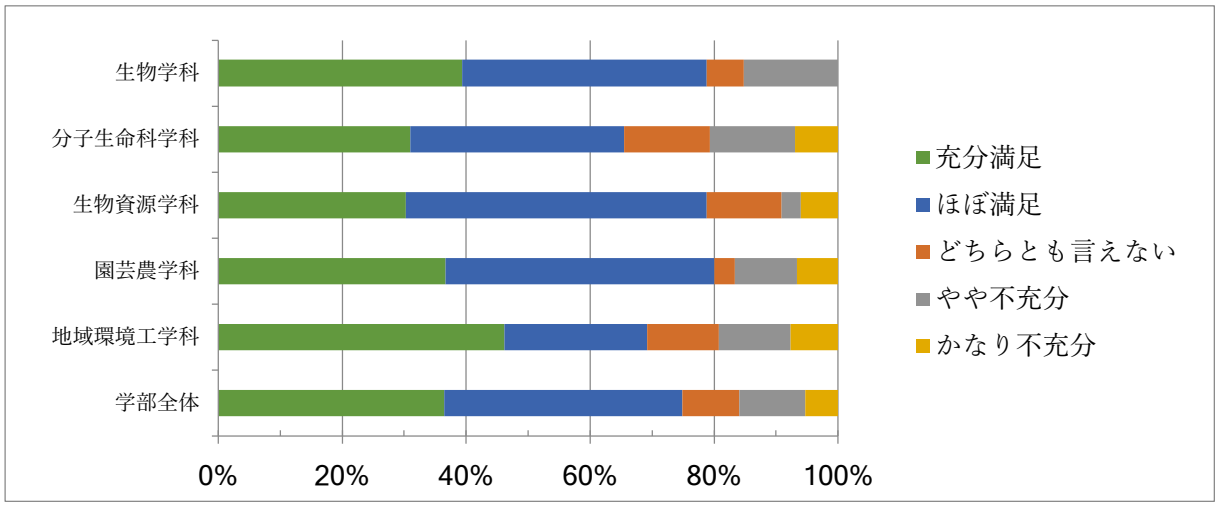
5. 学生自習室・学生控室（２階）



図Ｉ－ 13(1) － 5. 本学部の施設に対する満足度（学生自習室，学生控室［2 階］）

平成 27 年度までは図書室の閲覧スペースと所蔵図書の満足度を別々に調査していたが、閲覧スペースの利用目的の主流が自習になってきたことと、所蔵スペースが学生控室に改修されたことを受け、平成 28 年度からは「学生自習室・学生控室」として、その満足度を一体的に調査することとしている。学部全体では「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 66%で、平成 26～27 年度の閲覧スペースおよび昨年度の学生自習室・学生控室への満足度（52～57%）を上回った。また、「やや不充分」と「かなり不充分」の合計（12%）を大きく上回っている。「学生自習室・学生控室」の運用年数も積み重なってきており、学生の中で定着してきたことが考えられる。来年度以降、さらに低学年から利用してきた学年に対するアンケートの結果がさらに注目される。

6. 卒業研究を行った研究室



図Ⅰ－ 13(1) － 6. 本学部の施設に対する満足度（卒業研究を行った研究室）

卒業研究を行った研究室について、「充分満足」と「ほぼ満足」の合計が学部全体で 75%であった。平成 29 年度 70%より 5%上昇した。研究室に対する満足度が高い要因は必ずしも明らかではないが、学部改組に伴って平成 28 年度に実施された居室や実験室の再配置が学生の満足度を下げるのではという心配は無用であった。設問 13(2)では、「研究室が狭い」、「冷房設備を設置してほしい」、「学生控室がなく飲食が不自由」、「研究室の Wi-Fi 環境が悪い」等の要望や意見が記されていた。

(2) 各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

今年度は延べ 63 件の要望や意見があったが、そのうち 36 件は冷暖房に関するものであった。経年的にみても、その割合は依然、増加しており、学生の切実な要望であることがうかがえる。他方、講義室への冷房設備の導入が着実に進められているので、今後、改善していく可能性があり、引き続き経過を見ていく必要がある。冷暖房に次いで、建物内の Wi-Fi 環境の改善が多く要望されていた（分子生命科学科 1 件、園芸農学科 2 件、地域環境工学科 6 件）。その他には、トイレに関すること、廊下が暗いこと、研究室における学生の居室、講義室のイス、講義室の時計設置、プロジェクターの不調等に対する要望が挙げられていた。

【生物学科】

・廊下の電気を抜くのをやめてほしい。深夜帯の実験に支障をきたしている。これは「エコ」ではなく、「ケチ」だと思う。廊下の蛍光灯を抜くのをやめてほしい。実験に支障をきたしている。また生活する上でも危険。エコとは言わない。
・講義室に暖房だけでなく、エアコンも付けてほしいです。
・講義室へのクーラー、エアコンの設置。プロジェクターの交換・置換。
・講義室が暑い、寒い。イスが座りにくい（浅いから？）←特に総合棟。実験室が狭い。学生控室が一階だった時の方が、雰囲気が良かった。
・講義室暑すぎる。クーラーないと。小学校でもあるらしいですよ。
・コラボのエレベーター二台起動してほしい。

・卒業研究を行う場所が、夏場かなり暑く、試薬類がダメになりやすく、効率・コストが悪く、室温を一定にするような設備が欲しい。
・特になし。
・当時の実験室は狭かった。蔵書室は所在すら知らない。
・実験室にクーラーがない！
・研究室が狭いです。講義室の冷暖房が整っていない。
・実験室にエアコンが欲しい。
・講義に集中するため、また健康的に受講するためにも、冷暖房設備をどの講義室へも行き届かせてほしい。
・講義室に冷房がほしい。研究室は人数やその研究室でやっていること（動物の飼育実験など）に合わせた広さにしてほしい。
・研究室がかなりいっぱいいっぱいなので、余裕がある研究室から少しスペースを分けてもらいたい。
・特になし。
・冷房ください。
・全体的に部屋が小さかったり、利用したくても出来ない時があった。
・大きい教室にクーラーをつけてほしい。

【分子生命科学科】
・全ての教室に冷房をつけるべき。勉強の効率が下がる。農生棟全体が暗い。節電するのは良いと思うが、それだけでは実験や安全のためには不十分だと思う。
・農生棟の教室の冷暖房設備が不十分。
・トイレをもう少しきれいに、明るくしてほしいです。総合棟などと比べて全体的に校舎内が暗いので。
・Ｗｉ－Ｆｉがつながらない。
・教室、暑い⇒(夏)、寒い⇒(冬)
・講義室は夏場になると暑くなり、窓を開けていても涼しくならない。冷房をつけるなどの工夫が必要。
・清掃が不十分で、衛生的でない。
・講義室の空調設備、研究室に仮眠所（休憩所）がほしい。
・特になし。
・なし。
・冷房機器の充実。
・講義室に時計がほしい。

【生物資源学科】
・全ての講義室のクーラーを設置してほしい。
・多数の受講生が想定される授業は、極力同一時間帯に置かないでほしい（大教室 100 人規模）は二つしかなく、講義室変更も多いため。
・情報処理演習室について：保全プリンターも設置してほしい。

・講義室にクーラーがほしい。
・ない。
・講義室に関してだが、空きコマの時間(使用していない時間)に、温度調整をしておいてもらえると、講義の時に寒すぎて、集中できないようなことがなくなると思う。冬は寒くて全然集中できなかった。
・講義室⇒寒い、学生控室⇒汚い、狭い、臭い。
・製氷機は実験室ではなく、別のところに置いてほしい。
・特になし。
・まず、総合教育棟の四階の大講義室にクーラーがついていないのが一番悪い。最も夏が暑くなるのはどう考えてもそこなのに、そこにないのは如何だろうか。研究室に控室がなく、飲食への不自由が強すぎた。
・現在在籍している研究室に学生用の控室がないため、学内の部屋数に余裕があるならば、ぜひ用意してもらいたい。
・自習室の机が広いのが良かった。
・実験・実習室に関して：現在三階の学生実験室を三学科が使っているのは、あまりにも多いと思う。空き時間が少ないので、使用したい装置がある時に不便です。
・農生棟のお話→エアコンがないのでとても暑いのがつらいです。
・プロジェクターに関して、操作したことない人でもすぐにできるような分かりやすい説明書きがほしいと感じた。
・なし。

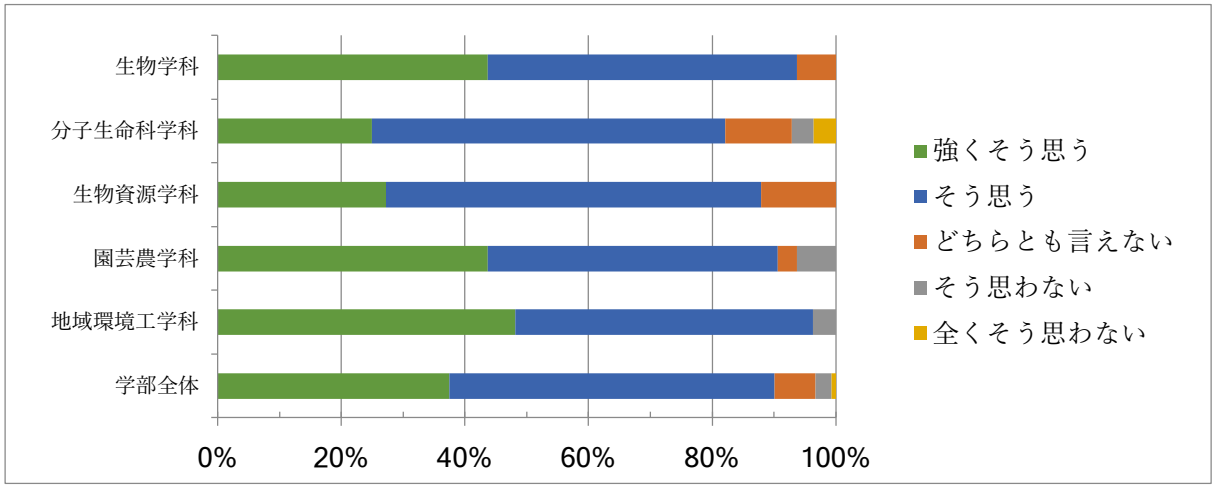
【園芸農学科】
・予算の関係で電気を節約していることはわかるが、いくらなんでも農生棟は暗すぎる。気持ちまで暗くなる。予算が増えることを願っている。
・施設全体に当てはまることだが、ゴミや消しくずが目に付いたことが多い。その度に拾ったり、集めて捨てたりしたが、学生として学ぶ環境を自ら清潔に保つよう意識づけをする必要があるかもしれないと感じた。
・特になし。
・スライド投影機の調子がおかしく、色やサイズが違うときがある。実験室やゼミ室などに冷房設備をつけてほしい。
・冷房・暖房の設置。
・土日祝の暖房がないのが不便。
・Ｗｉ－Ｆｉが届かない場所があるので、改善してほしいです。
・講義室は冷暖房設備が貧弱。飲食できる場所、24ｈ使用可能な控室、シャワー設備が研究のためには必要。
・学生控室は単純に狭いと感じた。講義室は空調があれば、みな快適に学習できると思う。また402のイスは特に硬く、腰痛持ちの自分にとってはかなり苦痛だった。
・Ｗｉ－Ｆｉが使いにくい場所があるため、改善してほしい。
・講義室にエアコンがついているのに、入るとスイッチがオフで寒かったので、休み時間や空きコマの時に、室温が大丈夫かチェックしてほしい。

・講義室が寒い。学生控室が狭い。
・暖房、冷房を充実させた方が良い(全体的に)。
・講義室・実験室が夏は暑すぎ、冬は寒すぎます。冷暖房が効かない、効くのが遅いと思います。
・研究室の冷暖房。

【地域環境工学科】
・研究室のＷｉ－Ｆｉ環境が悪い。
・研究室（425）のＷｉ－Ｆｉが届きにくいので、改善してほしい。
・三年生の時に学ぶ場所が足りないと感じた。
・暖房が弱い。
・特になし。
・クーラー付けた方が良いと思う。
・ゼミ室（425）にＷｉ－Ｆｉが届かない。論外。
・実験室を除雪してほしい。四階の部屋のＷｉ－Ｆｉがつながらない。
・なし。
・特にありません。
・Ｗｉ－Ｆｉをもっと強くして。
・卒業研究を行った研究室にいると、Hiroin Ｗｉ－Ｆｉが全くつながらない。

［卒業研究について］

設問 14. (1) 卒業研究を行ったことに満足していますか。



図Ｉ－ 14. 卒業研究を行ったことに対する満足度

卒業研究を行ったことに対する満足度は、学部全体では「強くそう思う」と「そう思う」の合計が 90%に達し、平成 26～30 年度（84%→78%→85%→84%→90%）の中で最も高い水準だった。卒業研究は本年度も好評であったことが判る。満足した理由（設問 14(2)）を見ると、研究活動を通して自己の成長を実感したり、大きな達成感を得たりする学生が多いことがわかる。満足度は全ての学科で十分に高いが、「強くそう思う」割合は分子生命科学科や生物資源学科が他の学科より若干低い。

一方で、回答した 152 人中 10 名が「どちらとも言えない」、4 名が「そう思わない」、1 名が「全くそう思わない」を選択した。その理由として、「必要最低限のことしか行わなかったため、もっとやれることがあったと感じているから。」「ギリギリに詰め込んだ印象がある。」などの時間的制約や研究成果に対する不満、「教えられた技術の量に他の同期と大きく差があった。教えてくれるということすら、教えられないことがあった。」「指導教員の指導があまりなく、期待していたような力が身につかなかったと感じているから。」「適切な指導がなかった。」など人間関係や指導体制への不満があげられていた。これらの指摘の中には、教員と学生のコミュニケーション不足に起因する事例もあるように思われる。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない
5. 全くそう思わない

【生物学科】

1. 一つの事象に対して、生物科学と情報科学の両方から取り組むという貴重な経験をしたから。
1. トラブルシューティングや問題への見方、先を見据えた行動計画は今後生きる上で必要となる能力である。ここで学べたことはプラスである。
1. 自分のやりたいことに加えて、それを学術的に発展されたものを研究できた。今後も続けたい。
1. 先生に恩返しできればよかったと思う。
1. けっこうおもしろかった。
1. 技術的に難しかったり、大変な作業もあきらめずに行うことができ、次第に楽しさに気付けたから。
1. 研究が面白かったから。
1. 指導してくださる教員のもとで、自分でテーマを決め、計画を立て、採集や実験をし、結果を出し、まとめ発信するという一連の流れの中で、一つのものに向かって努力・探求し、やりきる経験が得られ、この経験や努力の仕方は後にも活きるものだと思うから。
1. 卒業研究によって、学習面・技能面・精神面全てにおいて、良い影響を与えられたと感じ、特に四年においては、今後の人生にも通じる良い経験をできたと思えたため。
1. 物事を論理的に組み立てて考え、推測できるようになったから。
1. 自分の成長につながった。
1. 卒業研究を通して、専門的な知識以外にも多くのことを学びました。自分で計画し、調べて実行し、まとめるという作業を体験できたことがとても貴重な体験でした。
1. 自分が以前から一番やってみたいと思っていた系統の研究をすることができたから。
1. 研究内容について専門的なことを深く学ぶことができたのはもちろんだが、将来的に生かせそうな物事の考え方なども学ぶことができたため。
2. 自分が想像もしていなかったスキルや知識を身に付けることができたからです。
2. 入学前から興味のあった分野について、深く関わることができた。
2. 卒業研究を通して、座学だけでは知ることができなかった。
2. 楽しかったから。
2. 十分な指導を受けられたが、目標とするレベルの研究ができたとは思っていない。

2. 面白いと思える研究ができたから。
2. logic で考えるようになったから。
2. 論理的な思考を学ぶとともに、予想と違う結果が出る可能性があり、原因究明のための思考力を養うことができた。
2. 自分が興味のある分野ではなかったが、新しい分野の基礎から学べたことで仕組みがわかり、自分の知識が増えたことを実感できたから。
2. 興味のある分野に関して研究できたから。
2. 楽しかったから。
2. 自分のやりたいことができたから。
2. 大学で学んだことを集大成のようにすることができたから。
2. 自分で計画を立てて行ったので、時間管理能力などが身に付いたと思うから。
2. 自分で実験の計画を立て、実行し、考察を行うという力が身に付き、情報を得る能力も身に付いた。
3. 必要最低限のことしか行わなかったため、もっとやれることがあったと感じているから。

【分子生命科学科】
1. 楽しかった。
1. 編入後やりたかった研究ができたから。
1. 楽しかったです。
1. 楽しかったから。
1. 実験の技術を習得できたため。
2. 研究に関わる設備や生活を体感できたことが、就活やその後に役立つと思う。
2. 一定の成果を出すことができた。
2. 興味のある科目に携わることができて、楽しかったから。
2. 授業よりもはるかに高度な知識を身に付けることができたため。
2. 卒業研究を行うことで考察力や忍耐力が身に付いたから。
2. 大学でしか出来ない事だと思うから。
2. 大変だったけど、専門分野を学ぶことで様々な事に気付けた。
2. 微生物のことについて研究がしたかったので、卒業研究でも自分のやりたいことに沿った研究を行うことができた。
2. 楽しかったです。
2. 楽しかったです。
2. 楽しかったから。
2. 一応、大学でしたことを説明できるから。
2. ポスター賞を取れたから。
4. 教えられた技術の量に他の同期と大きく差があった。教えてくれるということすら、教えられないことがあった。
5. 適切な指導がなかった(〇〇先生)。

【生物資源学科】

1. 大学に入った意味を強く感じたため。
1. 良い経験になった。
1. 農学系の学部に入った人にしかできない貴重な経験であったと思うため。
1. 実際に商品開発に貢献できたから。
1. 締切との戦いを予習できた。
1. 社会にこれから貢献していくであろう研究に携われたことに誇りを感じたから。
1. 自分が学習してきたことを生かす場として、最適だと思ったため。
2. 四年間の学生生活の集大成であるため。
2. 卒業研究は自身が学ぶ領域に係る知識を技術の習得という側面が強く、技術面の不安を取り除くには最適なため。
2. 短い期間だが、研究に関われてよかったと思うから。
2. 大学四年間の集大成として、形に残すことができたから。
2. 講義で習ったことを実践して、結果を出すことが楽しかったから。
2. 自分の興味のある分野の研究ができたから。
2. 貴重な経験となったため。
2. 単純に実験が好きだから。
2. 良くも悪くも今までで一番充実していた。
2. 先生や友人の優しさを感じることができたため。
2. きっと将来役に立つと思う。
2. 自分が成長できたと思うから。社会に出てからも大切な知識やマナーを身に付けることができたから。
2. 最初は結果が出ず、全体の流れがつかみにくかったが、先生と話していく中で、方向性が見え、結果も出たため。
2. 担当教員が全て他の先生に投げ出した研究を行わせていたこと以外は満足した。実際やりたかった研究ができたので、文句はないけれど、自分の生徒を人に押し付けっぱなしなのはどうなのだろうか。まして、自分でその研究内容を理解していないのは論外。
2. 専門性の理解につながったから。まだまだ勉強したいという再認識につながったから。
2. 自身で能動的に動くことができて、とても楽しかったです。卒業研究を行った後に、もっと学びたいと思ってしまいました。
2. 入学した目的を果たすことができました。
2. 先生が手取り足取り教えてくださったから。
3. ギリギリに詰め込んだ印象がある。

【園芸農学科】
1. 卒業できるから。
1. 私の興味・関心に沿って、テーマを決めることができ、よく指導してもらえたから。
1. 文章を書くことは、これからにもつながると思うから。
1. 達成感が強く、自分の努力次第でいい卒論になるので。
1. 自分のやったことがすべて反映されるため、努力がそのままフィードバックされる反面、足りてない頭や文章力の足りなさも浮き彫りになったため、今後の課題も見えたから。

1. 自分の興味・関心に一年間を費やすことができ、楽しく有意義だったため。
1. 自分が興味をもっていた分野に関する研究ができたため。
1. 自分の興味のある分野だったため。
1. 大学生活における、すべての講義、学習の中で一番楽しかったから。
1. 自分の研究を考える良い機会となりました。
1. 自分の興味のある分野の研究ができたから。
1. 卒業研究を通して、実験・実習を行い、その結果を卒業論文にまとめるという経験をできたので、今後の人生に役立つと思ったからです。
2. やる気があれば、やりたい分だけできたため。
2. 卒業研究を通じて、多角的な視点が身に付いたと感じたから。
2. 信頼できるデータを現場で集めることの必要性と難しさ、データを組み合わせることで一つの主張を立証するのにかかる時間と労力及び技術を学ぶことができ、専門性を深めるだけではなく、自分の考えをまとめて論理的に説得する技術を得られて満足しているから。
2. 新たな知見獲得に、少しでも参与できたと思っているから。
2. これまで(1～3 年)の学びや考えたことを基に、自分の興味のある分野について研究することができたため。
2. 自分の知らなかった領域を研究することができたから。
2. 自分で調べて、自分でまとめ上げる力がついたと思う。
2. 完璧な論文は書けないが、やれるだけやったと思うため。
2. 物事の捉え方を学べた点でよかったと感じるため。
2. 一生に一度のことだから、経験できてよかった。
2. やりたい研究ができた。一つのことを長時間考え、まとめることができたから。
2. 大学院での研究に役立つから。
4. 指導教員の指導があまりなく、期待していたような力が身につかなかったと感じているから。

【地域環境工学科】
1. 研究について、どのような手順で、またどのようなことに重点を置くべきか学べたから。
1. その分野に強い興味を持つことができたため。
1. 指導教員からの最低限の助言や裁量があるだけで、基本的には自分が主体となって、研究が進んでいくという経験は、後にも先にも稀なことだから。研究が終わった時の達成感・やりがいは計り知れない。
1. 自分で研究を進め、論文を完成させることは、辛い時もあったが、いい経験になった。
1. 情報の収集から、物事の結果を出すための具体的な道筋の立て方など、今後の社会経験にとって、必要な準備することができたと考えているから。
1. ほぼ自分の力で行ったことで、知識が身につき、終わった時の達成感も十分に感じられたため。
1. 一つ成し遂げた気になれる。
1. 色々と勉強になったから。
1. 大学生らしさを感じた。
1. 長期に渡って、一つの事柄について研究を行ったことは、自分にとって、達成感や自信につながったから。

2. 興味のある分野の研究を行えたから。
2. 仲間と協力して、研究を達成できた。
2. 自身で調べ、まとめ、発表するという事は、いい経験になりました。しかし、就活などにおいては妨げになったところもありました。
2. 特になし。
2. 研究自体は良いが、提出(期限)をもっと早めにしてほしい。
2. 聞き取り調査をしたことで、人見知りを少しだけ克服できたと思うから。
2. 本や文献等で知識を身につける力よりも、実際に得られたデータから考察する力を身につけることができたから。
2. 長い時間をかけて完成させたので、強い達成感を得られた。
2. 粘り強く、精力的に、長期に渡って取り組めたから。
2. 多くのことを学べたから。
2. 今後の自身のための良い経験になった。
4. みんなと色々な実習をする方が楽しい。

［進路支援について］

設問 15. (1) あなたの卒業後の進路は次のどれですか。

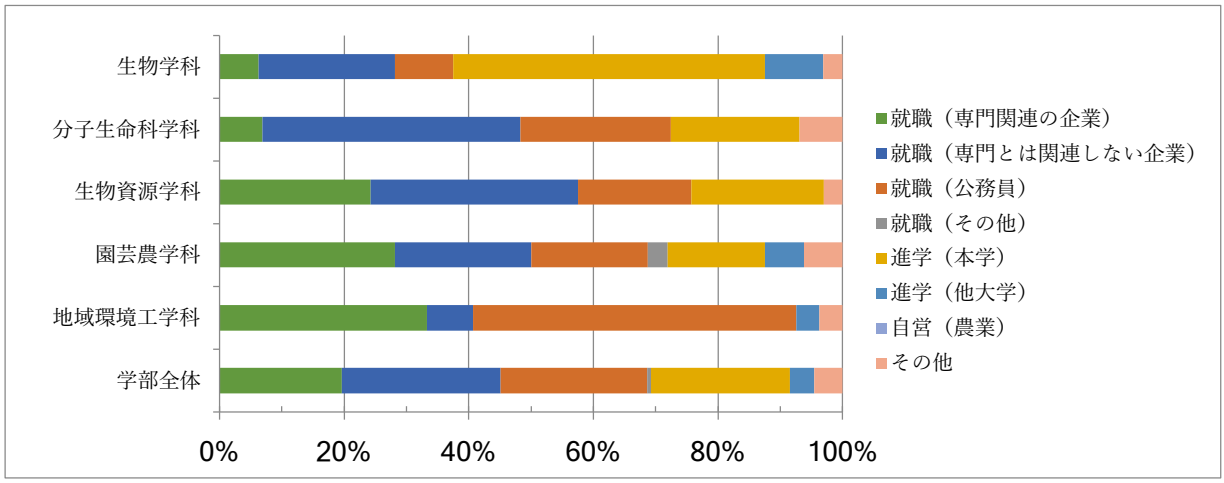


図 I－ 15(1). 卒業後の進路

学部全体では就職した者の割合は 69%で平成 26～29 年（61～73%）と変わらない傾向であった。それ以前の平成 24～25 年（59～63%）よりは高く、最近の就職に関連する好景気を反映していると思われた。進学（本学と他大学）した者の割合は 26%であり、平成 28～29 年度（31%）より 5%減少した。この値は、平成 26～27 年（21～22%）よりは増加しているが、平成 24～25 年度（29～36%）より低い値である。「専門性を高めてさらに有利な就職を目指すことができる」を PR するなどして、進学者数を高める必要がある。ちなみに本年度の他大学への進学者は 6 名であった（昨年度は 10 名）。なお、自営（農業）に進んだ者は、平成 28 年度 3 名いたが、本年度は昨年度と同様 0 名だった。

学科単位でみると、就職した者の割合が最も高いのは地域環境工学科の 93%、次いで生物資源学科の 76%であった。ちなみに地域環境工学科卒業生のうち、公務員就職者の占める割合が 52%

である。その一方、進学（本学と他大学）した者の割合が高いのは生物学科で 59%だった（昨年度 34%）。逆に分子生命科学科および生物資源学科の進学者は昨年度から大幅に減り 21%だった（昨年度は 45%および 41%）。園芸農学科の進学者は 22%で昨年度と同様であった。

(2) 本学部のカリキュラムで学んだことは、進路の決定にどのように影響しましたか。

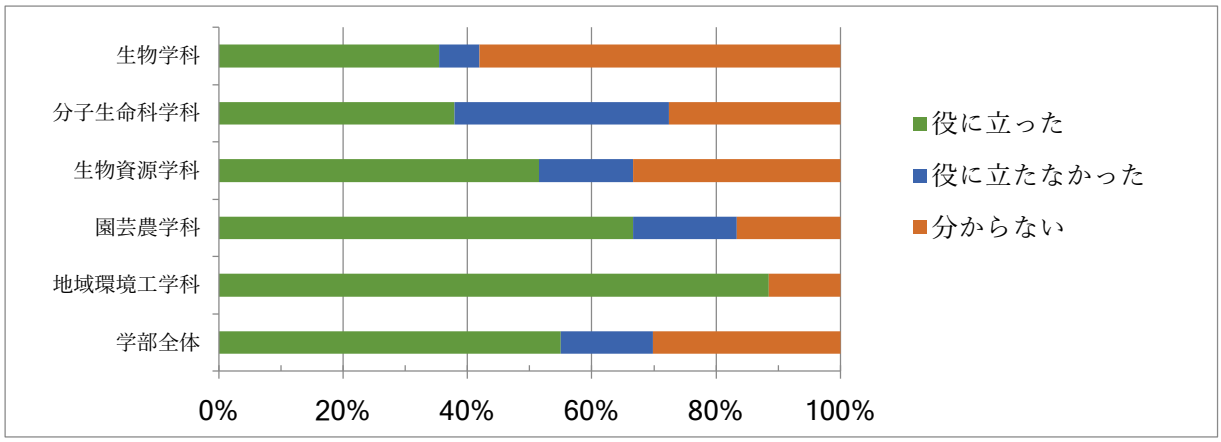


図 I－ 15(2)．カリキュラムで学んだことはどのように進路に影響したか

カリキュラムで学んだことはどのように進路に影響したかについて、学部全体では「役に立った」は 55%、「役に立たなかった」は 15%であった。「役に立った」は平成 26～28 年度には 50～59%で、昨年度は 65%だった。本年度は、昨年度より 10%減少した。

学科単位でみると、「役に立った」割合が最も高いのは地域環境工学科の 88%、次いで園芸農学科の 67%であった。このことは、両学科では専門に関連する企業に就職する者の割合が高いことと関係していると思われる。両学科に続くのが生物資源学科の 52%で、生物学科と分子生命科学科ではそれぞれ 35%、38%だった。ただし、生物学科では否定的な意見よりは「分からない」という回答が圧倒的に多い。生物学科では今年度大学院進学者が比較的多く、「役立った」というにはまだ早いという感覚を持っている学生が多いのだろうと想像される。それに対して、分子生命科学科では「役に立たなかった」の割合が全学科中で最も高かった（34%）。

(3) 本学および本学部の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。

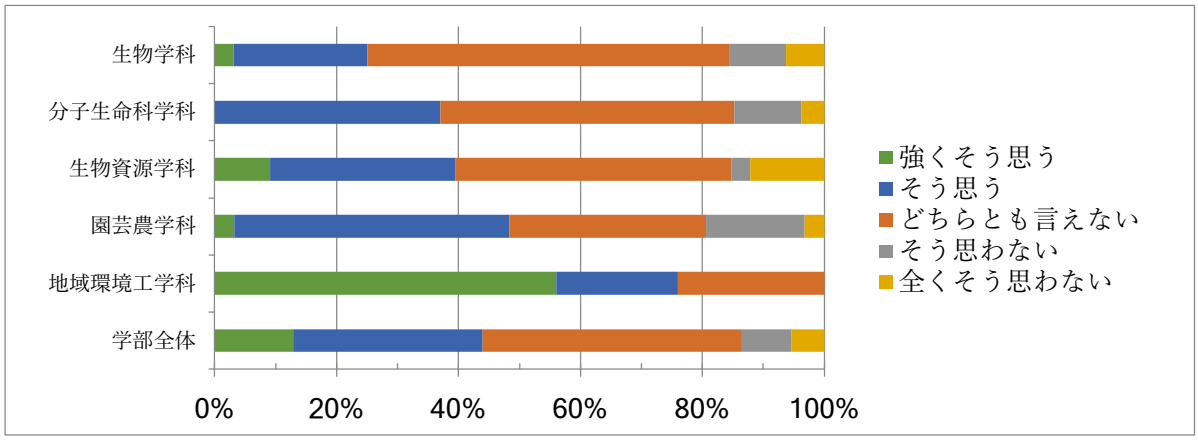


図 I－ 15(3)．本学部の進路支援の取り組みは十分か

本学、本学部の進路支援の取り組みは十分だったかに対して、学部全体では「強くそう思う」と「そう思う」の合計は 44%、一方「そう思わない」と「全くそう思わない」の合計は 14%で、肯定的評価が否定的評価を大きく上回った。肯定的評価の割合は平成 25 年度から 28 年度にかけて 32%から 4 年連続で増加していたが（平成 28 年度は 49%）、昨年度（43%）は減少に転じ、本年度（44%）は昨年度と同様であった。それに対して、否定的評価の割合（14%）は昨年度（10%）より上昇した。また設問 12(3)から、進路支援について指導教員との面談と就職支援センターを挙げる学生が多い。教員の個々の取り組みとともに同センターの取り組みが経年的に評価されていると思われる。

学科単位で見ると、「強くそう思う」と「そう思う」の合計は、最も低い生物学科では 25%であるのに対し、最も高い地域環境工学科では 76%に達しており、学科間で評価の差が著しい。また地域環境工学科では否定的評価がなかった。設問 12(3)より、地域環境工学科では進路についてクラス担任や指導教員に相談する割合が他学科より多い。地域環境工学科の高い評価には、就職を志向する学生の多さに対応して、教員のきめ細かな指導体制がうまく作用していることが反映していると思われる。

[本学部の教育のあり方について]

設問 16.（1）あなたが本学部を卒業するに当たり、大学卒業者に相応の知識や学力を身に付けたと感じていますか（大学卒業者に相応の知識・学力は自分のイメージしたもので結構です）。

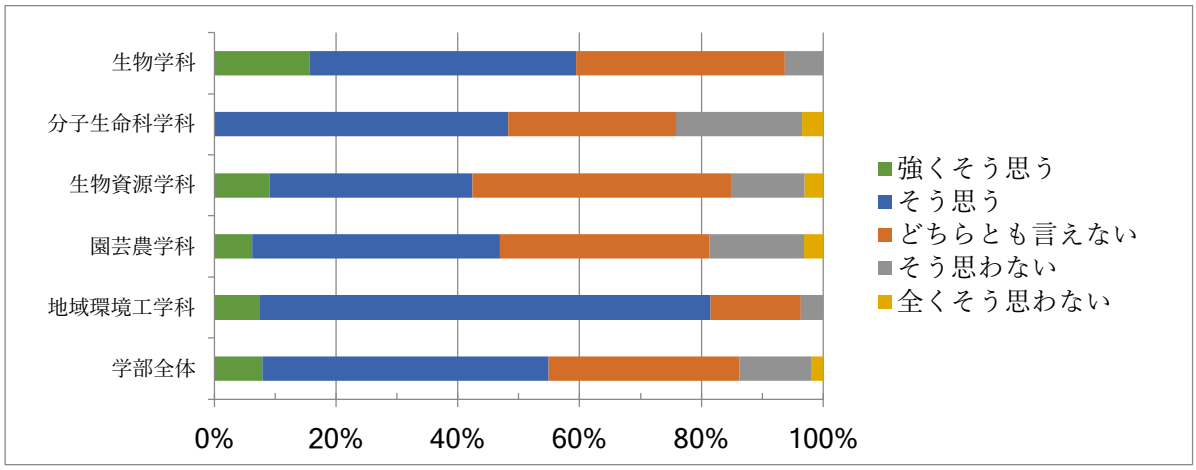


図 I－ 16. 大学卒業者としての知識や学力を身に付けたか

大学卒業者としての知識や学力を身に着けたかという設問に、平成 28 年度から「大学卒業者に相応の知識・学力は自分のイメージしたもので結構です」という但し書きを付け加えている。その影響かどうかは明らかでないが、平成 28 年度には「強くそう思う」と「そう思う」の合計が 52%まで増加し、昨年度さらに 56%まで増加し、本年度は昨年度と同じ程度であった（55%）。「そう思わない」と「全くそう思わない」の合計（14%）は過去 4 年間と同程度であった。否定的評価の理由を設問 16(2)から探ると、昨年度同様で、勉強不足に対する反省、学んだ知識を忘れてしまった反省、修得した知識が社会で役立たないことへの不安、一般常識が身についていない不安などが挙げられている。

学科単位でみると、地域環境工学科において「強くそう思う」と「そう思う」の合計が昨年度

同様に非常に高く 81%に達した。次いで生物学科で 59%であった。残りの 3 学科は 42%～48%の範囲であった。分子生命科学科で「強くそう思う」と答えた学生はいなかった。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない
5. 全くそう思わない

【生物学科】

1. 専門性の高い生物実験を行い、生物学を深く知ることが目的だったため、それを達したと思われるから。
1. そこらの人よりは専門分野にくわしいから。
1. 大学卒業者における学力は探究力であり、知識は専門性だと考える。どちらも身に付いたと思う。
1. どの講義にもまじめに取り組んだから。
1. 入学前と後では、考える力がまるで異なる。
2. 世の一般人達には知る機会がないであろう生物科学の知識を得ることができたと思うから。
2. 私の考える大学卒業者は、自分の知識を元に意見を論理的に述べることだと思うので、そういう意味では少しはそういう力が付いたと思う。
2. 研究で専門的なところを学んだため。
2. 授業から卒業研究まで、カリキュラムがしっかりしていた。
2. 専門的な知識に関して、高いレベルの指導を研究室において、していただき、自分の中での大学生としてのレベルに十分届いたと感じたため。
2. 何かを決定する前に考え、必要があれば相談することができるようになったから。
2. 課題や授業には、しっかり取り組んだから。
2. 本学部の先生・同期に恵まれて、高めあいながら学ぶことができたから。
2. 実験に取り組むこと、他では身に付けられない能力が少しでも身に付いたと思う。
2. 専門知識や研究はもちろん、その他の教養の授業に参加でき、多くのことを広く学ぶことができたから。
2. アルバイトなどをしていて、他の人と接しているとその様に感じるため。
3. 研究面では向上がみられたかもしれないが、社会の仕組みなどに対しては疎く、まだまだ学ぶ必要があると感じたからです。
3. 設問 7 と同様。もっと高度な内容を学部で学びたかった。1、2 年は高校の復習に毛が生えた程度に感じられた。研究を始めてからは満足。
3. どのくらいが相応なのか、判断しかねる。
3. 知識や学力を身に付ける機会はたくさんあったが、自分が意欲的に取り組まなく、あまり身に付かなかったため。
3. 特になし。
3. 一般教養について知らないことが多い(マナー等)。また受ける企業によってレベルが違う。大企業であればあるほど身に付けてないと感じる。中小であれば十分に身に付いたと感じる。
3. 特になし。

3. 3、4 年の間で使わなかった知識に関しては抜け落ちているように感じたため。
3. 自発的に動くという力は身に付いたと思います。
4. 自分よりも熱心に研究を行っている同期が多数いるため。
4. 自分はまだまだ勉強が足りていないと思うから。

【分子生命科学科】
2. 学部卒の就活生の中では、比較的高い専門性を身に付けていると感じた。他大学の学生に比べ。
2. 大学生らしい品性が身に付いた。
2. 卒業研究を通して、大学で身に付けた知識が活かされ、うまくまとめることができたから。
2. 専門的な知識はかなりついたと思うため。
2. 今までの学習において、知識や学力を高めることに努め、相応の力をつけてきたから。
2. 少しは専門的な知識が増えたと思うから。
2. 大学卒業者として、高校以上に専門的な分野の知識が身に付けられた。
2. 学んだから。
2. 学ぶことができたから。
2. 基礎を学べたこと。
3. 卒業する際に必要な知識を表面的に覚えただけのようにも思えた。
3. 他の学科よりは、学力が得られたと思うが、自分の学科内では、あまり学力を身に付けられなかったと思ったから。
3. 専門性は高まったといえる。
3. 専門分野の学力は確かについたが、専門外の知識は落ちたと思う。
3. 社会に出てみないとどんな知識が役立つか分からない。
4. 弘前大学だから。
4. もう少しできたのではないかという気持ちがあるから。
4. 一度学んでいても、忘れている内容が多い。英語をもっと勉強しておけばよかったという後悔。
5. 専門以外の世界に行ったため。

【生物資源学科】
1. 就活・アルバイトを通じて。授業というより大学生活。
2. 論理的な思考力が入学前に比べて、上がったと実感したため。
2. 在学中は、大学の持つネットワークのより専門外の分野に触れる機会が多いため、それらを駆使して、大学人たる教養を身に付ける事ができたため。
2. 高校よりも専門的な知識を身に付けることができたから。
2. 研究室内での経験の多くが社会で活かされるものだと思うから。
2. 資格を取るために、人よりも多く講義も取っていて、その都度勉強していたため。
2. 専門性の取得には、まだまだ勉強が足りていないが、全体の理解にはつながったと思うから。
2. 専門書を抵抗なく、読めるようになったから。
2. 会社の同期との会話や、就活時の面接で困らない程度の知識は得ていたから。
3. もっと最初から真面目に取り組んでいればよかったと後悔しています。
3. より多くの知識を身に付ける事ができたと思われるため。

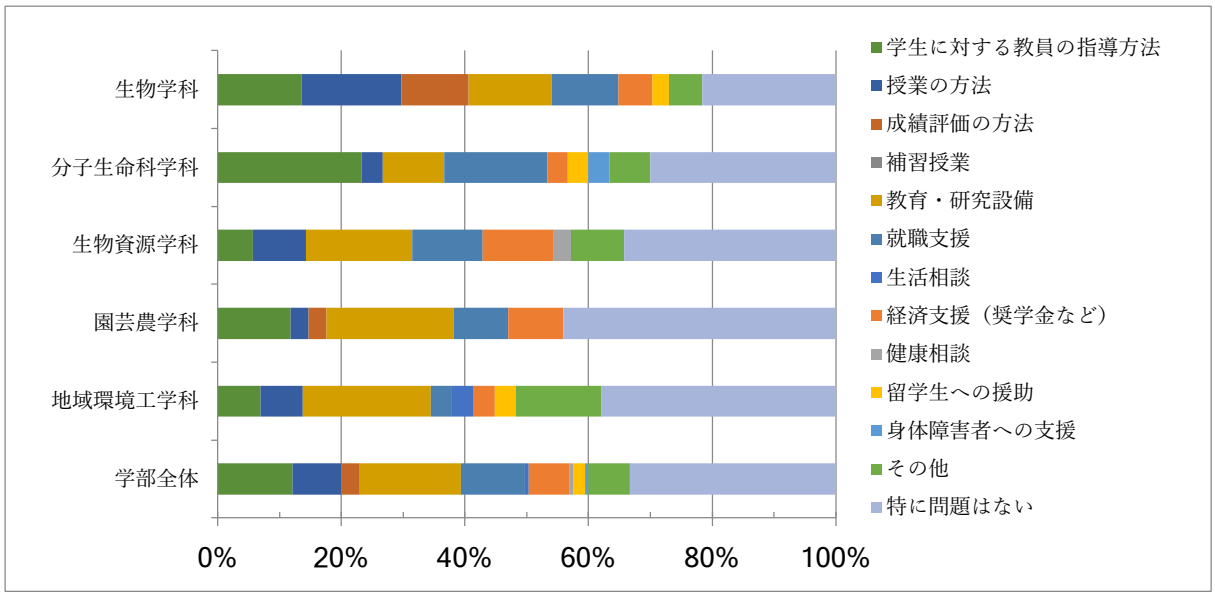
3. 研究内容のことは勉強し、知識を身に付けられたが、それ以外のことに関しては、全くと言って良いほど、覚えていないため。
3. あまり学業に熱心に取り組めなかったため。
3. 知識・学力は身に付いたと思うが、実際に社会に出てみないと分からない部分もあるから。
3. 何が相応なのかもよく分からない。ただ自分の興味に従って学べたことは、満足である。
3. 学位は卒業できる程度に取得はしたが、知識として身に付いているかは疑問が残るため。
3. よくわからない。
3. もとの頭と精神レベルにあんまり成長が見られない。モンキーなので、賢くなった感じはないです…。知識は詰まりました！！
3. だらけてしまいました。
3. 授業の内容を覚えているかと言われたら、そうではない。
4. 個人の問題だが、もっと社会性を身に付けたかった。
4. 勉強が足りなかった。
4. 必要最低限のことは学べた。
4. 自身の勉強が非常に効率が悪く、不足が多いと思う。

【園芸農学科】
1. なんとなく。
1. 自分の専門とする研究ができたから。
2. 様々な事を学べたから。
2. 進路にも役に立つ知識があったから。
2. 四年次の卒論作成で、様々な企業や人に対して調査を一人で行い、社会人になる前にいい経験をすることができた。自信がついた。
2. 内定をもらえたため。専門の話を他学部の人に説明して、理解してもらえたり、興味を持ってもらえたりしたため。
2. テスト勉強でやったことを覚えているため。
2. 教育目標では、達成されたと感じるから。
2. 文章を書いたり、プレゼンすることによって、社会人スキルを身につけることができた。
2. 入学する前の時より、挑戦するということができたため。また興味のあることをすることができたため。
2. 講義や実習で、専門知識を学んだことや卒業研究での発表を通して、プレゼンテーション能力を身につけることができたと思うからです。
3. 自分では身に付いていると思っても、判断するのは周りなのだから、どちらとも言えないと感じた。
3. とりあえず学んだという感覚が大きかったため、しっかりと定着したようには思えなかったが、興味のある分野は良く学べたため。
3. 高卒の友人と比較しても、明確な知識や学力の差が感じられないから。
3. 個人的には知識や学力が不十分であると思うが、客観的に見れば、大卒者程度であると思うから。
3. 自分の研究分野については、相応の知識を身に付けられたと感じている一方、カリキュラムを

通して学んだ講義の内容全体については、十分に身に付いてはいないと感じるから。
3. 労力には個人差があるため。
3. 期待していたよりも実験技術が身につかなかったため。
3. 国立大学農学部の卒業生には、農学の幅広い知識があるイメージを持っているが、私は決して幅広い知識を身につけられたとは言えないため。しかし、自分が専門にして学んだ分野でいえば、それ相応の知識・学力は修められているように思う。
4. 自宅であまり勉強しなかったから。
4. 自分のゼミや卒論に関連する内容以外の多くは忘れてしまったため。
4. 知的好奇心を失い、大学卒業資格がほしいだけの状態になってしまったため。
4. もっと学べることがあったと思うから。
5. 専門知識を、それを持たないものにわかりやすく伝えたり、実社会に役立てる必要があると思うが、自分はまだその水準に達していないため。

【地域環境工学科】
1. 知識を詰め込むばかりだった高校の頃とは違い、応用する力や実際に働く力を養うことができたから。
2. 研究室に配属後、自主的に本を読んだり、英語学習に取り組んだから。
2. 水理学に苦手意識を持っているが、構造力学などについては、よく理解できた。
2. 知見は広がったと思います。人前で発表したり、グループをうまく回したりといった場面から、人間的にも成長できました。
2. 知識の吸収、学力の習得は自分次第だという事とそれに対する向上心・興味も必要。それを講義等で提示してくれているおかげで自分の知識の幅の広がりを経験できたから。
2. 専門知識を得たから。
2. 公務員試験やインターンの際にそう思った。
2. ほぼ十分身につけられたとは思うが、苦手な分野に関しては、不十分であったと感じているから。
2. 得た知識は十分であったが、忘れたことも多い。
2. 就職のために必要な最低限の知識を得られたと思うから。
2. 入学前はわからなかった専門知識や考え方を理解できたり、自分なりの考えを持てるようになったから。
2. 知識を得ることができたため。
2. そのくらい勉強してきたから。
2. 就職後にも活かせる知識を得たため。
2. 専門科目以外にも多くのことを学んだから。
2. すぐに活用できる内容だと思うから。
3. 学んできたが、自信はない。
3. 質問の内容があまり理解できなかった。
4. 今の知識だけで、社会人として働けるイメージがわかないから。

設問 17.（1）本学部の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を、次の項目の中から一つを選んで下さい。



図Ｉ－ 17．本学部の教育活動の中で最も早急に改善すべき点

学部全体でみると、選択肢の中では「特に問題は無い」が 33%で最多であった。平成 26～29 年度も「特に問題はない」が最多で 38～41%を占めている。早急に改善すべき点として選択された上位 5 項目は、学部全体でみると「教育・研究設備」（16%）、「学生に対する教員の指導方法」（12%）、「就職支援」（10%）、「授業の方法」（8%）、「経済支援（奨学金など）」（7%）であった。昨年度「成績評価の方法」が上位 5 項目に含まれていたが、それを除けば過去 5 年間をさかのぼっても、挙げられる上位 5 項目についてはそれほど変化がない。特に上位 2 項目はずっと変わらず挙げられている改善点である。

学科別に見ると、「成績評価の方法」は生物学科で 11%（4 人）あったものの、園芸農学科にわずか 3%（1 人）あったのみで、他の 3 学科ではない。分子生命科学科では「学生に対する教員の指導方法」の割合（23%）が他学科よりも高い。それに対して、生物資源学科や地域環境工学科では、「学生に対する教員の指導方法」の割合が低く、6～7%である。記述欄でも厳しい意見が見られるので、注意を要する。特に、研究室による教育の質の差、教員による学生のえこひいき、指導の放棄と受け止められるような発言や態度を指摘する声が目立った。

平成 28 年度は「学生に対する教員の指導方法」や「授業方法」に対する要望や不満の中に、自分自身が指導教員のアカデミックハラスメントを受けたと訴えるものが２件、周囲にアカデミックハラスメントがあることを訴えるものが２件含まれていた。今年度のアンケート結果でも、直接的に訴えているものが少なくとも１件あった。「学生に対する教員の指導方法」に関して改善を求める表現は十分に強いものであり、今年度のアンケートでも挙げられた学生の訴えについては真摯に受け止めなければならないと思われる。また、出席の取り扱い、試験の形態や評価基準、成績開示の方法などへの要望が見られたが、一方で現在の教育カリキュラムに満足している学生も多いことにも留意する必要がある。

「教育・研究設備」に関する具体的な要望としては、冷暖房設備、研究費用や研究室の設備やスペース、研究期間の短さに対するものがあった。特に、体調の不調を訴えるほどに空調設備に

対する要望が強まっていることには、了解していなければならない。

「経済支援（奨学金など）」については、奨学金関連の掲示は関心が高いので目立つように、お金に関係することだから窓口対応も丁寧にしてほしい、という要望のほか、授業料免除の基準に関する意見が寄せられた。

「就職支援」に対しては、本学部における就職支援情報の少なさ・不十分さ、OB や OG の紹介に対する要望が挙げられていた。

(2) 上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい。

1. 学生に対する教員の指導方法　2. 授業の方法　3. 成績評価の方法　4. 補習授業
5. 教育・研究設備　6. 就職支援　7. 生活相談　8. 経済支援（奨学金など）
9. 健康相談　10. 留学生への援助　11. 身体障害者への支援　12. その他（　　）
13. 特に問題は無い

【生物学科】

1. 学生を放置している教員がいたので、そういう教員には研究室に学生を入れないで欲しい(〇〇研)。
1. 三年次以降、配属された研究室によって学生の将来が危ぶまれる場合が見られ、学生からの報告があれば、調査して正しいペナルティを課す必要があると思う。
1. 熱心で優しい方が多いとは思いますが、指導に問題があり、学生が苦労しているという話も耳にします。そういった方に対しては改善が必要と思います。
1. 様々な指導方法があるのはいいが、〇〇先生のは、指導とかの問題ではない。
1. 一部の教員の指導力には疑問を感じる。その研究室の学生が成長できているとは到底思えない。
2. 学生にはもっと高度なことを要求してよいと思う。一年次のカリキュラムで専門性の高い課題を加えてよいと思う。実験とレポートとか。一般教養は大事で必要だと思うが、生物学科なら生物系の科目については、今の二年生レベルを求めても問題ないと思う。
2. 教員によるばらつきが大きく、良い教育を受けられる分野とそうでない分野に分かれてしまっているため。
2. プリントを配ってただ話をするだけの授業があったので、もっと工夫してほしい。
2. 学芸員の授業が必修と被っていて大変だった。授業間で内容が被っていることが多くあった。
2. 理系の生徒にも学芸員の資格を取るための授業を受けやすいようにカリキュラムを調整してほしい。
3. 出席で単位出さないのやめてほしい。
3. 特になし。
3. 評価というより成績の開示方法をもっとＨＰでも見れるようにしてほしい。
5. 実験室にクーラーがない！
5. 講義室に冷房がほしい。研究室は人数やその研究室でやっていること（動物の飼育実験など）に合わせた広さにしてほしい。
6. 就職に対しての情報が少ない→自己分析、企業の選び方等。関東までの移動費が足りない→都内の合同説明会は本当に行った方が良いと思う。

6. もっと生物業界と連携をとって、就職後も役立つ知識を身に付けたかった。専門的知識を国立大学で学べたらいいのにと感じた(動物の世話など)。生物関連の企業への支援もほしかった（動物園や水族館にも求められる人材育成をお願いしたいです)。

【分子生命学科】

1. 態度が悪い。
1. 威圧的な授業をする先生がいる。その先生の機嫌によって、授業の雰囲気が決まる。
2. パワーポイントのスライドの内容をだらだら説明するのではなく、メリハリのある講義を行ってほしい。
2. 研究室を選ぶ前に全先生の授業を受けれるようにすべき。
5. 講義室の空調設備。
5. 人口密度が高いと夏は冷房がほしい。
5. 冷房機器の設置。
6. 大学全体の就職支援においてはキャリアセンターがあるが、農生に特化した情報を発信している窓口はない。もしくはあっても知名度が低いと感じる。
6. インターンの情報などが人文社会学部に比べて、劣っている気がする。
6. インターンシップに関する情報や就職全般の情報にもっと早い段階で案内するようにしてほしい。
11. 今はいいのかもしれませんが、大きな教室（402 など？）は、席に着くのに教室の前から入るのも後ろから入るのにも階段があり、車いすの人には不便に思う。それに 4 階はエレベーターを使っても 402 を通らないと行けない場所もあると思うので、大変だと思う。
12. 紙媒体のみでなく、他大学と同様にインターネット上で開示できるようにするべきだと思う。
12. 留学のカリキュラム導入をもっと早くにやってほしかった。考えるきっかけになったかもしれない。

【生物資源学科】

1. 新しく赴任された先生には、立ち上げの時間が必要であると思います。何もない状態で学生を持つのは先生・生徒双方に負担がかかると思います。
1. 卒業研究と就職活動と両立させること。
1. もっと手厚く指導されたら、やる気がわくかなと思いました。
2. 一つの講義の範囲が広すぎるのと、似たような授業が多すぎるので、範囲を狭くして、内容があまり重複しないようにすると良いと思う。またその場合、1 の単位を取得したら、２を受けられるみたいにして、進んでいくと、より理解が深まると思う。
5. 教育活動に直接関係するものではないが、機材不調や蛍光灯切れが放置されている場面が散見されたため、校舎の保守管理面が十分とは言いづらい。
5. 全体的に夏は暑く、冬は寒い。
5. 研究費用がいらないところに流れすぎている。友人と研究室内情について話をしたが、なぜ自分の研究室よりも数倍必死に毎日研究をしている所の方が予算が少ないのか。色々と精査すべき評価ポイントがあると考える。
5. 実験器具の整備。

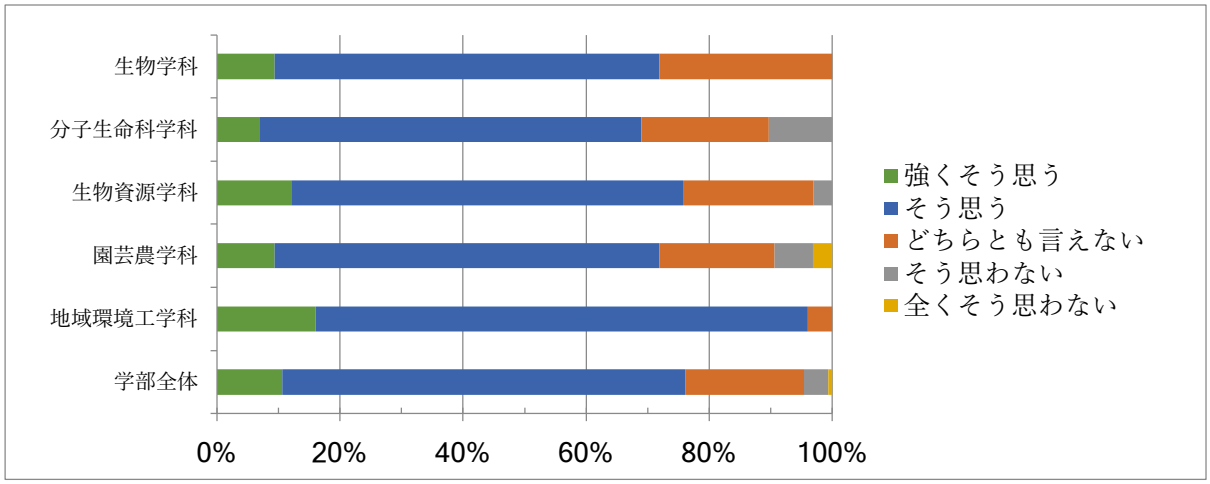
5. 時計置いた方がいいと思う。
5. 研究室について：学生の部屋はいくつかの研究室で合同にして構わないので、教員個人の部屋に実験室を確立すべきだと思う。
6. 就職活動前の準備をもっと厚くした方が良い。「定員に達したからできなかった人」をなるべくゼロに。
6. キャリアセンターでの活動は意味がない気がしました。研究室の先生はとても相談にのってくれました。
6. 就職については、総合棟にある就職支援センターのイメージが強いので、農生らしい就職先や進学先に関してのアナウンスやイベントがあるとうれしいです。
8. 自分が悪いのですが、途中から免除の基準が変わってしまい、免除が受けれなくなり、生活が困難になりました。
8. オカネ厳しかった。
12. 最近になり、分野が大きく異なってきており、どの分野を研究するにしても、十分な知識がない状態で研究室に入り、とても苦労した。食品関係と遺伝子生物関係は、学科を分けるべきだと考える。

【園芸農学科】
1. 農学生命科学部園芸農学部の〇〇先生のアカハラ・パワハラ的指導は、どこに相談すべきですか？更なるパワハラが怖くて、既存の機関へ相談できません。助けてください。
1. 卒業研究の指導にもっと力を入れてほしいです。
1. 私自身は特に影響なかったが、特定の生徒へのあたりが強い先生がいた。
2. 聞きづらい、わかりづらい授業もあるため。
5. 農生棟は暗く感じます。
5. 暗い。
5. 前項で述べた講義室のイスはほぼ全員がそう考えていると思う。
5. 研究室が狭い。
5. 暖房、冷房施設がない。
6. 「農学」にとらわれない進路の選択肢の提示を分かりやすくしてほしい。
6. 1～2 年のガイダンスに就職ガイダンスが加わると良い。
6. 公務員講座（農学職）の専門科目の講義を農学生命科学部内でやってほしいです。（生協の公務員講座は、行政しか専門科目をやっていないため。）
6. 関東圏への就職活動が肉体的にも精神的にも大変だと感じた。
8. 自分は奨学金なしで大学に通えたけど、周りがみんな借りていて驚いた。将来有能な人が借金背負わなければいけないのはおかしい。大学生という人材をムダにしていると思う。

【地域環境工学科】
2. 人によると思いますが、授業を進めるだけで理解を促さないと感じることがあった。
5. 農生棟四階のＷｉ－Ｆｉがマンボウよりも弱いので、作業に支障があった。
5. Ｗｉ－Ｆｉ。
5. Ｗｉ－Ｆｉが届かない。

5. Ｗｉ－Ｆｉをもっと強くして。
5. HiroinＷｉ－Ｆｉを使えるようにするか、それが無理なら農生独自のＷｉ－Ｆｉを準備してほしい。
5. 出来れば、冷房の整った教室で講義を受けたかった。
5. 実験棟は使いやすいとは言えず、さらなる研究成果のためには、改良してほしい。
6. 総合教育棟にキャリアセンターはあるが、実際には都合がつかず、挙句若干距離があるので足を運ばない。また掲示板のみの案内のみだけではなく、データ（進路状況、試験や面接の体験等の記録）を学部棟にも設けてほしい。
8. 仕方のないこととはいえ、学生への今後の負担が大きい気がする。
12. 留学生との交流が、理系方面にまで行き渡っていないイメージ。
12. 教授は研究に興味をもって、ゼミを選んでほしいと思っているようですが、研究と就活との兼ね合いに苦しんでいる学生も多いと思います。いつ活動するのか、時期はずらせるか等の情報もオープンにしてほしいと思いました。
12. 発表を実際に行って、聴いて感じたが、圧倒的に時間足りなく、研究したことの半分も理解してもらえたかどうか…。したがって、ブース形式での発表を行うか、二日に分けるなどして、双方納得のいく発表会にしたい。

設問 18.（1）総合的に判断して、本学部・学科の教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。



図Ｉ－ 18. 本学部・学科の教育・研究に対する取組み・姿勢に満足か

本学部・学科の教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますかという設問に対して、学部全体では「強くそう思う」と「そう思う」の合計が76%で昨年度と同じであった。「そう思わない」と「全くそう思わない」は5%（昨年度6%）に過ぎなかった。 平成26～28年度において肯定的評価は72～73%、否定的評価は4～8%で推移していることからみると、平成29～30年度では肯定的評価が微増したことが分かる。

学科別にみると、肯定的評価の割合が最も高いのは地域環境工学科で（96%）、その他の学科では69%（分子生命科学科）～76%（生物資源学科）の範囲であった。生物学科や地域環境工学科では「そう思わない」と「全くそう思わない」という否定的評価がなかった。教育・研究につい

て、設問17であげられたような不満もありつつ、でも総合的には満足している、とする学生が多いと認められる。

(2) 上記のように回答した理由を記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない　5. 全くそう思わない

【生物学科】

1. 白神山地やリンゴ栽培に関連した研究も積極的に行っており、地域に根ざした学部・学科だと思う。
1. アツいパッションを持った先生方がいて、その人たちが私たち学生のために熱心に指導してくださったり、社会に出てからのことも案じ、頑張れよと背中を押してくださるから。
1. 大学生活四年間を振り返り、特に不満に思う点がないため。
2. 変な教員も多少いるが、その他の多くはしっかりとした研究者としての熱さがあり、刺激を受けることができたから。
2. 興味あることに取り組むことができ、少しながら成長したと感じたからです。
2. 特に生物学科については、他学部・他学科よりも早く研究室に配属され、より研究に打ち込むことができる点。
2. 今までの総括だから、理由はない。
2. 特になし。
2. なんだかんだ楽しくここまで来られたから。
2. 研究とはどうあるべきか、どういう人間として育ってほしいかは伝わってきた。ただ、全員がそれを理解できているとは思わない。
2. カリキュラムはよく理解できるように計算してあり、とても良いと思います。しかし、卒業後については、少し無関係であるような姿勢があると思います。
2. 研究については自分から行うものであるので、そういった面で考えれば十分である。しかし、都内の大学に比べ、情報が少ない。国立という付加価値を生かし切れていない。
2. 生物の知識がしっかりと学べた。研究についても院に行く人はこの学科は本当に多いと思うので、そのように意欲をつける取り組みもされているのだろうと感じた。
2. 学部・学科としての研究の方向性が、私にとってあてはまりが良く、特に所属する研究室でも取り組みは非常に意欲的に臨めたと思うため。
2. 興味のある分野の知識を深められたから。
2. 満足する研究ができたため。
2. 研究について学べたから。
3. 教育に満足している一方で、以前から問題となっているような教員や講義に対しての対応が目に見える形で表れていない。
3. 全体的に少し甘いのでは。他大(北大とか)と比べると求められるレベルが低すぎる。ただ先生方の意欲や研究には満足している。
3. 教員によって、研究や教育への熱の入り方にかなり差があるため。
3. 特になし。
3. 教育はそれなりにしっかりしているが、一部の研究室に対して何の動きもないのは問題だと思う。
3. 特になし。

【分子生命科学科】

2. 特に不満な点がないから。
2. お世話になりました。
2. 弘前大学らしい教育・研究ができているから。
2. 学ぶための環境はある程度揃っていると感じるため。
2. 研究をする環境が整っていて、あまり不自由さを感じないから。
2. 地域から国際まで幅広く意識して、教育に取り組んでいるから。
2. 農学部として、生物に関してしっかりと多角的観点から研究が行われているから。
2. 不満がなかった。
2. 取り組もうと思えば、出来る環境であったため。
2. 基礎知識を学べたこと。
2. 充実した大学生活だったから。
3. 講義・研究以外で利用している実感があまりない。
3. 授業料が何のために使われているのかわからない。謎の戦略本部（？）に使われたと思うと親に申し訳ない。もっと真面目な事に使ってほしい。
3. 改善すべき点と満足する点の両方があるため。
3. 評価の仕方が作為的。これでは未来、研究者は育たないと思う。

【生物資源学科】

1. 入学当初に学びたいと思ったことを全て学ぶことができたから。
1. 楽しかったです！
1. そう苦労せず卒業できたから。
2. 一学科に食品、育種、生産環境のように全く分野が被らないコースがあるため、学生同士の助言のし合いというのは院生がいない研究室の場合、難しいように思えます。
2. 研究成果を外部に公表する機会も多く、地域色を感じさせる地元指向の大学としての優等生として確立しているため。
2. 学びたいと思っていた講義もそうでなかった講義も面白いものが多くて良かった。
2. あまり良い印象を持てなかった先生（所属学科以外）もいましたが、担当の指導教員の方がとても良い先生だったので、満足しています。
2. 幅広い知識。
2. 自分の思うような進路に進めた。
2. 先生方が学生のサポートをしっかりしてくれる、良い学科だったと思います。
2. 自分が興味を持っていた分野以外のこともたくさん学べたから。自分で考え、選択し、行動することの大切さを感じたから。中身の濃い四年間だったと思います。
2. まだ改善すべき点（例えば、実験室の棚の鍵があるのかと聞いたら《本当はあるのに知らないのか》、ないですと言われる）はたくさんあるが、教員・その周りを支える方々、生徒が同じ意識を持って、取り組んでいる感はあるため。
2. 研究を始めてから、新しい世界が拓けた。知識などが増え、新たな興味への底上げとなる貴重な四年間であったと思える。残念ながら、学問をそのまま仕事に結び付けることは出来なそう

だけれど、興味・関心を築いていくには十分すぎる四年間だった。
2. 教育環境としては、十分に学業に取り組めるものだと感じたため。
2. 先生方は優しく、親身になって指導してくださるから。　あと、今回のアンケートとは関係ないかもしれませんが、成績について学生がいつでもアクセスできて、自分が取るべき数と合致しているか一目でわかるような(一覧表)システムがほしいです。学科毎に取るべき単位や教科は決まっているので、出来ると思います。今のように自分で数えるシステムでは間違いも起こり得ると思います。また、お忙しい中事務の方に教えていただくのも忍びないです。よろしくお願いします。
2. 特に不満を感じるような機会がなかった。
2. 先生が優しい。
2. テレビのニュースで度々研究について取り上げられているため、日々の研究が世に貢献しているということが実感できたから。
2. この大学で良かったと思えるから。
3. めちゃくちゃ地方なので、もっとうまいことアピールしないと成り立つものも成り立たないのでは？
3. 個人の対応(指導教員等の)は良かったと思うが、全体への対応（講義内容や環境）があまり良くなかったと思う。
3. 研究室によって、取り組みの差が大きすぎるのではないかと思いました。
3. あまり関与できなかったので、実態がよくわからない。なので、この様な学生を出さないためにもアピールを前に出していってください！！
4. やはり学科を分けて、専門の分野の知識を増やすべきだと思う。

【園芸農学科】
1. 総合的に判断すれば、学業・部活・研究のすべてで満ち足りた日々を過ごせたと思うため。本当にありがとうございました。
1. 四年間多くのことを学べたから。
2. 満足した大学生活を送れたから。
2. 学び意思を持つ学生の熱意に合わせて、教員も指導してくださる自由な教育姿勢が良いと感じたから。
2. どの学部学科も熱心に研究に取り組んでいると思うから。
2. 自分の専門分野はもちろんのこと、他の分野にも触れることができ、自分自身のスキルアップにつながったと思う。
2. 今の学部・学科に入学できてよかったと思えるため。
2. わからないことがあっても解決しやすい環境が整っていると感じられるため。
2. 特に問題なく、大学生活を送れたため。ありがとうございました。
2. 四年間という期間で、得ることが多かったと思うから。
2. 努力した者には与えられるものがあり、そうでない者には何もないため、実力社会の縮図がわかるようになっていたため。
2. 青森県の問題を解決するための調査･研究を行っているため。また、青森県の農産物について、様々な視野から研究しているため。

2. 学びたいことが学べたため。
2. 教育については、座学・実習、さらに外部への視察を通して、幅広い知識を身につけられたと思うことや指導教員の指導がとても良かったから満足しています。
3. 特に意識した事はないため。
3. 学部・学科によって卒論など忙しさ、単位の取りやすさが違うことは疑問だが、留年する人が少ないので良いと思う。
3. 他と比べようがないので、わからない。
3. 卒業研究に関しては、自分の期待していたレベルのものにならなかったから。
3. 大学で学びたいという意思がなかったため、満足するもしないもないという状態です。
3. 施設への不満が大きいです。
4. 学生への配慮が足りないと感じる(学費のわりには)。
4. 研究に関しては、満足している。教育に関しては、全体的に何もしていないのと同じである。おそらく何も改善しない。
5. ○○先生によるアカハラのせいで、大学生活が全く楽しくなかったから。他の教員も気付いているのに、教授だからか何も言われない。弘前大学農生は、生徒を見捨てる最悪の大学だと思います。

【地域環境工学科】

1. 教育目標に沿った科目を受講でき、教員の指導によって、自分なりに目標を達成できたと思うため。
1. 最終的に就職する会社が、学科で学んだことを活かせるため。
2. もっと他大学との交流があれば、「1」に回答する。
2. 研究には力を入れていたと思う。
2. 自分自身、満足のいく就職を決め、人としても大きくなれました。
2. 自然に囲まれ、農業にも注力している本県の特色を反映した素晴らしい学部だと思う。今後ともその専門性を活かした教育・研究の発展を学部卒業生として願っている。
2. 四年間特に不満はなく、研究活動ができたので。
2. 特になし。
2. 施設が少ない割にまずまず揃っている。
2. 学科の教育については満足しているから。
2. 全体的に満足しているが、他の学部と比べると設置に差があると考えたため。
2. 今後、生きていくうえで最低限の知識と考察力を身につけることができた。
2. 自分が卒業する時点である程度は満足できる学生生活が(学習面で)送れたため。
2. 満足する大学生活を過ごせたから。
3. 先生方はとても熱心に指導してくれて良かった。施設の設備が悪い。

Ⅱ．研究科修了時学生対象教育評価アンケート

１．アンケート調査内容

調査目的：農学生命科学研究科の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため，２年間，本研究科で教育を受け今まさに修了しようとしている学生を対象に，研究科における教育について総合的な評価を得ることを目的とした。

調査方法：教員をとおして研究室所属の研究科学生にアンケート用紙を配布し，無記名方式で行った。回収は本学部棟正面玄関に設置した回収箱で行った。

調査対象：平成 31 年 3 月研究科修了予定者 49 名

調査期間：平成 31 年 2 月 21 日～3 月 8 日

有効回答者数：36 名（回答率 73%）

調査項目：設問は以下のとおりである。(ただし，下記の[　]の項目名は，回答結果の分析にあたってグループ化のために設けたものである。)

[研究科・コースの教育目標等の認識]

設問 1．あなたの所属コースをお答えください。

設問 2．本研究科の教育目的および教育目標を知っていますか。

設問 3．あなたが所属するコースの概要は添付資料の通りですが，概要および入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

(1) 概要について　　(2) 入学者受け入れ方針について

設問 4.

(1) あなたが所属するコースの概要は添付資料の通りですが，コースのカリキュラムはその目標に合致していると思いますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

[コースの教育について]

設問 5．シラバスは受講する科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。

設問 6.

(1) あなたが所属するコースで受けた教育（講義・演習など）について満足していますか（修士研究については設問 15 で別に聞きます)。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 7．本研究科では年度初めに指導教員がガイダンスを行っていますが，その内容は適切であったと思いますか。

[教員の指導について]

設問 8.

(1) 所属するコースの教員の学生への指導や対応に満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 9．大学院で履修した科目の成績評価についてお尋ねします。

(1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。

(2) 疑問や異議があったとき，あなたは実際にどこに相談し，その対応に満足しましたか。

具体的に記入して下さい。

［学生の主体的学習について］

設問 10.

(1) 講義や演習の受講に当たり，その講義の受講期間中にあなたは講義室での受講時間の何倍程度の時間を，講義室外での学習（予習や復習など）に当てましたか。大学設置基準に，「1 単位は 45 時間の学習を必要とする内容」と規定されています。2 単位の科目の場合，90 時間の学習が必要な計算になりますが，講義室では 30 時間（90 分を 2 時間として扱い×15 回＝30 時間）の学習時間しかありません。そこで，講義室外での学習が必要になります（講義室での 2 倍の時間）。学習時間にはインターネットを利用した情報収集，講義や演習でのプレゼン準備やレポートの作成，研究室内でのプレゼン準備などに要した時間も含めても構いません。ある 1 科目を想定して回答しても構いません。

(2) 学術特別研究（学術研究プログラム），実践特別研究（実践研究プログラム）あるいは課題研究（社会人入学者）に要した時間は 1 日平均どの程度ですか。実験に要した時間に加え，研究に必要な文献調査や文献講読に要した時間も含めて計算して下さい。

設問 11. 大学院教育では，学生自身の主体的，意欲的な学習が要求されます。

(1) あなたは講義についてどのような姿勢で取り組みましたか。

(2) 大学院在学中のカリキュラムで，もっとも印象に残った科目があれば，その科目名と理由を記入して下さい。

［学生への教育支援，施設・設備について］

設問 12.

(1) 本研究科や本学では皆さんに助言したり，皆さんからの相談・苦情を受け付けたり，皆さんのニーズを把握するために，以下のようなルートを用意しています。在学中あなたは次の(1)～(3)の項目について主にどれを利用しましたか。（　）内に番号を記入して下さい。

(1) 学業（　　）　(2) 学生生活（　　）　(3) 進路（　　）

1. 学生センター　2. 指導教員と面談　3. 指導教員以外の教員と面談
4. 学科長と面談　5. 学生総合相談室　6. 保健管理センター
8. 就職支援センター　9. 学部長直言箱　10. 学長直言箱
11. その他　12. 利用したことはない

(2) それぞれの対応に関して改善すべき点があれば以下に簡潔に記入して下さい。

設問 13. 本学部の以下の施設について、どのように感じていますか。

(1) 下表の該当する欄に○を書き込んで下さい。

評価 ＼ 施設	1. 充分満足	2. ほぼ満足	3. どちらとも言えない	4. やや不充分	5. かなり不充分
1. 講義室					
2. 実験・実習室					
3. 情報処理演習室					
4. 蔵書室（4 階）					
5. 学生自習室，学生控室（2 階）					

6. 修士研究を行った研究室					

(2) 各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

［修士研究について］

設問 14.

(1) 修士研究について満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 15.

(1) 研究科修了後のあなたの進路は次のうちのどれですか。

(2) 本研究科のカリキュラムで学んだことは，進路の決定にどのように影響しましたか。

(3) 本学および本研究科の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。

［本研究科の教育のあり方について］

設問 16.

(1) あなたが本研究科を修了するに当たり，大学院修了者に相応の知識および学力を身に付けたと感じていますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 17.

(1) 本研究科の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を，次の項目の中から一つを選んで下さい。

(2) 上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい。

設問 18. 本研究科で学生が期待する教育を受けるとともに充実した学生生活を送るために，希望する点や，大学または学部が改善すべき点があれば具体的に記入して下さい。

設問 19.

(1) 総合的に判断して本研究科・コースの教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を記入して下さい。

２．調査結果

設問 1．あなたの所属コースをお答え下さい。

表Ⅱ－ 1．コース別アンケート回答率

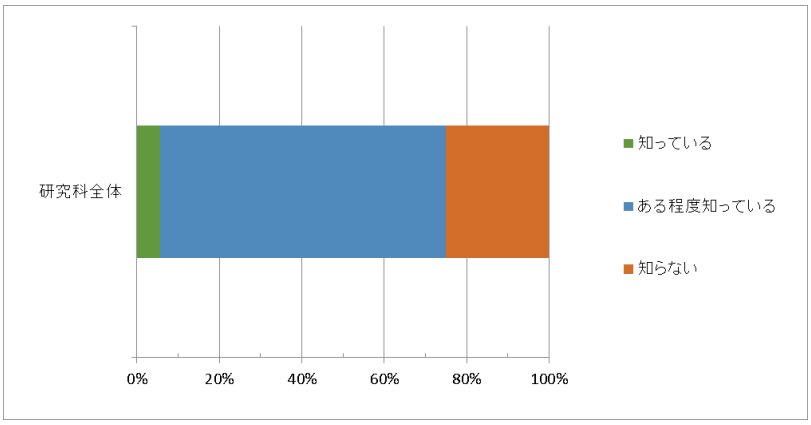
コース	対象者人数（人）	回答者数（人）	回答率（%）
生物学コース	17	12	71
分子生命科学コース	17	12	71
生物資源学コース	8	5	63
園芸農学コース	5	5	100
地域環境工学コース	2	2	100
合　計	49	36	73

研究科全体の回答率は 73%で，29 年度(65%)より上昇した。上昇の理由として，修了証書引き渡しの際，アンケート未提出者に協力依頼を徹底したことがあげられる。アンケートの目的を果たすためには，回答率をさらに上げる努力が必要である。アンケート実施時期が遅いとの意見があり，今後は回答率上昇のため，修士研究発表会前の 1 月末からアンケートを実施し，修士研究発表会の際にコース長が回収する必要があると考えられる。

回答者数が少ないため，以降の集計は研究科全体で行った。

[研究科・コースの教育目標等の認識について]

設問 2．本研究科の教育目的および教育目標を知っていますか。



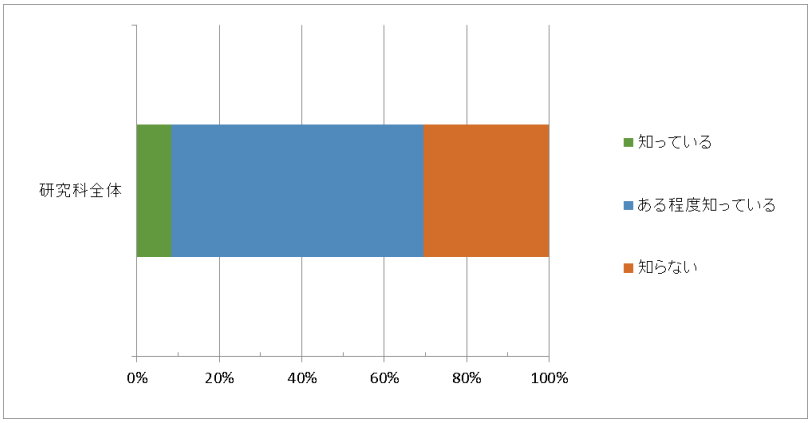
図Ⅱ－ 2．本研究科の教育目的等の認識

「知っている」および「ある程度知っている」が，28 年度(58%)および 29 年度(79%)であったのに対して、今年度は 75%であった。

引き続き，教育目的および教育目標の周知を図る努力を継続する必要がある。

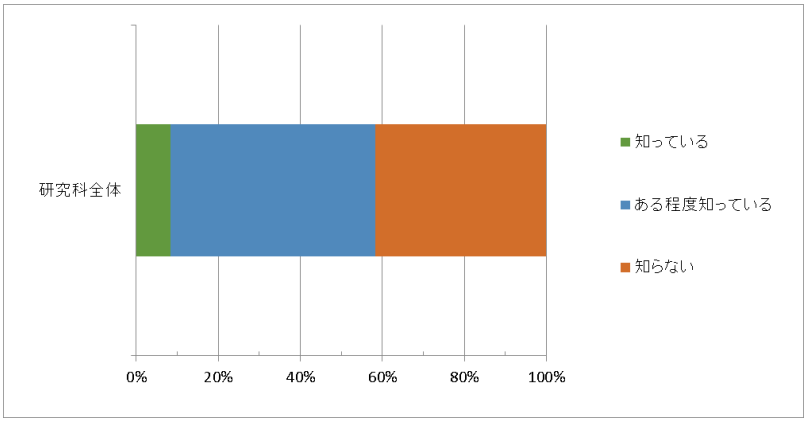
設問 3．あなたが所属するコースの概要は添付資料の通りですが，コースの概要および入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

(1) 概要について



図Ⅱ－ 3(1)．所属コースの概要の認識

(2) 入学者受け入れ方針について

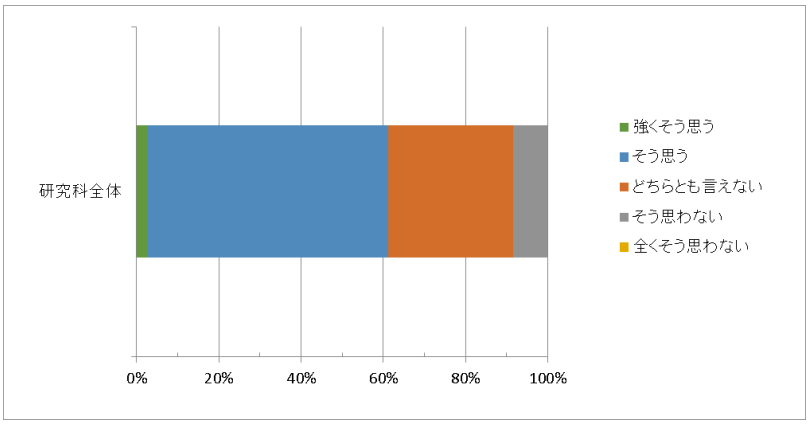


図Ⅱ－ 3(2)．コースの入学者受け入れ方針の認識

概要については，「知っている」および「ある程度知っている」が 69%で，28 年度は 63%，29 年度は 84%であった。また，入学者受け入れ方針についても 58%となり，28 年度は 58%，29 年度は 79%であった。どちらも 29 年度から大きく低下している。

引き続き，大学院入試説明会等において，丁寧に説明する必要があると思われる。

設問 4. (1) あなたが所属するコースの概要は添付資料の通りですが，コースのカリキュラムはその目標に合致していると思いますか。



図Ⅱ－ 4．コースの概要とカリキュラムの合致度

「目標に合致しているか」の問いに対し，「強くそう思う」および「そう思う」は61%で，28年度(39%)から大きく改善しているものの，29 年度(83%)と比較すると減少している。引き続き，大学院入試説明会等における説明を継続することが必要である。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない
5. 全くそう思わない

【生物学コース】

2. 研究者や技術者としての専門的な授業もあるから。
2. 授業で得た知識を研究に活かすことができたから。
2. 研究発表の授業があるのはいいと思う。しかし、授業自体が多すぎる。
2. 概要に沿う授業科目が揃っているため。専門技術者の育成という目的に関しては、少し手薄かもしれない。
2. 専門の授業に加えて、他コースの授業も幅広いため。
2. コースの目標から大きく外れたことはやっていないと感じたから。
3. 質問の意図がわからない。
3. 農業、食品関連については生物学コースが担っているとは思わない。
4. 他学科の授業もあるが、実際に自分の研究や進路に関わらないのがほとんどであるから。そもそもの授業が多いと思うが、仕方が無い部分があると思う。研究にもっと時間を使えたらいいと思った。
4. 取らなければならない他学科の講義が多い。また全体的に取らなければならない単位数が多く、研究に専念できない。

【分子生命科学コース】

2. 自身のレベルの向上から。
2. 生物内で起こる現象を研究対象としているから。
2. 授業など概要の通りのような知識は身に付けられると思ったため。
2. そう思ったから。
3. 高度専門技術者の育成はされていたと思うが、国際的な視野が身についたとは言えないから。
3. 分野ごとの差が激しく、分子制御を研究していない部屋もあるため。
4. 博士に進学しようとは考えなかったから。

【生物資源学コース】

2. 目標と合致した研究室があるため。
2. 様々なことを学習できる点においては、合致していると感じる。
3. そもそもコースの目標を知らないから。
3. 生物資源学と食料資源が現在、混在しており、食品関係にウエイトが置かれはじめて菌・昆虫、植物病理・育種など様々な分野を学ぶことが少なくなったと感じます。

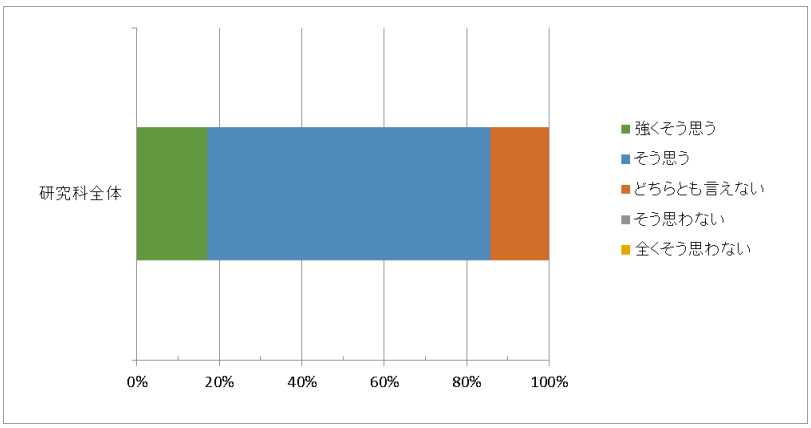
3. 所属のコースの分野が広いため、一概に言い切れはしないため。

【園芸農学コース】
1. 講義や研究を通して、そう感じたから。
2. 内容と合致しているため。
3. あまりよく知らない。
3. 実感がないから。

【地域環境工学コース】
2. 普段授業の中で特にそのようなことに疑問を感じたことがないため。

［コースの教育について］

設問 5. シラバスは受講する科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。

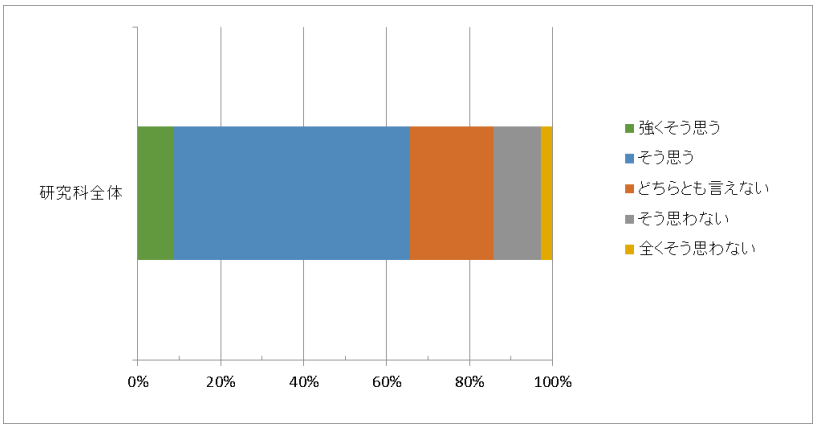


図Ⅱ－ 5. シラバスは役立ったか

「強くそう思う」と「そう思う」の合計は 86%であった。28 年度は 84%であったが，29 年度は大きく低下して 63%であった。

引き続きシラバスの内容と講義の内容の乖離を是正する努力を継続することが必要である。

設問 6. (1) あなたが所属するコースで受けた教育（講義・演習など）について満足していますか（修士研究については設問 15 で別に聞きます）。



図Ⅱ-6. 所属コースで受けた教育に満足しているか

「強くそう思う」および「そう思う」の合計は66%で，28年度(53%)，29年度(61%)と比較してやや増加した。「そう思わない」「全くそう思わない」は14%と，28年度(21%)から改善がみられるものの，29年度(6%)より増加している。

引き続き，少数意見も取り入れた教育の改善が必要と思われる。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない
5. 全くそう思わない

【生物学コース】

2. 演習や講義の内容には概ね満足しているが、講義を減らして演習・実習を増やすべきだと思う。
2. 堅苦しい形式ではなく、研究や就職上有効な経験的な内容が多かった。
3. 自分の研究分野に関連する授業はとても受ける意味はあったと思う。逆に、全く関連しない授業をとらざるを得なかったが、そういった授業はあまり意義があったか分からない。
3. 講義によって理解度が異なるため、何とも言えない。もう少し分かりやすい授業展開をしてほしいと感じた講義もあった。
3. 自身の所属コースの授業内容については、研究活動に役立つものだったけれど、全学共通の授業は、目的がよく分からなかった。
3. とても悪いということもないが、とても良いということもないため。
3. 非常に満足できる講義もあった一方で、あまり有意義とは思えない講義もあったため。
4. プレゼンテーション演習の意義がわからない。やるならもっと専門的に。英語も使い方学ぶ授業にしてほしい。
4. 院の講義は論文を読ませすぎで研究時間や就活の時間などが削られる。
4. 専門授業の時期に偏りがあるため。

【分子生命科学コース】

1. 微生物を初めとする生物に関する授業・生体内で起きる諸事象、食品に関する教育など、幅広く受講することができたから。
2. 自分の所属する研究室の研究分野以外の分野も講義が受けられたから。
2. とても勉強になったため。
2. 専門的な知識を学ぶことができたため。
2. 専門的で興味深い内容だったから。

【生物資源学コース】

1. 学んだことをアウトプットすることが多かったから。
2. 研究内容や研究する上での方針を決めるのに役立った。
2. 担当教員によって講義内容がその人が担当している分野、なおかつ学部より詳しく学べるため。
3. プレゼンテーション演習Ⅱはあまり知識にならなかった。

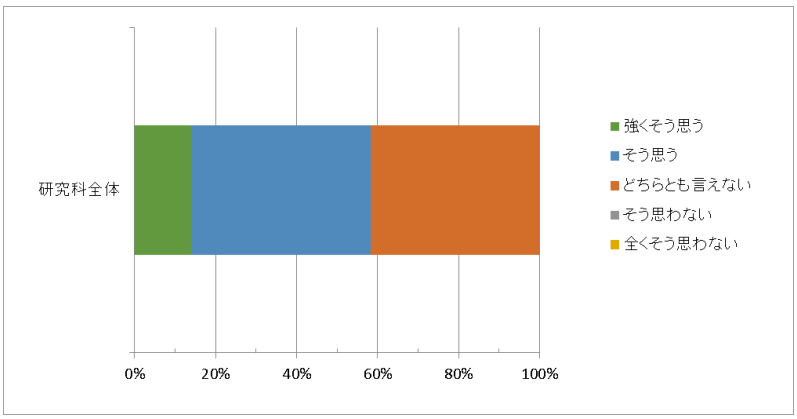
5. 自分の研究にほとんど役に立たない内容が多いと感じる。

【園芸農学コース】
2. 学部時より深く、そして、自分の分野の専門を学ぶことが出来、受講していて興味がよりわいた。
2. おもしろい講義が多かった。
4. 必要性を感じなかった。

【地域環境工学コース】
1. 大学内の先生のみならず、外部に先生の話などなかなか聞けないようなことが多かったため。
2. 普段の授業でそのような不満はない。

肯定的な意見では，「研究を行う上で役に立った」「幅広く学ぶことができた」等の理由が挙げられており，一定の教育効果があったと考えられるが，他方では「授業目的が分からない」「授業の時期に偏りがある」等の不満が散見された。講義内容や開講時期等の検討が求められる。

設問 7. 本研究科では年度初めに指導教員がガイダンスを行っていますが，その内容は適切であったと思いますか。

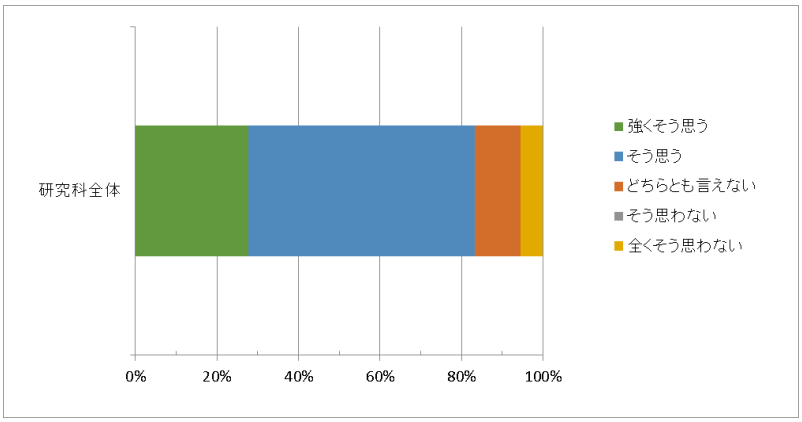


図Ⅱ－ 7. ガイダンス内容は適切だったか

「強くそう思う」と「そう思う」の合計は 58%で，28 年度(37%)と比較すると改善が見られたものの，29 年度(70%)からは低下した。また，「そう思わない」「全くそう思わない」が 0%となり，28 年度(11%)から改善し，29 年度(0%)と同程度であった。今後も引き続き改善の努力を続ける必要がある。

[教員の指導について]

設問 8. (1) 所属するコースの教員の学生への指導や対応に満足していますか。



図Ⅱ－ 8. 教員の指導や対応に満足か

「強くそう思う」および「そう思う」の合計は 83%で，28 年度(68%)と比較すると改善しており，29 年度(85%)と同程度であった。

「全くそう思わない」は 6%で，28 年度(11%)と比較すると減少し，29 年度(5%)と同程度であった。大学院生への指導や対応は概ね適切だったと思われるが、改善の余地がある。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない
5. 全くそう思わない

【生物学コース】

1. 生物学科の先生は生徒に対してとても丁寧に指導、アドバイスをしてくれる。どちらかというとアットホームな雰囲気なので、気軽に相談できるのが良い。
1. 疑問があった場合に、適切な指導と助言をもらえるため。
1. 私自身の意思を尊重して研究を進めさせてくれた。相談事があるときに可能な範囲で時間を空けてくれた。
2. 笹部先生をはじめコラボ 7F の教員の方々には多くの指導を頂いたから。
2. 講義で分からなかったことを質問する時間を講義以外の時間で確保してくださったり、丁寧に教えてくださったりしたため。
2. 就活で授業の参加が困難だった時に考慮してくださった。
2. どの教員も直接の指導教員以外も学生に対して、親身であった。
2. 研究について、手厚く指導していただいたため。
2. 副査の教員からも助言をもらえた。
2. 専門分野や研究室の枠を超えて、非常に熱心に指導してくださる教員が多い。

【分子生命科学コース】

1. 最後まで非常に熱心に指導していただいたと感じているから。
2. 私たちの反応を見ながら教えていただけたため。

2. 実験や学会で授業に出られないときに許容してくれたから。
2. 研究テーマや知りたい事などの相談に親身になって受けてくれた為。
2. 問題がなかったから。
3. 教員により異なる。
3. 人により、程度の差があるため。

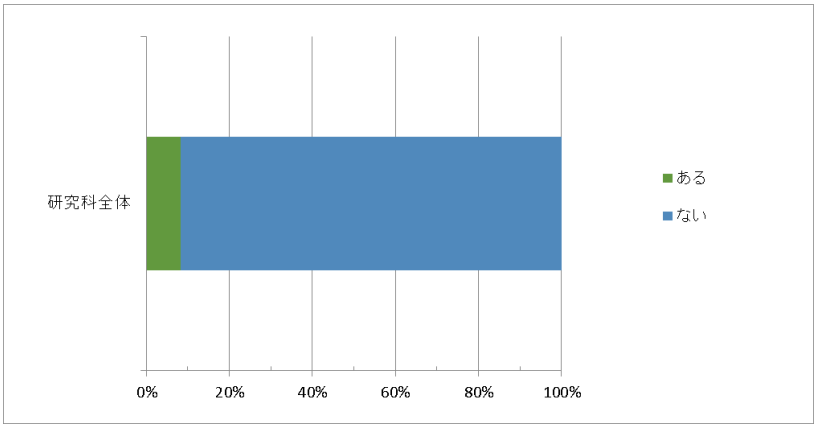
【生物資源学コース】
1. しっかりとディスカッションできたから。
1. 質問や意見に対し、答えを示すだけでなく、なぜそのようになるかや、意見も述べてくださるため。
1. 疑問点について分かりやすく、かつ丁寧に教えてくれたため。
2. 研究背景の説明や理解が深く研究を楽しめた。
3. 担当教員のスケジュールが非常に多忙な為、相談時間が遅くなる。

【園芸農学コース】
2. 研究を進める上で指導していただいたため。
2. 相談にしっかりとのっていただけた。
2. 満足しているから。
5. 積極的に対応してくれない。

【地域環境工学コース】
1. 熱心に指導、対応していただきました。
1. 熱心に指導されていたため。

概ね「丁寧な指導を受けることができた」という回答であったが，一部に教員の対応に問題があるとの指摘もあり，今後の改善が望まれる。

設問 9. 大学院で履修した科目の成績評価についてお尋ねします。
(1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。



図Ⅱ－ 9. 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはあるか

「成績評価の結果に疑問や異議を持ったことがある」が 8%で，28 年度(16%)および 29 年度(15%)と比較すると減少している。改善傾向にあるが，重要な項目であるためさらなる改善が望まれる。

(2) 疑問や異議があったとき，あなたは実際にどこに相談し，その対応に満足しましたか。

【生物学コース】

記述なし

【分子生命科学コース】

相談しなかった。

【生物資源学コース】

教員とのコミュニケーション。

【園芸農学コース】

相談していない。

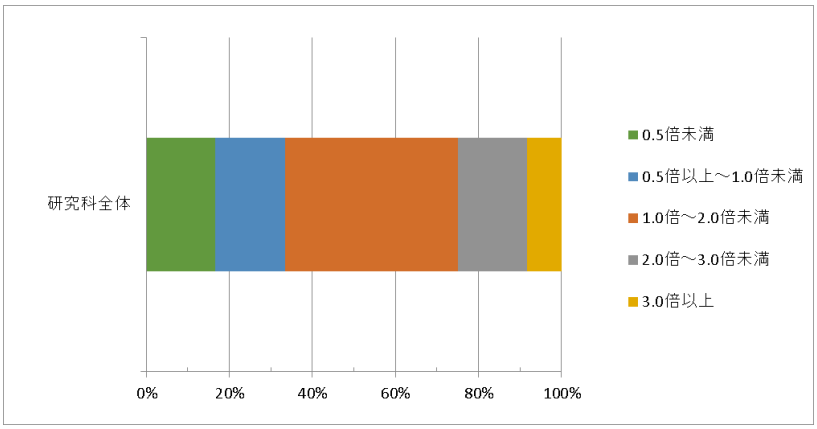
【地域環境工学コース】

記述なし

疑問や異議があったときに実際に相談等の行動をした大学院生は少なかったが，相談等がしやすい環境を整備することが望ましいと思われる。

[学生の主体的学習について]

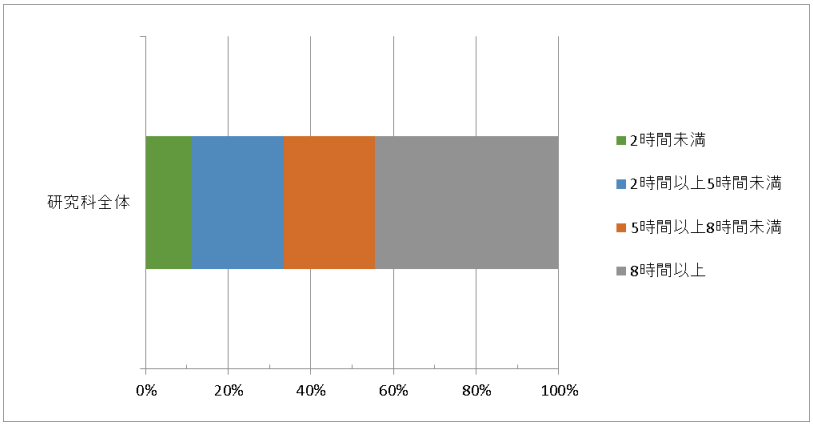
設問 10.（1）講義や演習の受講に当たり，その講義の受講期間中にあなたは講義室での受講時間の何倍程度の時間を，講義室外での学習（予習や復習など）に当てましたか。大学設置基準に，「1 単位は 45 時間の学習を必要とする内容」と規定されています。2 単位の科目の場合，90 時間の学習が必要な計算になりますが，講義室では 30 時間（90 分を 2 時間として扱い×15 回＝30 時間）の学習時間しかありません。そこで，講義室外での学習が必要になります（講義室での 2 倍の時間）。学習時間には<u>インターネットを利用した情報収集，講義や演習でのプレゼン準備やレポートの作成，研究室内でのプレゼン準備などに要した時間も含めて</u>も構いません。ある 1 科目を想定して回答しても構いません。



図Ⅱ－ 10(1)．1 日平均どの程度の時間を予習や復習に充てたか

講義時間の 2 倍以上の時間を予習や復習に充てたという回答は 25%で，29 年度(25%)と同程度であり，大学設置基準を満たしていない大学院生が多い。カリキュラムの見直しを含めた改革が必要と考えられる。

(2) 学術特別研究（学術研究プログラム），実践特別研究（実践研究プログラム）あるいは課題研究（社会人入学者）に要した時間は 1 日平均どの程度ですか。実験に要した時間に加え，研究に必要な文献調査や文献講読に要した時間も含めて計算して下さい。



図Ⅱ- 10(2)．1 日平均どの程度の時間を研究に充てたか

5 時間以上もしくは 8 時間以上と回答した大学院生が 67%で，28 年度(58%)，29 年度(60%)から改善が見られるものの，27 年度(74%)には及ばない。物理的に研究に割ける時間が減少しているか，研究に対するモチベーションが低下している可能性が考えられるので，要因の解析が必要である。

設問 11．大学院教育では，学生自身の主体的，意欲的な学習が要求されます。
(1) あなたは講義についてどのような姿勢で取り組みましたか。

【生物学コース】
・先生の話を聞き洩らさないようにした。
・なるべく疑問点をその場で質問することで解決するようにした。
・免許状を取るために必要な努力をした。
・講義分野の特徴を把握し、研究目標を理解するよう努めた。
・人生で役立てられる知識を得たかった。
・自身の研究とどのような関わりがあるか考える。
・話しの面白さ、パワポの見やすさや分かりやすさ、利用できる知見があるかなど、参考になりそうなことを取り込むように心がけた。
・毎回何か一つ以上、新しい知識を付ける気持ちで。

【分子生命科学コース】
・予習をする。
・主体的・意欲的な姿勢で取り組んだ。

・講義内で気になった点は講義後に自分で調べ、知識を深めたりした。
・学部時代と同様。
・興味のある講義なので、意欲的に取り組んだと思う。
・単位を落としたくない。
・専門に近い講義を受講した。
・特になし。

【生物資源学コース】
・ただ聞くだけではなく、自らの意見を発言する姿勢。
・できるだけ吸収しようとした。
・ゼミに影響を出さない程度ののめりこみで取り組んだ。
・自分の研究に活かせるものはないか探しながら取り組んだ。

【園芸農学コース】
・面接だと思いながら取り組んだ。
・自分で見識を深める姿勢。
・意欲的な姿勢。
・教員に聞きに行くなど、積極的に取り組んだと思われる。

【地域環境工学コース】
・講義前に使用するジュメを取り組むことに努力した。

多くの大学院生が主体的および意欲的な姿勢で取り組んだと回答しており，教員の提示した要求に応えていると思われる。

(2) 大学院在学中のカリキュラムで，もっとも印象に残った科目があれば，その科目名と理由を記入して下さい。

【生物学コース】
・研究方法論：自分の学科の先生の昔の経験談がおもしろかったし、参考になった。
・森林保全生態学実習：実際に実物を見て学ぶことができたため。
・研究方法論：他の研究室の学生の研究について、深く知ることができた。
・コミュニケーション演習Ⅰ、Ⅱ：本を買わされるだけで役に立たない。
・研究史特論：(1)の受講姿勢を決める大きなきっかけになった。
・水産増殖実習：講義内容が扱っている実験動物に近く、身になった。
・分析方法論Ｇ：自分の研究方法と直接かかわるため。
・特になし。
・動植物研究史特論：自分の研究のバックグラウンドについて、深く考える機会が得られたから。とりわけ指導が熱心だったから。

【分子生命科学コース】

・プレゼンテーション演習Ⅰ：集中講義でみっちり学ぶ授業だったから。
・研究方法論：先生方の研究に対する考え方を学ぶことができたため。
・プレゼンテーション演習Ⅰ：教員を代えてほしい。
・プレゼン演習Ⅰ：プレゼン演習Ⅰではなく、ただの協会の宣伝である。成績判定基準が曖昧であり、夏期集中のため学会が終了していると活用できる場がない。

【生物資源学コース】
・研究方法論：生物資源の学科の先生方と個々に話せる機会としてとても重要。
・研究方法論：各教師がどのような姿勢で研究に取り組んでいるかわかった。
・植物分類学：自分の目で植物を見ることができたから。
・研究方法論：分野は違うが、研究に対する姿勢を学ぶことができたため。

【園芸農学コース】
・集中講義の白神実習：実際の植物を見ながら説明を聞くことができ、理解しやすかった。
・なし。
・植物分類学：実際にフィールドワークを通して、多くのことを学べたから。
・クロス科目全般：今まで全く触れたことのない学問を学ぶことができて、楽しかったです。
・研究方法論：二年間の指針となった気がするから。

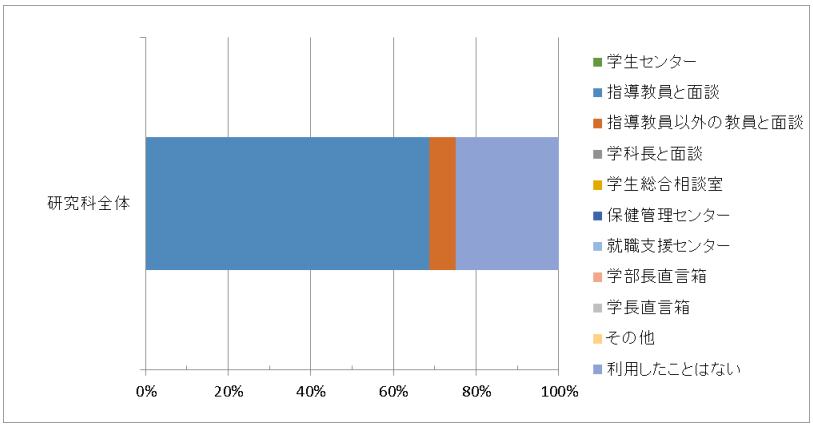
【地域環境工学コース】
記述なし

プレゼンテーション演習Ⅰおよびプレゼンテーション演習Ⅱについて否定的な意見が多く見られた。平成 26 年度から 28 年度まで内容に対する不満が多かったが，29 年度は大きく改善した。しかし，30 年度は以前と同様の状態に戻ってしまったと考えられる。今後の検討が必要である。

[学生への教育支援，施設・設備について]

設問 12.（1）本研究科や本学では皆さんに助言したり，皆さんからの相談・苦情を受け付けたり，皆さんのニーズを把握するために，以下のようなルートを用意しています。在学中あなたは次の(1)～(3)の項目について主にどれを利用しましたか。( )内に番号を記入して下さい。

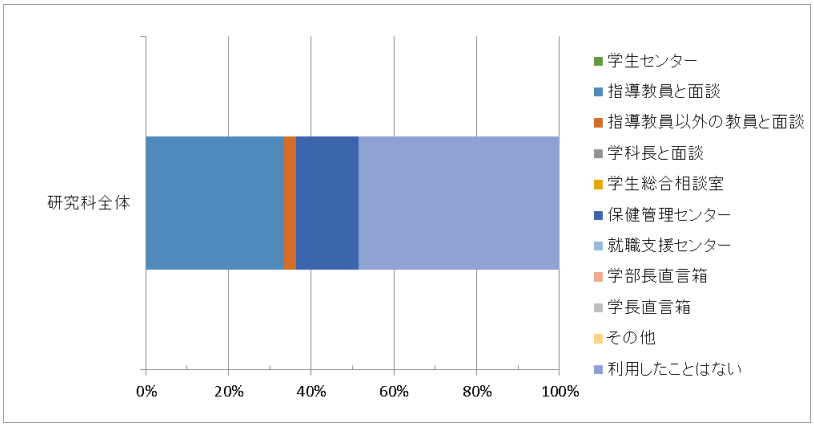
(1) 学業



図Ⅱ－ 12(1)．学業に関する相談窓口

「指導教員と面談」および「指導教員以外の教員と面談」との回答が 75%で，29 年度(82%)よりやや減少した。また，「利用したことがない」との回答が 29 年度の 18%から 25%とやや増加していた。今後も引き続き，教員と大学院生の間の垣根を低くする努力を継続することが必要と思われる。

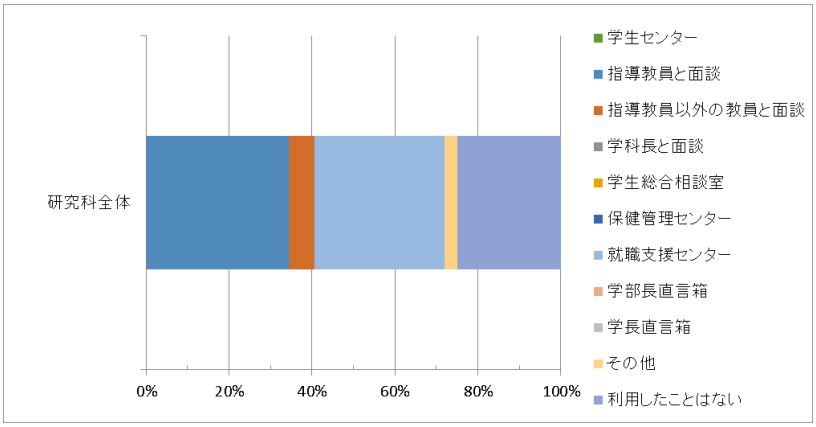
(2) 学生生活



図Ⅱ－ 12(2)．学生生活に関する相談窓口

29 年度と同様に，大学院生の 48%が「利用したことがない」と回答している。学生生活に関する相談ができる窓口が複数用意されていることを周知する努力が必要と思われる。

(3) 進路



図Ⅱ－ 12(3)．進路に関する相談窓口

就職支援センターの利用は 31%であり，28 年度(43%)，29 年度(44%)と比較すると減少している。「利用したことがない」との回答は 25%で，29 年度の 16%から増加していた。就職支援センターを周知する努力が必要と思われる。

(2) それぞれの対応に関して改善すべき点があれば以下に簡潔に記入して下さい。

【生物学コース】

・教職支援室

【分子生命科学コース】
記述なし

【生物資源学コース】
記述なし

【園芸農学コース】
記述なし

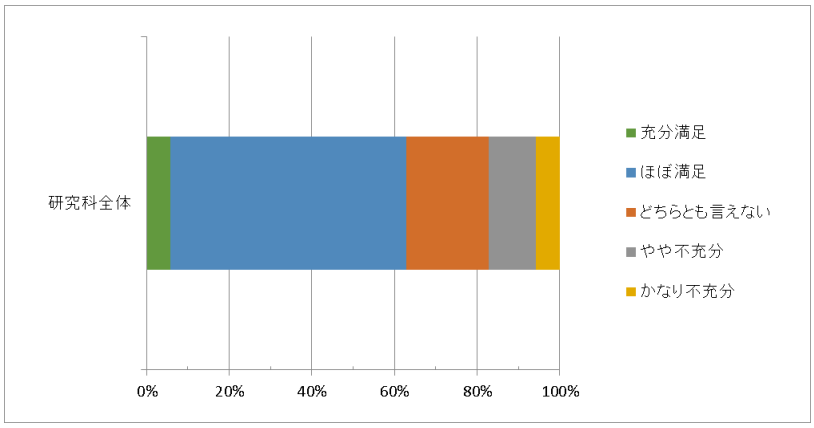
【地域環境工学コース】
記述なし

回答数は少ないが，多様な相談窓口の存在を知らせるなどの改善をすべきである。

設問 13. 本学部の以下の施設について、どのように感じていますか。
(1) 下表の該当する欄に〇を書き込んで下さい。

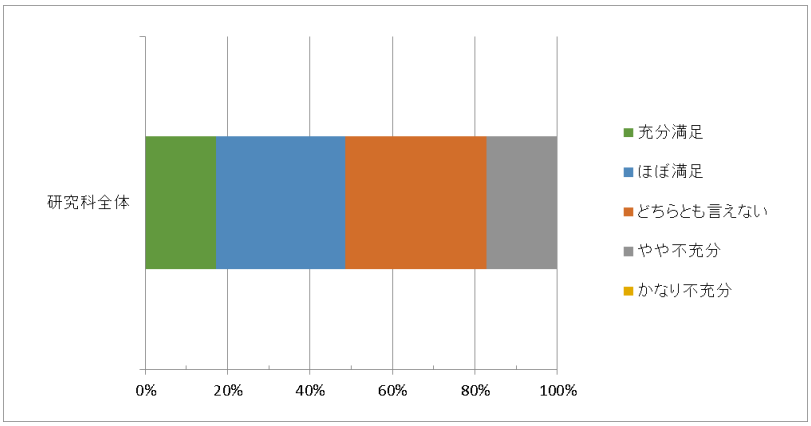
評　価 ＼ 施　設	1. 充分満足	2. ほぼ満足	3. どちらとも言えない	4. やや不充分	5. かなり不充分
1. 講義室					
2. 実験・実習室					
3. 情報処理演習室					
4. 蔵書室（4 階）					
5. 学生自習室, 学生控室（2 階）					
6. 修士研究を行った研究室					

1. 講義室

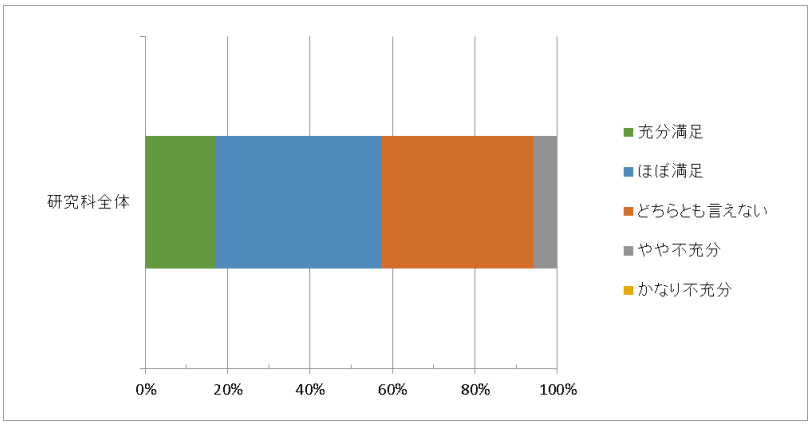


図Ⅱ－ 13(1) － 1. 本学部の施設に対する満足度（講義室）

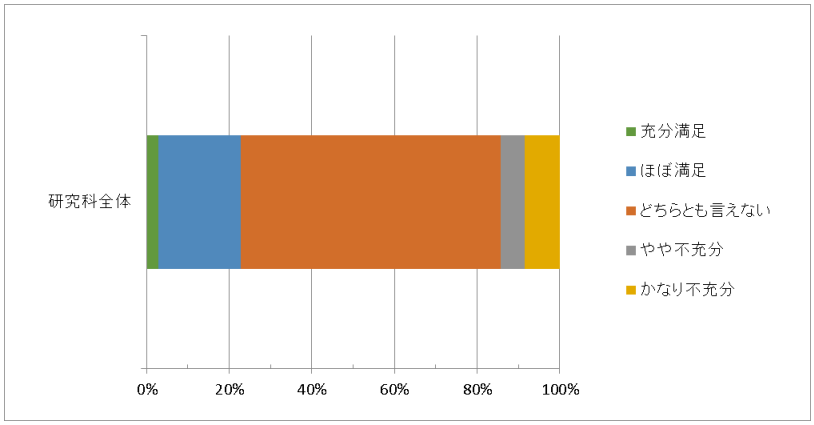
2. 実験・実習室



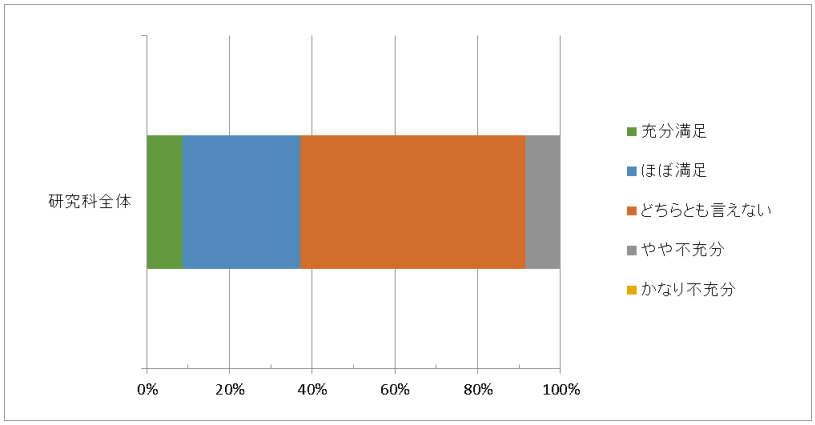
図Ⅱ－ 13(1) － 2. 本学部の施設に対する満足度（実験・実習室）



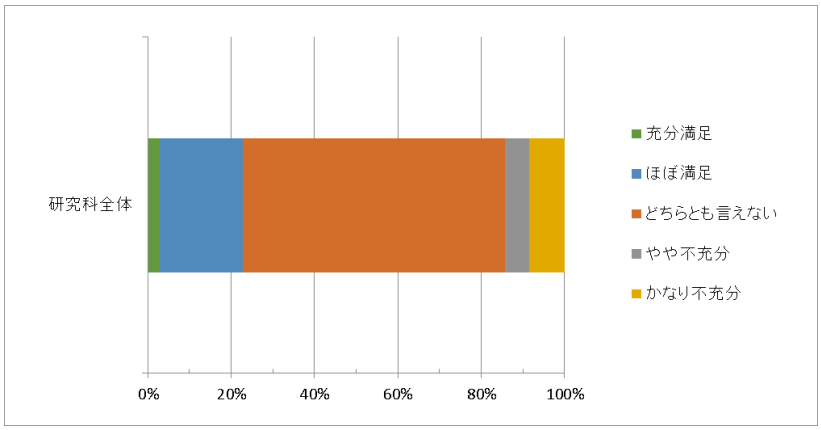
図Ⅱ－ 13(1) － 3. 本学部の施設に対する満足度（情報処理演習室）



図Ⅱ－ 13(1) － 4. 本学部の施設に対する満足度（蔵書室［4 階］）



図Ⅱ－ 13(1) － 5. 本学部の施設に対する満足度（学生自習室，学生控室［2 階］）



図Ⅱ－ 13(1) － 6. 本学部の施設に対する満足度（修士研究を行った研究室）

本学部の施設について，１．講義室，２．実験・実習室，３.情報処理演習室，４.蔵書室，５.学生自習室・学生控室（２階），６.修士研究を行った研究室の６箇所を対象に満足度を聞いた。１～５については例年とほぼ同じ結果となったが、6.修士研究を行なった研究室の満足度が平成 30 年度では 23%にとどまり、平成 27 年度(77%)，28 年度（30%)，29 年度(26%)と減少傾向にある。

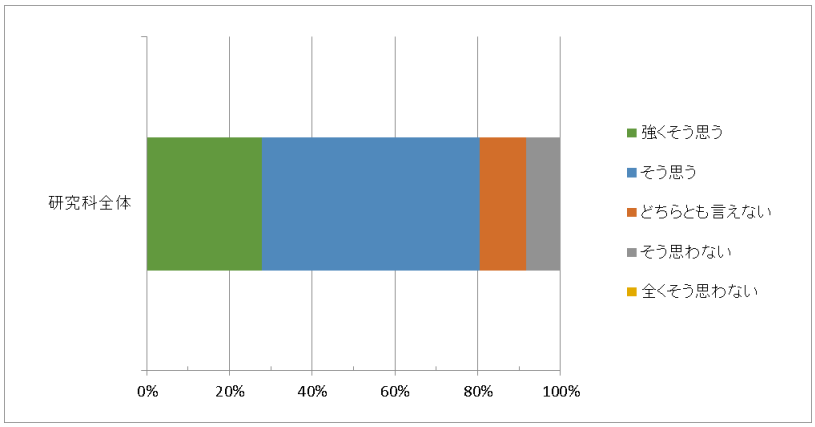
(2) 各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

例年と同様に講義室や研究室の冷暖房管理に関する要望が複数あった。これらを受けて，数年前よりいくつかの講義室に冷房設備を設置するなど改善を図っている。様々な制限のもとでこれらの要望に即座に答えることは容易ではないが，学生への理解を求めるとともに，継続して改善していく必要がある。

・可能であれば実験室をより広くいていただきたい。
・研究室のスペースが足りない（コラボ 7F)。農生棟と異なり、個人机を十分に確保するスペースもない。
・講義室におけるエアコンの設置
・特になし
・人数に対して実験室、研究室ともに狭く感じた。

・夜でも暖房をつけられるようにしてほしい
・GRC の実験室の天井にある暖房のせいで(暑すぎて)、実験がしづらいと思いました。
・講義室の暖房設備を足元が暖かくなるものに変えてほしい。
・学生室が狭い。
・講義室が寒い、プロジェクターがずれている？パワーポイントが削られる、ずれる。
・大講義室に冷房をつけてもらえると環境が良くなると思います。
・遺伝子実験施設が汚い。
・実験室が寒く、実験操作がしづらい。研究室は人数に対して、狭いと感じる。
・大学の施設の老朽化が多い。
・SCS 室のシステムがもっと分かりやすいとありがたい。
・なし。
・研究室の実験スペースが、学生の人数に対して不十分。・深浦の実験所を何とかしてほしい。
・施設に対する金が少ない。

設問 14. (1) 修士研究について満足していますか。



図Ⅱ－ 14(1). 修士研究に対する満足度

研究科全体で「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた肯定的評価は 81%であり，半数以上が修士研究に満足しているとの結果であり，前年度の 76%から改善が見られた。また，「そう思わない」という否定的評価が 8%であり，前年度に比べて 3 ポイント減少した。平成 25 年度から 28 年度までの傾向として肯定的評価の減少（平成 25 年度から順に 82%→76%→65%→63%）および否定的意見の増加（8%→13%→10%→22%）が懸念されていたが，今年度は平成 25 年度並みに改善した。引き続き，問題点の原因究明と改善の努力を続ける必要がある。

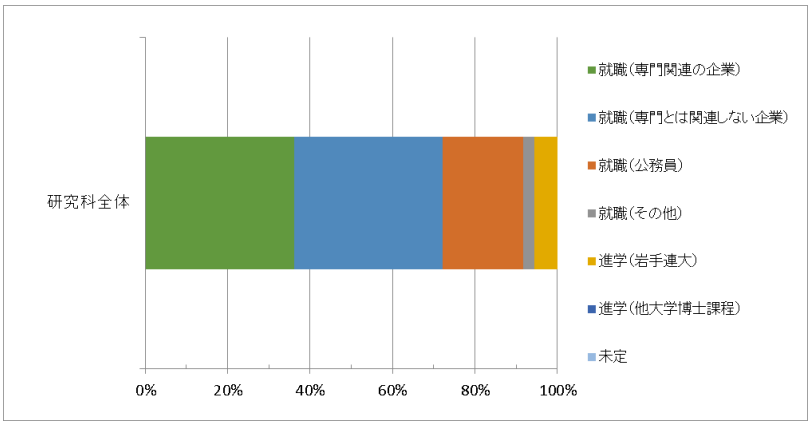
(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 学部から続けている研究をより深くやれたから。自分の興味のあることを、自由にやらせてもらえる環境があったから。学会等で成果を発表できる場があったから。
1. 論文のページ数がかなり多くなったから。副査の先生におもしろい研究だと言われたから。
1. 何不自由なく研究させてもらえたから。
1. 研究、プレゼン能力、知識･･･幅広く自分が成長でき、充実した二年間だったと考えます。
1. 興味を持てる内容に取り組ませていただけたため。

1. 最後まで抜かりなく取り組めたから。
1. 研究を通して様々な力を身に付けられたと感じた。また、自分の研究を完結できたのは非常に有意義であった。
1. 指導教員の指導が的確で、研究内容に留まらない助言もいただけた。
1. 一定のラインまで成果を上げられたため。
2. 指導教員や研究室の方と共に努力していたから。
2. 研究を通して科学リテラシーを学べた。
2. 目標通り、研究を行えた為。
2. 多くの時間を研究活動に充てることができたため満足しているが、二年間では足りなかったと感じる。
2. 研究する上で必要な考え方やスキルを身に付けることができたから。
2. 入学時に考えていたような活動ができたため。
2. 楽しめたから。
2. 研究の方向性や伝え方に悩むことが多かったが、最後には自分の納得できるものになったため。
2. 専門性を深められたから。
2. 好きなことができた。
2. やりたいことを十分にやらせていただいた。
2. 自分のやりたいことができた気がするから。
2. もう少し深めていければ良かったと思う点があるため。
2. もう少しやれたと思う。就活との両立が難しかった。
3. 基本的に自由にできたが、まだ自分で改善できるところが多い。
3. もう少し努力できる部分があったのではないかと思ったから。
4. 取り組みたい研究に全力を尽くすことができなかったため。
4. もっと自分の出せる力を出すことができたと思う。
4. まだまだやれることがあったので、全体的に努力不足。

設問 15. (1) 研究科修了後のあなたの進路は次のうちのどれですか。

1. 就職（専門関連の企業）　2. 就職（専門とは関連しない企業）　3. 就職（公務員）
4. 就職（その他）　5. 進学（岩手連大）　6. 進学（他大学博士課程）　7. 未定

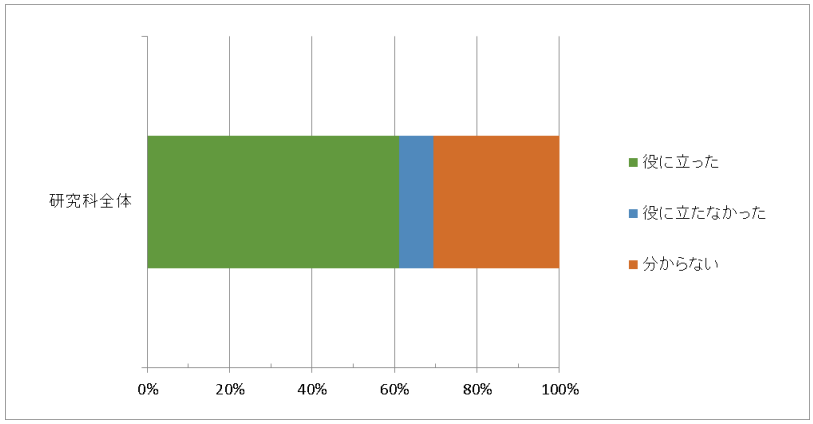


図Ⅱ－ 15(1)．研究科修了後の進路

研究科全体では「専門関連の企業」への就職が 36%であり，昨年度と同程度であった。「専門とは関連しない企業」への就職は 36%と昨年度の 20%から増加した。一方，「公務員」は 19%と昨年度より 14 ポイント増加した。就職の全体は合計で 94%であり，昨年度の 65%と比較すると大きく増加した。一方，博士課程進学者は 6%であり，昨年度の 25%から減少した。

(2) 本研究科のカリキュラムで学んだことは、進路の決定にどのように影響しましたか。

1. 役に立った　　2. 役に立たなかった　　3. 分からない

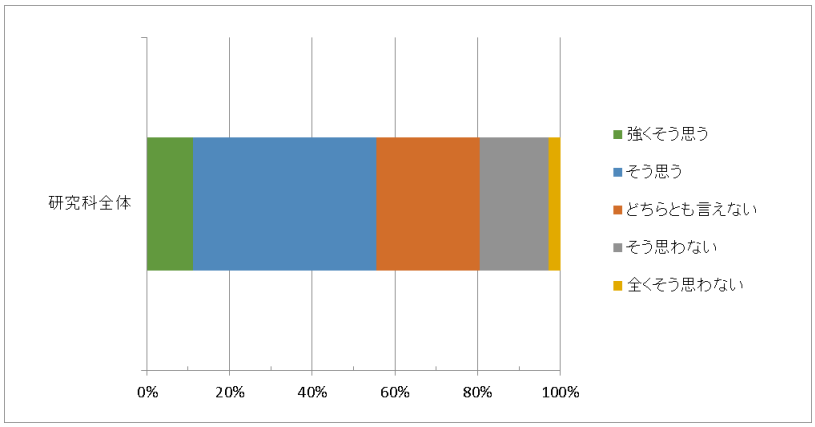


図Ⅱ－ 15(2)．研究科で学んだことはどのように進路に影響したか

研究科全体では「役に立った」が 61%で昨年に比べて 9 ポイント減少した。「役に立たなかった」は 8%で昨年度（0%）から増加した。

(3) 本学および本研究科の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない　5. 全くそう思わない

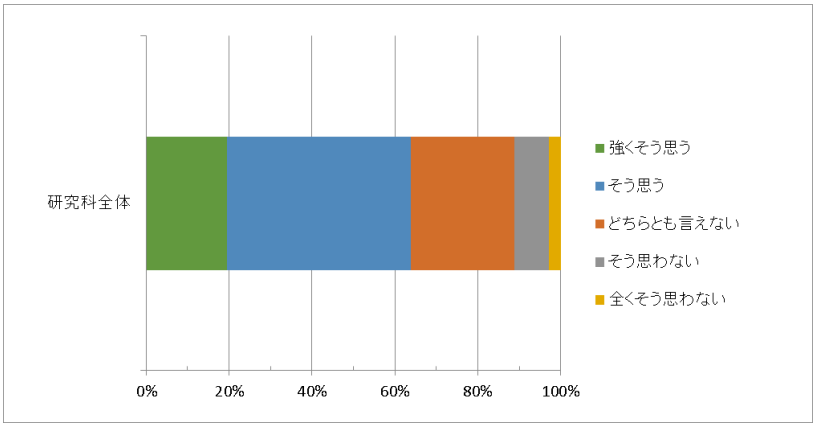


図Ⅱ－ 15(3)．進路支援の取り組みは十分か

研究科全体では，肯定的評価が 56%で昨年度と同程度であった。否定的評価が 19%で昨年度から 14 ポイント増加した。支援の方法等について見直す必要があると考えられる。

設問 16. (1) あなたが本研究科を修了するに当たり、大学院修了者に相応の知識および学力を身に付けたと感じていますか。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない 5. 全くそう思わない



図Ⅱ－ 16(1)．大学院修了者に相応の知識および学力を身に付けたか

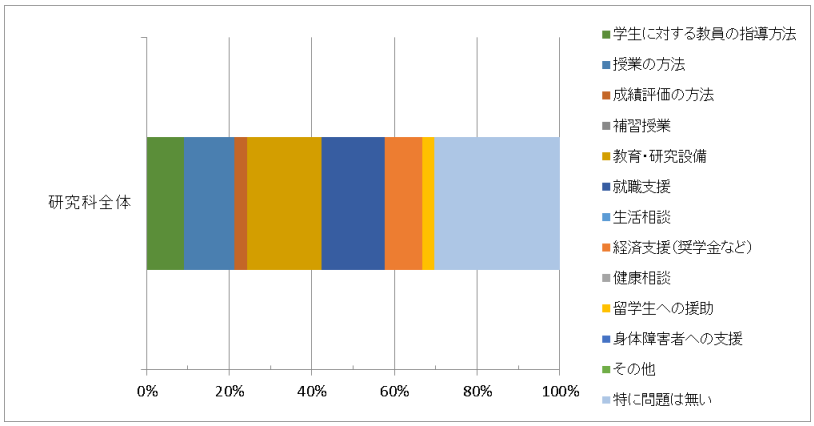
3 か年で見ると,研究科全体では,「強くそう思う・そう思う」(44%→42%→64%),「どちらとも言えない」(28%→42%→25%),「全くそう思わない・そう思わない」(28%→16%→11%) であった。今年度は，修士課程を通して相応の知識・学習を習得したとする意見は大きく増加し，習得していないとする意見が減少した。今後も継続してその傾向を把握し，習得度の低下が客観的にも認識されるようであればその理由とともに分析し改善する必要がある。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 学部生にアドバイスできているから。
1. 指導教員の先生に熱心にご指導いただき、自身の成長を強く実感できたため。
1. 学力だけでなく、心身も成長し、社会でもやっていける自信がこの二年でついた。
1. 論文を読むことができ、自分の研究を発表することができる。
2. 研究を通して、深く考える力や論理的思考力、解決能力を鍛えることができたと思うから。
2. 発表会で評価されたため。
2. 修士論文もまとめられたから。
2. 学部生のときより分かることが多くなったから。
2. 難解なことでも簡単に短く説明できるようになった。
2. 学内にとどまらず、学会などの公の場で発表することが増え、多くの研究者と議論することができたため。
2. 論文等を読むことで、専門的な知識を身に付けたと思うこと。発表練習などで意見を発信することができたため。
2. 学術研究に対する考えを深めることができ、調査や分析の技術を大きく伸ばすことができたため。
2. 自分の研究には真摯に向き合い、修論発表ではきちんと質疑応答を返すことができたと感じたため。
2. 学部学生の時に理解しえなかったことが、かなりよく分かるようになった。
3. 社会に出ていないのでわからない。現時点では無い。
3. 大学院修了に相応の知識・学力がどの程度かは個人によって異なると思うが、もう少し学ぶこ

とができたのではないかと考えているから。
3. 自身の問題によるところが大きいが、もう少し知識を身に付けるべきだったと感じる。
3. 他大学院の事をよく知らない。
3. 研究分野以外の専門のことが学べていなかった。
3. 相応の知識の程度を知らないため。
4. 自分自身の私生活から改善することに精一杯で、全力を出し切れなかった。
4. 英論を読んだ数がきっと少ないから。学んだことをすぐ思い出せないから。
4. 学部生の延長のような感じで、知識が身に付いた実感がないから。
5. 自身の都合で研究を怠り、十分な研究をしなかった。

設問 17. (1) 本研究科の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を、次の項目の中から一つを選んで下さい。



図Ⅱ－ 17(1). 本研究科の教育活動の中で最も早急に改善すべき点

平成 29 年度に 24%と高かった「学生に対する教員の指導方法」が 30 年度は 9%に減少した。一方,「教育研究設備」は例年並みに高く 18%であった。また,「就職支援」は 29 年度 0%であったが, 30 年度は 15%と増加した。

(2) 上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい。

1. 学生に対する教員の指導方法 2. 授業の方法 3. 成績評価の方法 4. 補習授業
5. 教育・研究設備 6. 就職支援 7. 生活相談 8. 経済支援（奨学金など）
9. 健康相談 10. 留学生への援助 11. 身体障害者への支援
12. その他（ ） 13. 特に問題は無い

1. 研究が思うように進まず、学校へ来れなくなった後輩が数人いた。もっと研究のサポートをしてほしい。
1. 指導教員の想定している「形」があるもの(書類等) を考えるのは指導ではないと思う。ある程度のテンプレがあるのなら、最初から示すべきであり、無駄の減少につながると思う。指導であるなら、内容についてであり、求められているテンプレを探すのは研究ではない。
2. 取得授業数が多く、春～夏に集中するため、野外調査と両立させることが大変だったので、取得数を減らしてほしい。副コース科目については、先生方も他学科の学生への授業方法を確立

できていないように感じることがあった。
2. 先生がひたすら発言している一方的な講義ではなく、生徒が意見を示せるようにすること。
2. 大学院生であれば興味関心のある事柄は自分自身で勉強します。講義を受ける時間が有意義であるとは感じませんでした。
2. 履修したが、その講義で学んだことが身に付いていないと感じることが多くあったため。
3. 論文紹介での評価よりは講読の授業を増やしてほしい。
5. 実験で共用で使うものの劣化等が目立つことがある。
5. 全ての情報をシェアできるようなシステムにしてほしい。
5. 広く、そして設備に使える金額も増やしてほしい。
5. 校舎が全体的に暗いので、もう少し明るくしてください。また、暖房設備も十分とはいえません。
5. もう少し工夫すれば、研究設備を多く使えると思う。
5. スペースの足りてない研究室があるので、研究室の学生の数や研究内容を考慮して、もう少し合理的に配分できないものでしょうか？
5. 実験に使用するための機器がなく、不便だったため。
6. 生物系に適した職種、業務内容の就職先を紹介してもらえるとありがたい。
6. 青森県内の大学ということが大きいとおもいますが、もっと関東・東海地方の企業の説明や情報、推せんがほしい。東北外から来てる学生も多い。
6. 学部生に比べると就職支援が少なく、又、支援（企業紹介や交通費手当等）があるとしても、告知が遅いため利用しにくい。より多くの学生に支援を受けてもらうためには、早急な告知が必要であると考えている。
6. 他大への院進学のサポートをしてほしい。「キャリア」をサポートするんじゃないのか？
8. もう少し安くならないのか？
10. 日本語での授業についていけないので、理解に差が出る。

授業，研究設備，就職支援など様々な要望があった。可能なことから改善に着手しつつあるが，さらに対応を充実させ早急に行うことが望ましい。

設問 18. 本研究科で学生が期待する教育を受けるとともに充実した学生生活を送るために、希望する点や、大学または学部が改善すべき点があれば具体的に記入して下さい。

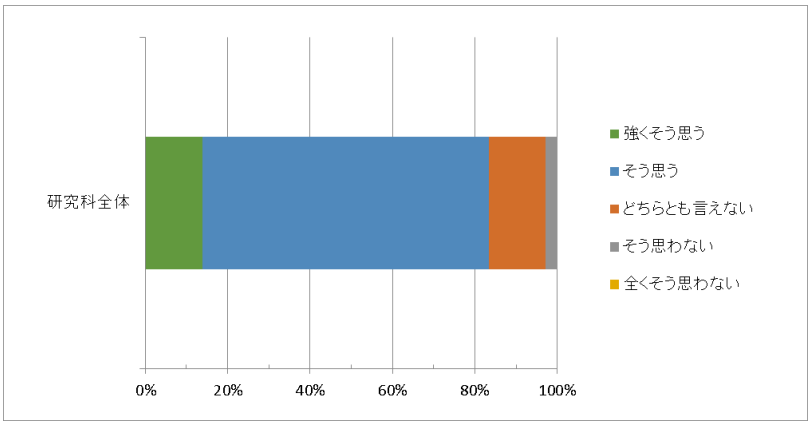
・なし。
・夜 10 時以降の取り締まりをしても良いかと。学生も子供ではないので、必要ないと思うが、結構残っている人を見かける。
・学習スペースの確保。コラボや農生側に食堂がほしい。
・学務の対応（直接的なコミュニケーション）の改善。
・もっと多くの雑誌が読めるようになると良いと思います。
・下の学年から事務局と先生方のコミュニケーションや連絡がとれているか不安になっていると聞いたことが多くあります。他、怖い、アカハラなど相談しにくい内容に対し事務局がもう少し協力して頂けると助かります。

・特になし。
・基本的な連絡事項（奨学金、講義に関することなど）は農学生命科学部棟の 1 階掲示板にしか掲載されていないが、コラボ弘大にも同様の告知を掲載してほしい。
・学部生全員が研究室に配属されるのではなく一部の意欲のある生徒が入るようにしてほしい。研究の質の向上や就職を希望する生徒の就職率向上につながると思う。
・指導教員がもっと積極的に研究のサポートをしてほしい。
・院生だけでなく、学部生にも当てはまるが、精神を壊す者が非常に多い。保護者・学生・指導教諭の関係について、第三者が介入すべきだと思う。
・短期集中型の授業を増やしてほしい。
・トイレの暖房は切らないでほしい。
・特にない。
・院生も大学寮に入れるようにしてください。お願いします。私が大学院生生活を終えることができるのも、寮に入れたおかげで家賃や食費などの金銭的な不安が少なかった事が最も大きかったと考えております。平成 31 年度から院生が寮に入れなくなるとこのままでは経済的に余裕のある生徒しか院に進学できなくなってしまうのではないかと心配です。院生生活では金銭的な不安が常に付きまといます。時には学業に支障をきたすほどに。なので、充実した学生生活や教育を受けるためには、まずは経済的な支援が必要かと思います。また経済的な支援を充実させることによって、教育の裾野を広げることが我が国の教育の発展には今後必要となってくるのではないでしょうか。
・特になし。
・もう少し教員の仕事を分散して、指導可能な時間を同じくらいにした方が良いのでは。
・講義準備にかなり時間を持っていかれて、最も重要な修士研究に時間をさけないので、講義を少しライトなものにするか、修士研究に直結するものを増やしてほしい。
・予算の充実。

継続して要望や批判に耳を傾け，改善を図っていく必要がある。

設問 19. (1) 総合的に判断して本研究科・コースの教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない　5. 全くそう思わない



図Ⅱ－ 19. 本研究科・コースの教育・研究に対する取組み・姿勢に満足か

(2) 上記のように回答した理由を記入してください。

1. 入学したことで自分が研究活動に貢献できた。沢山の友達ができた。感謝してもしきれません。
1. ほぼ文句はないから。
1. あらゆる分野の知識を講義等で学ぶことができ、将来に非常に役立ったと考えているから。
2. 研究に没頭できる環境があったから。
2. 研究に関しては充実した日々を送ることができた。
2. 指導教員と研究室での教育に関する内容や生活は満足だが、研究室のはずれをひくとヒドいので。
2. 学びたかったことが学べ、やりたかった実験ができ、それなりに望む就職先に就けたから。
2. 総合的に判断して。
2. 研究は十分に実施できたので、良かったと感じる。
2. 満足しているが、もう少し研究したかった。
2. 研究等は自分で考えて行えるだけの下地が整えられていたと思うため。
2. 教員のサポート不足を感じたため。
2. そう思ったから。
2. 自分の現状に満足しているから。
2. 先生方も事務の方も分からないことがあればすぐに丁寧に教えてくださったため、不安なく学生生活を送ることができた。
2. 不満はなく、過ごすことができた。
2. 読めるジャーナルが少ない。Development を読めるようにしてほしかった。
2. 教員や事務員の態度に不満を覚えたことはないため。
2. 先生を初めとしていろいろな方に二年間お世話になった中で、勉強だけではなく、様々なことに手伝いをしていただいてしまい、感謝しています。
2. 勉学に関して、充実した学生生活を送ることができたから。
2. 苦労はあったが、大きな不満はなかったから。
3. 研究室ごとに研究力に差がでているのは問題なのかもしれない。
3. 良い部分、悪い部分が両方あるため。
3. 他大学院に比べると研究の取り組みやすさは劣るように感じる。
4. 授業が多く、学生先生両方に負担となっている。

平成 30 年度は総合的な満足度に対する肯定的評価が 83%であり，28 年度 53%，29 年度 80%と増加傾向にある。また今年度の否定的評価は 3%であり，28 年度 24%，29 年度 0%であることから，引き続き教育・研究に対する改善の努力を継続することが必要である。

Ⅲ．　教員対象教育評価アンケート

１．　アンケート調査内容

調査目的：農学生命科学部の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため学部教育に関する教員の意識について調査することを目的とした。

調査方法：アンケート用紙を各教員に配布して調査を行った。学生に対するアンケートの設問と共通項目を設けた。

調査対象：平成 31 年 2 月の時点で学部・遺伝子実験施設，生物共生教育研究センターに所属する教員とした。

調査期間：平成 31 年 2 月 21 日～3 月 8 日

調査対象教員数：80 名，　有効回答者数：61 名

調査項目：設問は以下の通りである。

設問 1．あなたの所属学科およびコースをお答えください。

設問 2．本学部および本研究科の理念，教育目的および教育目標を知っていますか。

設問 3．あなたが所属する学科・コースの教育目標を知っていますか。

設問 4．本学部の入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

設問 5．あなたが所属する学科・コースの教育目標は学部ホームページにあるとおりですが，学科（21 世紀教育科目および専門教育科目）およびコースのカリキュラムはその目標によく合致すると感じていますか。

設問 6．あなたはシラバス作成時に,学科・コースの教育目的や教育目標に従った講義内容にしようとしていますか。

設問 7.

(1) 授業内容がシラバス記載の内容と異なることをどのようにお考えですか。

1．シラバスと授業内容が異なることは極力避けるべきである

2．より良い授業内容を提供するためには、ある程度異なっても構わない

3．担当科目の性格から、異なることは避けられない

4．その他（　　）

(2) 何らかの理由で授業内容がシラバス記載の内容と異なった場合、あなたは受講生に対する説明の必要性についてどのようにお考えですか。

1．異なる理由を受講生に説明する必要がある

2．受講生に説明する必要はない

3．その他（　　）

(3) 上記の設問で「2.」と回答した理由を教えて下さい。

設問 8．本学では「授業方法改善のための学生による授業評価に関するアンケート調査」が平成 15 年度後期から実施されています。その結果についてお尋ねします。

(1) 学生による授業評価の妥当性についてどのようにお考えですか。

1．かなり妥当な授業評価である　2．ほぼ妥当な授業評価である

3．どちらとも言えない　4．やや妥当でない授業評価である

5．まったく妥当でない授業評価である

設問 9．本学では授業改善のための各種の研修活動（ＦＤ活動）が行われています。

(1) この１年間でどのようなＦＤ活動に参加されましたか。参加された回数をお答え下さい（参加されなかった場合は０を記入して下さい)。

(2) 参加された活動は，教育改善に役立ちましたか。

設問 10．担当科目において学生の授業時間外の学習を促すためにどのような工夫をしていますか。

設問 11.

(1) 本学部の以下の施設と設備についてどのように感じていますか。該当する欄に○を書き込んで下さい。

(2) 上記で「4. やや不充分」と「5. かなり不充分」を選択した場合，その理由を次の欄に具体的に書いて下さい。

設問 12.

(1) 卒業研究は必要であると思いますか。

(2) 上記のように回答した理由を下欄に分りやすく記入して下さい。

設問 13.

(1) あなたの学科の大多数の卒業生は，本学部での教育により大学卒業生に相応の知識と学力を身に付けたと思いますか。

(2) 上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合，その理由は何ですか。以下の中から選んで下さい。

設問 14.

(1) あなたの専攻の大多数の修了生は，本研究科での教育により大学院修了程度の専 門知識を身に付けたと思いますか。

(2) 上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合，その理由は何ですか。以下の中から選んで下さい。

２．調査結果

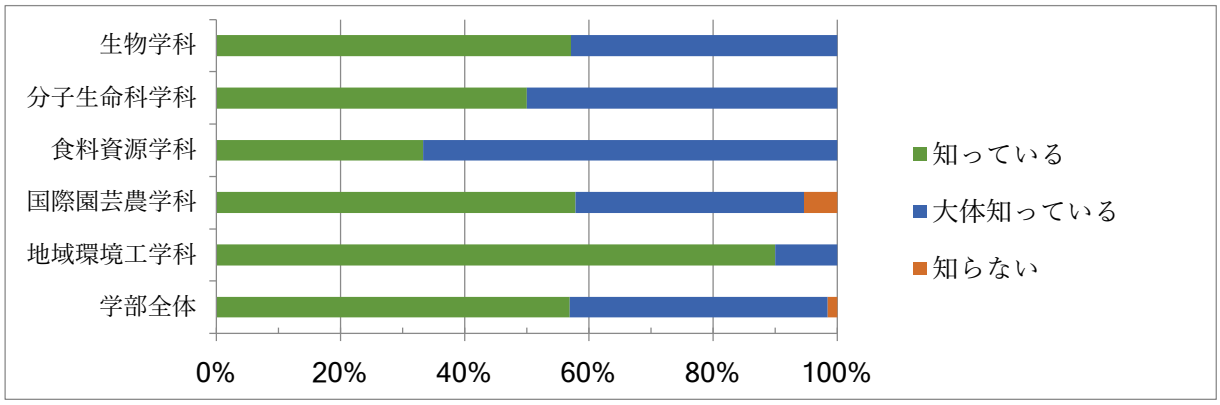
設問 1．あなたの所属学科およびコースをお答えください。

表Ⅲ－ 1．回答率

学科	教員数	回答数	回答率	H30 回答率
生物学科（白神含む）	17	14	82%	79%
分子生命科学科	13	10	77%	85%
食料資源学科	18	12	67%	87%
国際園芸農学科（農場含む）	21	15	71%	64%
地域環境工学科	11	10	91%	91%
学部全体	80	61	76%	79%

3 か年（平成 28～30 年）の学部全体の回答率を見ると，74%→79%→76%と推移した。学科毎に見ると，「生物学科」（64%→79%→82%），「分子生命科学科」（54%→85%→77%），「食料資源学科」82%→87%→67%），「国際園芸農学科」（82%→64%→71%），「地域環境工学科」（91%→91%→91%）と推移している。なお，「白神自然環境研究センター（白神）」は「生物学科」に，「生物共生教育研究センター（農場）」は「園芸農学科」に含めて集計している。食料資源学科の教員について回答率の低下が顕著である。その理由として，赴任 1 年目の新任教員が加わったためであると考えられる。来年度以降は回答率の上昇が期待されるが，改善が見られない場合は対策を講ずる必要がある。

設問 2．本学部および本研究科の理念，教育目的および教育目標を知っていますか。



図Ⅲ－ 2.　学部・研究科の理念・教育目的・教育目標の認識

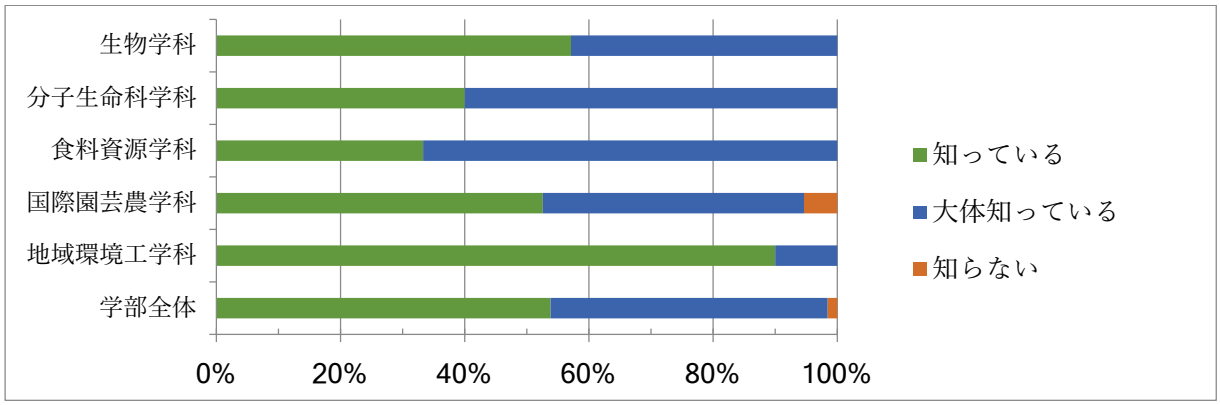
学部・研究科の理念・教育目的・教育目標の認知について，3 か年の推移を学部全体で見ると，「知っている」（49%→51%→57%），「大体知っている」（49%→49%→41%）と推移している。

「知らない」は昨年度の 0%から 2%になった。本年度は，赴任 1 年目の教員が多かったこともあるが，回答した教員の大多数が，学部と研究科の理念・教育目的・教育目標を概ね認知している。

3 か年の推移を学科別に見ると，「知っている」は「生物学科」（56%→64%→57%），「分子生命科学科」（43%→45%→50%），「食料資源学科」（56%→62%→33%），国際園芸農学科」（36%→

36%→58%）「地域環境工学科」（60%→50%→90%）となった。

設問 3. あなたが所属する学科・コースの教育目標を知っていますか。

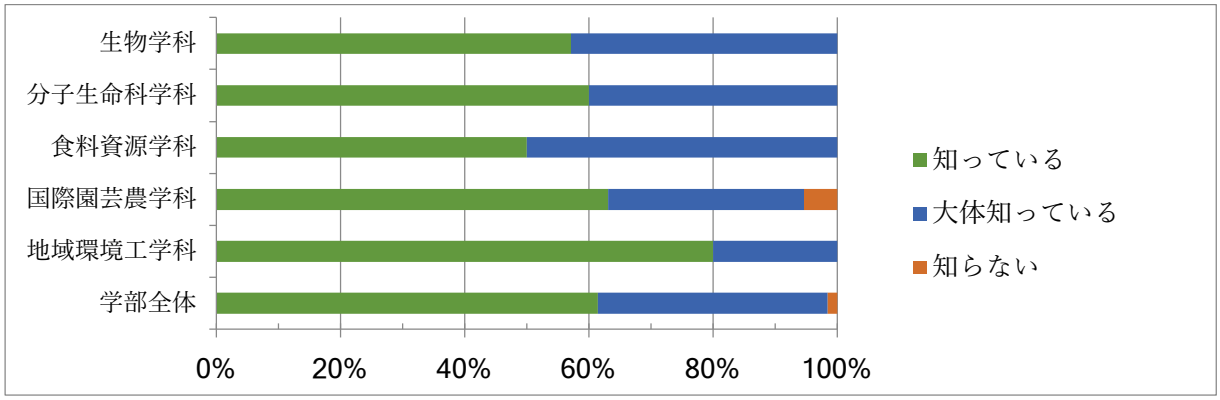


図Ⅲ－ 3.　所属学科・コースの教育目標の認識

所属学科・コースの教育目標の認知について，3 か年の推移を学部全体で見ると，「知っている」（59%→59%→54%），「大体知っている」（41%→41%→45%），「知らない（0%→0%→1%）と推移しており，全教員が概ね認知している。

学科別に「知っている」の 3 か年の推移を見ると，「生物学科」（56%→73%→57%），「分子生命科学科」（43%→45%→40%），「食料資源学科」（67%→69%→33%），「国際園芸農学科」（43%→36%→53%），「地域環境工学科」（90%→80%→90%）と推移している。特に「地域環境工学科」に「知っている」の割合が高いほか，新任教員の多い「食料資源学科」の割合が低下している。

設問 4. 本学部の入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

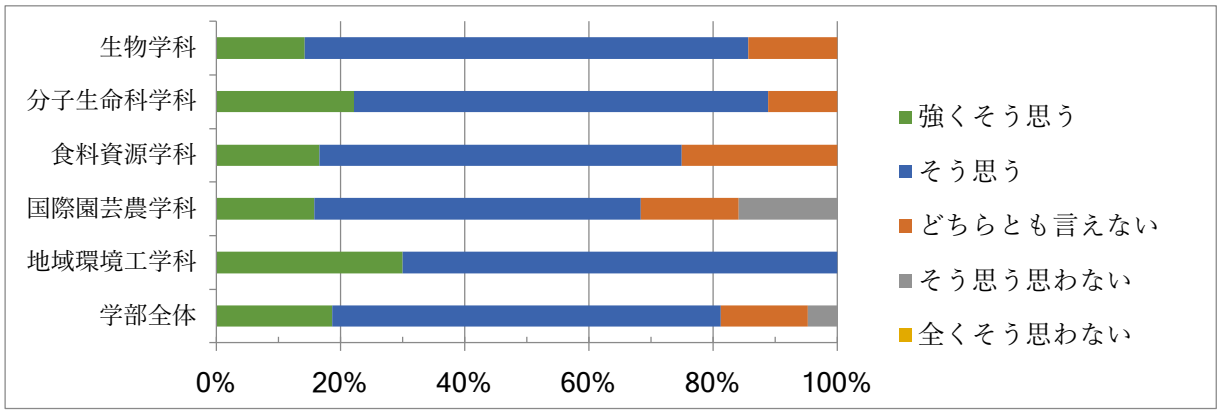


図Ⅲ－ 4.　入学者受け入れ方針の認識

アドミッションポリシーの認知について，3 か年の変化を学部全体で見ると，「知っている」（59%→56%→62%），「大体知っている」（41%→44%→37%），「知らない」（0%→0%→1%）と推移している。このように，教員全員がアドミッションポリシーを概ね認知している。

「知っている」の比率を学科別に 3 カ年で見ると，「生物学科」（56%→72%→57%），「分子生命科学科」（57%→45%→60%），「食料資源学科」（67%→78%→50%），「国際園芸農学科」（50%→34%→63%），「地域環境工学科」（70%→55%→80%）となっている。

設問 5. あなたが所属する学科・コースの教育目標は学部ホームページにあるとおりですが，学科（21 世紀教育科目および専門教育科目）およびコースのカリキュラムはその目標によく合致すると感じていますか。

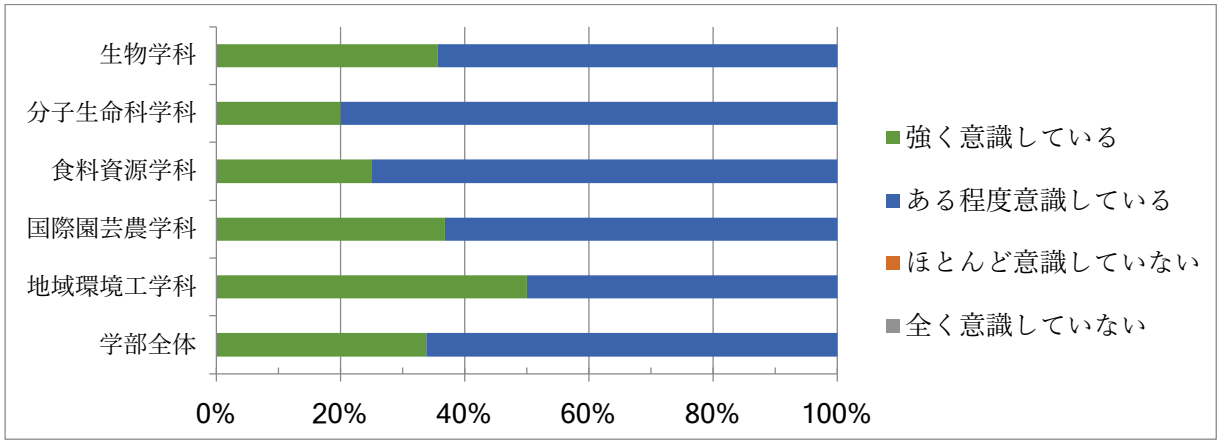


図Ⅲ－ 5.　所属学科・コースの教育目標とカリキュラムとの合致

学部全体では肯定的評価（「強くそう思う」と「そう思う」）を 3 か年で見ると，86%→83%→81%であり，ほとんどの教員が概ね合致すると考えているが，肯定的評価が減少傾向にある。

学科別の「肯定的評価」を 3 か年で見ると，「生物学科」が（100%→73%→86%），「分子生命科学科」（86%→82%→89%），「食料資源学科」（89%→92%→75%），「国際園芸農学科」（64%→79%→68%），「地域環境工学科」（100%→90%→100%）となっている。

設問 6. あなたはシラバス作成時に，学科・コースの教育目的や教育目標に従った講義内容にしようとしていますか。

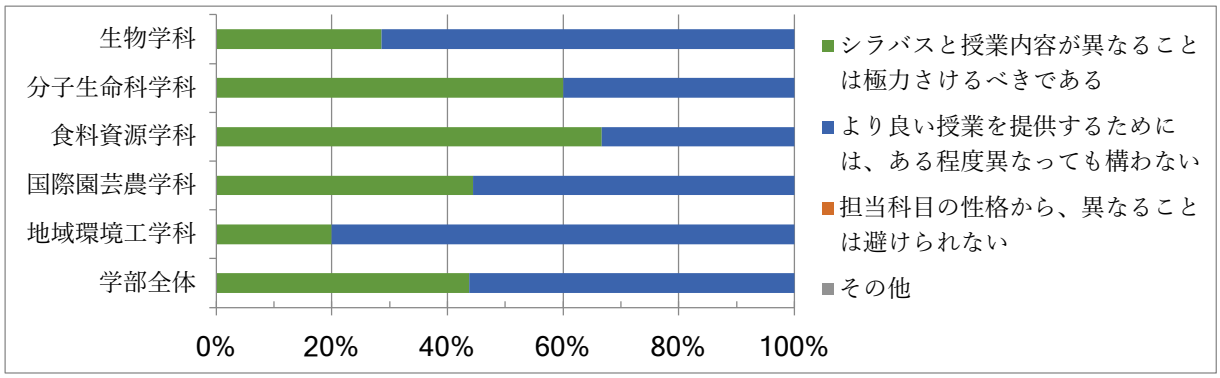


図Ⅲ－ 6.　教育目的・目標に従ったシラバスの作成

3 か年で見ると，学部全体で「強く意識している」（33%→25%→34%），「ある程度意識している」（61%→69%→66%）と推移した。全ての教員が「強く」あるいは「ある程度」意識しており，全体として「教育目的・目標に従ったシラバスの作成」が意識されている。

学科別に「強く意識している」と「ある程度意識している」の合計割合を 3 か年で見ても，「生物学科」が 100%→91%→100%，「分子生命科学科」86%→91%→100%，「食料資源学科」89%→100%→100%，「国際園芸農学科」が 92%→93%→100%，「地域環境工学科」が 100%→100%→100%であり各学科で教育目的・目標に従ったシラバス作成が意識されている。

設問 7. (1) 授業内容がシラバス記載の内容と異なることをどのようにお考えですか。



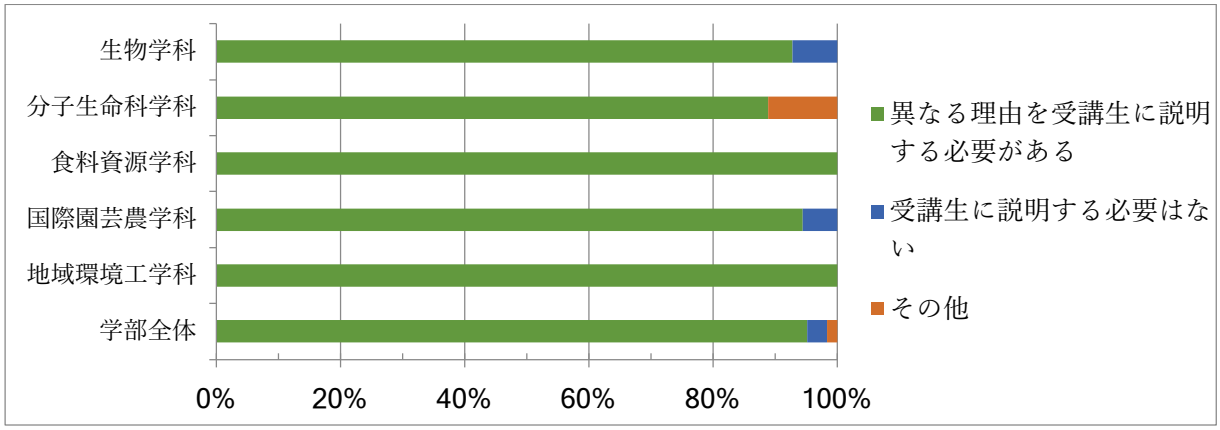
図Ⅲ- 7(1). シラバスと実際の授業内容の不一致に対する見解

3か年で見ると，学部全体で，「極力さける」(41%→51%→44%)，「ある程度異なってもかまわない」(59%→49%→56%)，「異なることは避けられない」(0%→0%→0%) と推移している。このように教員の意見は，「極力さける」と「ある程度異なっても構わない」に分かれている。

学科別の3か年の推移は以下の通りである。「生物学科」では「極力さける」44%→64%→29%，「ある程度異なってもかまわない」56%→36%→71%，「分子生命科学科」では「極力さける」43%→45%→60%，「ある程度異なってもかまわない」56%→55%→40%，「食料資源学科」では「極力さける」67%→54%→67%，「ある程度異なっても構わない」33%→46%→33%，「国際園芸農学科」では「極力さける」36%→71%→44%，「ある程度異なっても構わない」64%→29%→56%，「地域環境工学科」では「極力さける」20%→10%→20%，「ある程度異なっても構わない」80%→90%→80%となった。

シラバスは学生との約束事であり，教員が約束を違えることを極力さけようとするのは当然である。しかし，教育効果を上げるために変更が必要になることもある。どちらに力点を置くのかは，学科間さらには年度によって異なる場合があることが示された。

(2) 何らかの理由で授業内容がシラバス記載の内容と異なった場合，あなたは受講生に対する説明の必要性についてどのようにお考えですか。



図Ⅲ- 7(2). シラバスと授業内容が異なる場合の受講生への説明

3か年で見ると「異なる理由を受講生に説明する必要がある」が 91%→92%→95%と大勢を占

めている。しかし，「説明する必要はない」との意見も 4%→3%→3%ある。

「その他」の「自由記述欄」には，以下の記述があった。

【分子生命科学科】

・どちらでもよい。

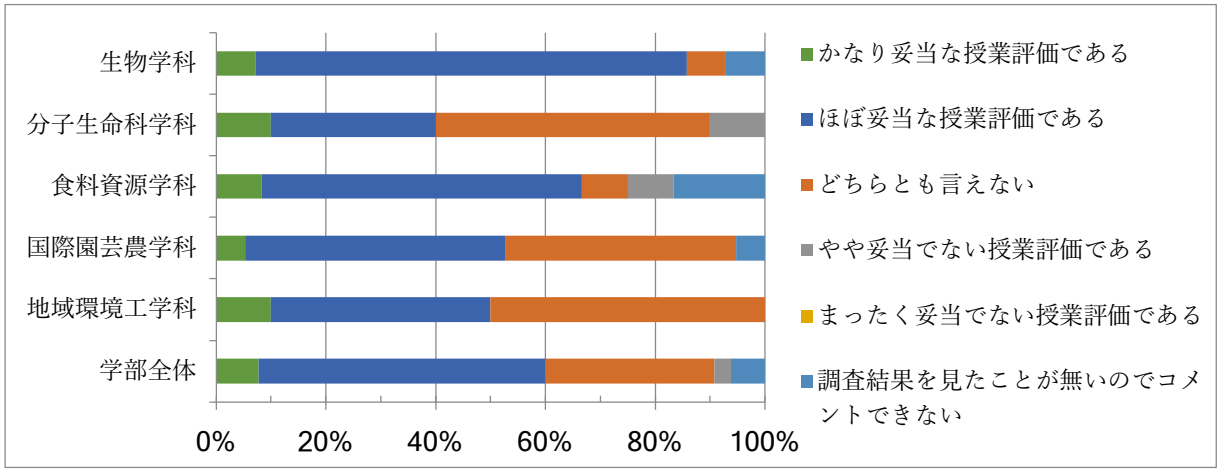
(3) 上記の質問で２．と回答した理由を教えて下さい。

【国際園芸農学科】

・講義には、円滑性・柔軟性があるはず。

設問 8. 本学では「授業方法改善のための学生による授業評価に関するアンケート調査」が平成 15 年度後期から実施されています。その結果についてお尋ねします。

(1) 学生による授業評価の妥当性についてどのようにお考えですか。

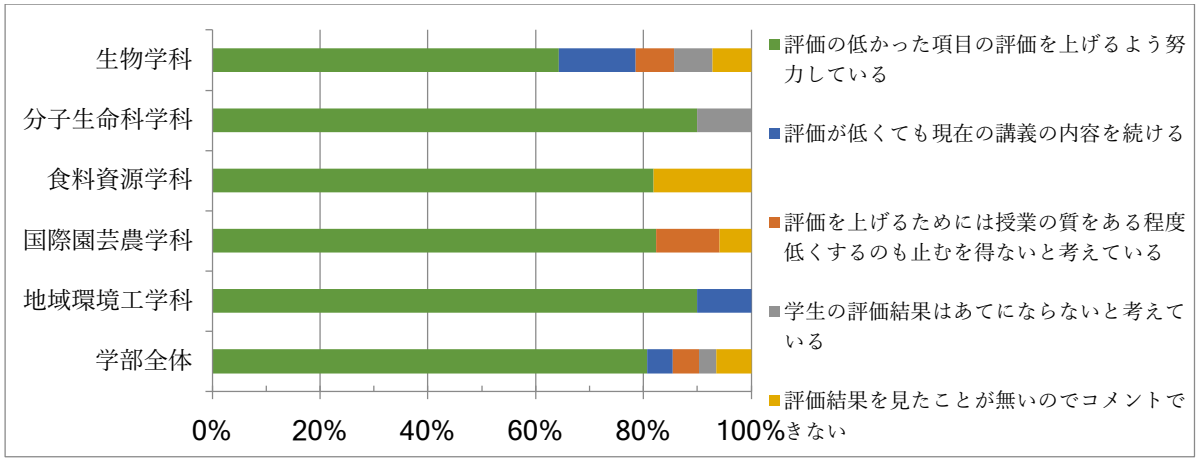


図Ⅲ- 8(1)．学生による授業評価アンケートの妥当性

3 か年で見ると学部全体では，「かなり妥当」と「ほぼ妥当」の合計は 57%→56%→60%と推移した。「やや妥当でない」と「まったく妥当でない」の合計は，8%→0%→3%と推移した。6 割近い教員は学生による授業評価を概ね妥当だと肯定的に受け止めているが， 31%の教員は「どちらとも言えない」と懐疑的である。「調査結果を見たことが無いのでコメントできない」が 6%みられるが，講義担当前の新任教員の回答が中心と思われる。

「かなり妥当」と「ほぼ妥当」の合計の 3 か年の変化を学科別に見ると，「生物学科」(78%→64%→86%)，「分子生命科学科」(57%→27%→40%)，「食料資源学科」(56%→31%→67%)，「国際園芸農学科」(50%→64%→53%)，「地域環境工学科」(50%→60%→50%) となっている。「学生による授業評価」への信頼感の度合いは，「生物学科」，「国際園芸科学科」，「地域環境工学科」が 3 年連続 5 割以上で，「分子生命科学科」，「食料資源学科」は昨年度に比較し信頼度が回復した傾向が見られる。

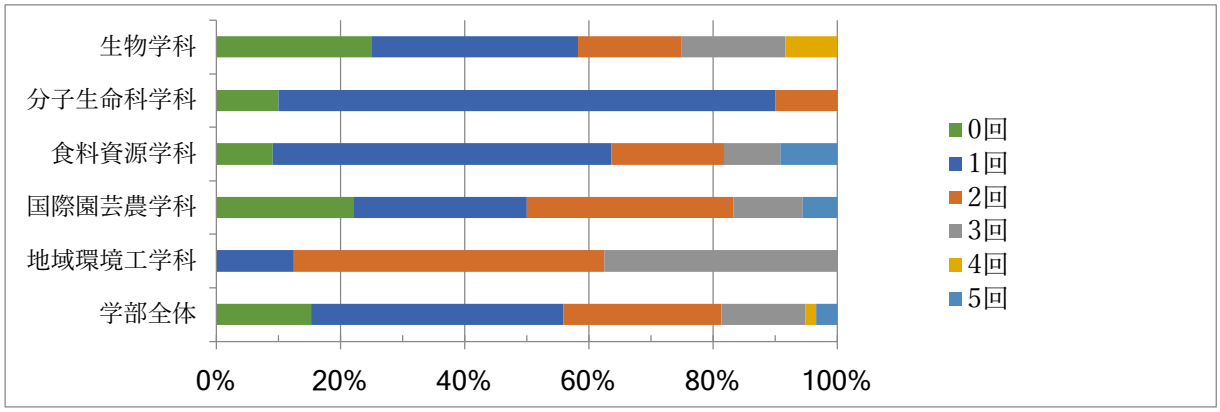
(2) 授業評価の結果を改善に利用していますか。



図Ⅲ－ 8(2)．学生による授業評価結果の授業改善への利用

3 か年で見ると，学部全体では「評価の低かった項目の評価を上げるよう努力している」(90%→86%→81%)，「評価が低くても現在の講義の内容を続ける」(2%→3%→5%)，「評価を上げるためには授業の質をある程度低くするのもやむを得ない」(6%→7%→5%)，「学生の評価結果はあてにならない」(4%→0%→3%)，「評価結果を見たことがないのでコメントできない」(2%→2%→6%) となった。8 割を超える教員が授業評価結果を授業の改善に利用しているが，漸減傾向が見られる。また，問 8(1) と同様に「調査結果を見たことが無いのでコメントできない」が 6% みられ講義担当前の新任教員の回答と思われる。

設問 9．本学では授業改善のための各種の研修活動（ＦＤ活動）が行われています。
(1) この１年間でどのようなＦＤ活動に参加されましたか。参加された回数をお答え下さい。
（参加されなかった場合は０を記入して下さい）。
1．学部主催のＦＤ活動

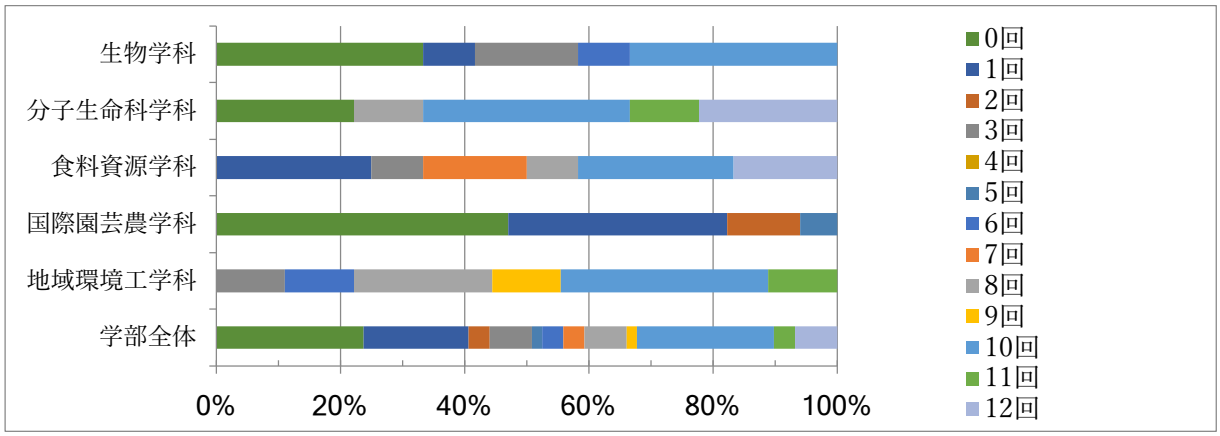


図Ⅲ－ 9(1) － 1．学部主催のＦＤ活動への参加回数

学部主催のＦＤ活動への参加回数毎の集計を 3 か年で見ると，学部全体で 0 回（18%→17%→15%），1 回（11%→34%→41%），2 回（13%→36%→25%），3 回（37%→11%→25%）であった。1 回以上，ＦＤ活動に参加した教員は 85%を占めている（前年度 83%）。

学部全体の延べ参加回数を 3 か年で見ると 91 回→78 回→92 回と推移した。1 教員当たりの参加回数を 3 か年で見ると，学部全体では 2.4 回→1.5 回→1.6 回と推移した。

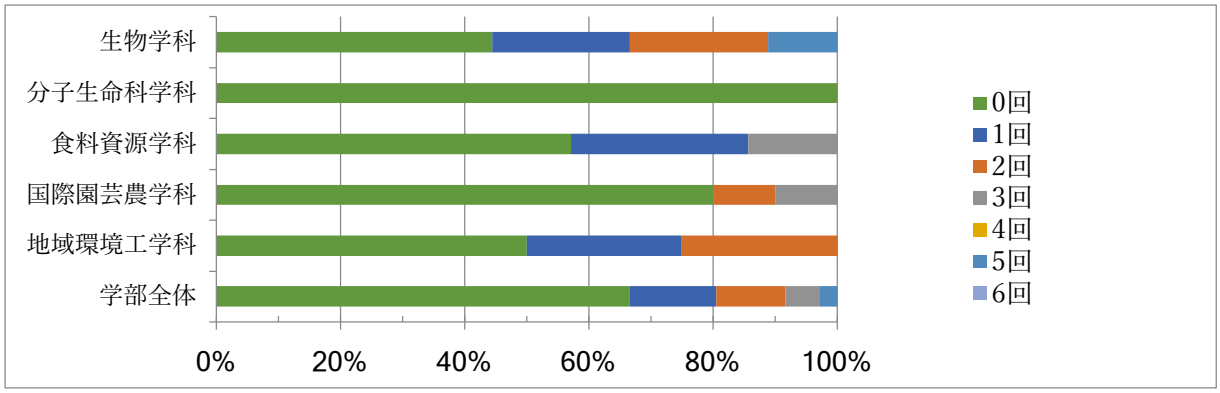
2. 学科主催のＦＤ活動



図Ⅲ－ 9(1) － 2. 学科主催のＦＤ活動への参加回数

学科主催のＦＤ活動への参加回数は，多い教員で 12 回である（分子生命科学科，食料資源学科で 2 名ずつ）。学科別の 1 教員当たりの参加回数を 3 か年で見ると，「生物学科」（7.0 回→3.7 回→4.4 回），「分子生命科学科」（5.8 回→10.2 回→8.1 回），「食料資源学科」（1.4 回→1.8 回→6.8 回），「国際園芸農学科」（1.1 回→0.2 回→0.9 回），「地域環境工学科」（2.1 回→1.2 回→8.3 回），となっている。「生物学科」，「分子生命科学科」が継続して多く，「国際園芸農学科」が少ない。「食料資源学科」，「地域環境工学科」が大きく増加した。回数の違いは，学科によってＦＤの位置付けに違いがあるためと考えられる。

3. その他の活動



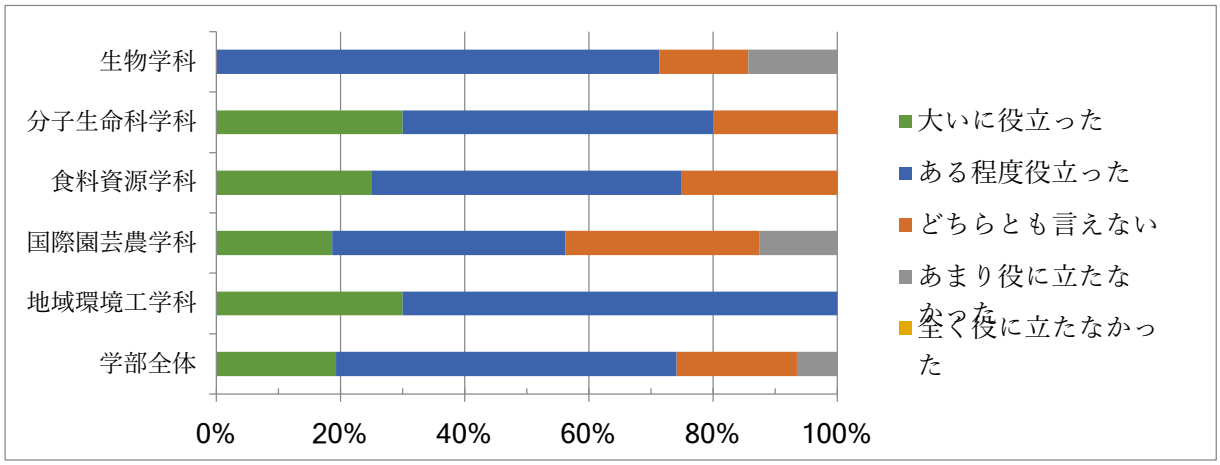
図Ⅲ－ 9(1) － 3. その他の活動への参加回数

その他のＦＤ活動とは，大学全体のＦＤ活動や学外でのＦＤ活動である。参加回数毎に 3 か年で見ると，学部全体では 0 回（72%→56%→67%），1 回（9%→23%→14%），2 回（13%→19%→11%），3 回(4%→4%→6%)，4 回(2%→0%→0%)，5 回（0%→0%→3%）となっている。

学科別の回答者 1 人当りの平均参加回数を 3 か年で見ると，「生物学科」（0.8 回→1 回→1.2 回），「分子生命科学科」（0.4 回→1 回→0 回），「食料資源学科」（0.1 回→0.2 回→0.7 回），「国際園芸農学科」（0.8 回→0.9 回→0.5 回），「地域環境工学科」（0.6 回→1 回→0.8 回）と推移してい

る。約 7 割の教員が，学部や学科主宰以外のＦＤ活動へは参加していない状況が認められる。

(2) 参加された活動は，教育改善に役立ちましたか。

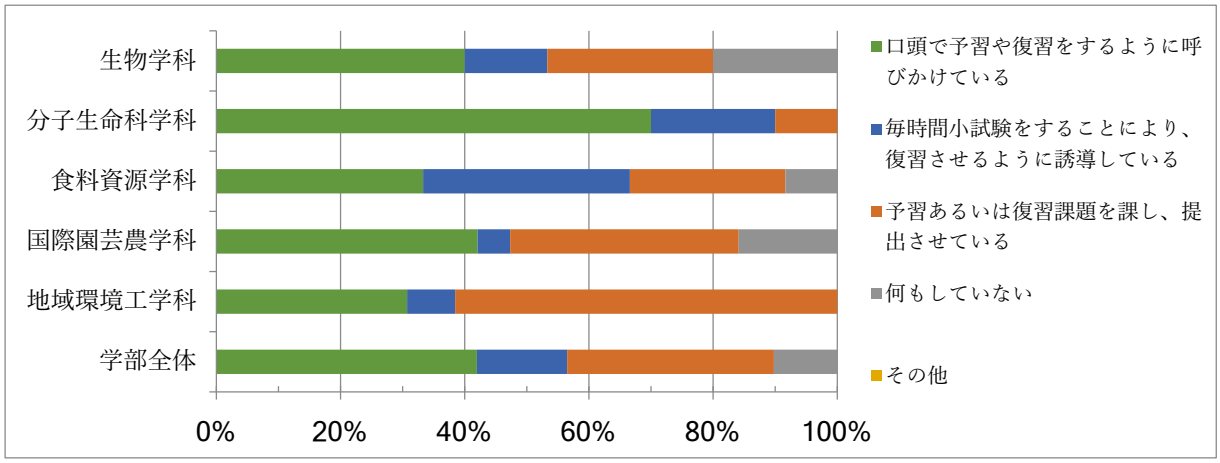


図Ⅲ－ 9(2)．参加したＦＤ活動の教育改善効果

学部全体では 3 か年で見ると，肯定的評価（「大いに役立った」19%，「ある程度役立った」55%）が 78%→76%→74%であった。8 割に近い教員がＦＤ活動の教育改善効果を認めているが，「どちらとも言えない」（19%）や「あまり役に立たなかった」（6%）という評価もあった。

学科別に 3 か年で見ると，肯定的評価は「生物学科」（100%→67%→71%），「分子生命科学科」（71%→73%→80%），「食料資源学科」（63%→90%→75%），「国際園芸農学科」（64%→58%→56%），「地域環境工学科」（100%→100%→100%）であった。

設問 10．担当科目において学生の授業時間外の学習を促すためにどのような工夫をしていますか。



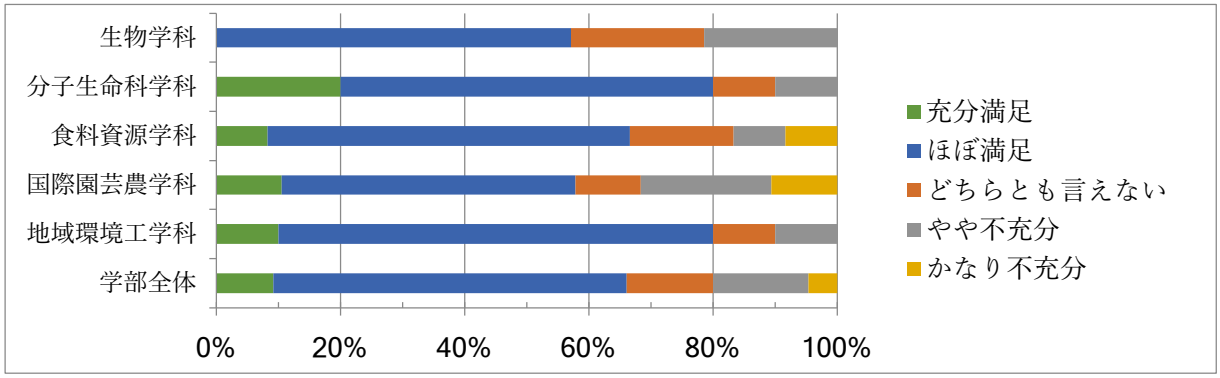
図Ⅲ－ 10．学生に対する時間外学習の促進方法

3 か年の推移を見ると，学部全体では，「口頭での予習・復習の呼びかけ」（39%→45%→42%），「予習・復習課題を課す」（31%→22%→33%），「小試験で復習を誘導する」（20%→20%→14%），「何もしていない」（8%→7%→10%），その他（2%→6%→0%）であった。約 9 割近い教員が時間外学習を促している一方で，「何もしていない」の微増している部分は改善の余地がある。

「その他」の自由記述欄には，記述がなかった。

設問 11.（1）本学部の以下の施設と設備についてどのように感じていますか。該当する欄に〇を書き込んで下さい。

1. 講義室

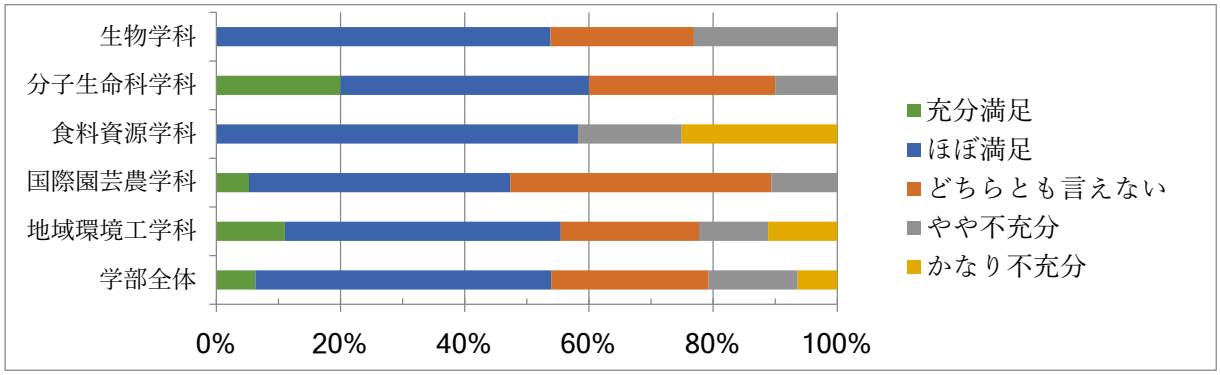


図Ⅲ－ 11(1) － 1. 本学部の施設に対する満足度（講義室）

講義室について 3 か年で見ると，学部全体では「充分満足・ほぼ満足」(75%→71%→66%)，「どちらとも言えない」(10%→14%→14%)，「やや不充分」(13%→7%→15%)，「かなり不充分」(2%→3%→5%) であった。「充分満足・ほぼ満足」の減少傾向は，昨今の夏の暑さの影響もあると思われる。順次，エアコンの整備が進んでいるが，今後の動向を注視する必要がある。

「充分満足」・「ほぼ満足」を学科別に見ると「生物学科」(67%→64%→57%)，「分子生命科学科」(83%→91%→80%)，「食料資源学科」(78%→69%→67%)，「国際園芸農学科」(64%→50%→58%)，「地域環境工学科」(90%→90%→80%) となった。

2. 実験・実習室



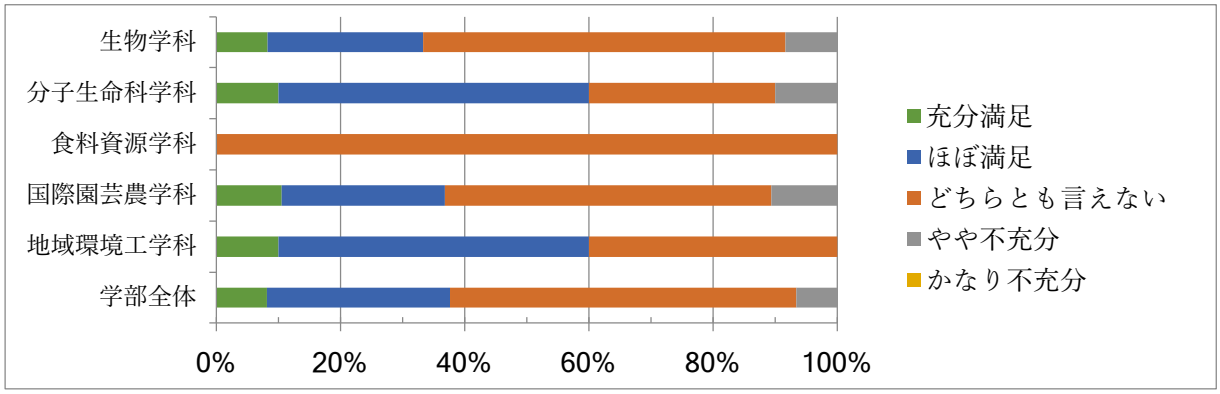
図Ⅲ－ 11(1) － 2. 本学部の施設に対する満足度（実験・実習室）

実験・実習室について 3 か年で見ると，学部全体では「充分満足・ほぼ満足」(46%→54%→54%)，「どちらとも言えない」(25%→24%→25%)，「かなり不充分・やや不充分」(29%→22%→21%) と推移している。このように，半数近い教員（46%）が「満足」していない。

学科別に「充分満足」・「ほぼ満足」を見ると「生物学科」(11%→55%→54%)，「分子生命科学科」(50%→55%→60%)，「食料資源学科」(44%→54%→58%)，「国際園芸農学科」(57%→43%→47%)，「地域環境工学科」(60%→70%→56%) であった。「かなり不充分・やや不充分」は，

「生物学科」(67%→18%→23%),「分子生命科学科」(33%→36%→10%),「食料資源学科」(44%→31%→42%),「国際園芸農学科」(7%→14%→11%),「地域環境工学科」(10%→10%→22%)と推移した。「食料資源学科」に不充分と考える教員が 4 割合以上と高い。

3. 情報処理演習室

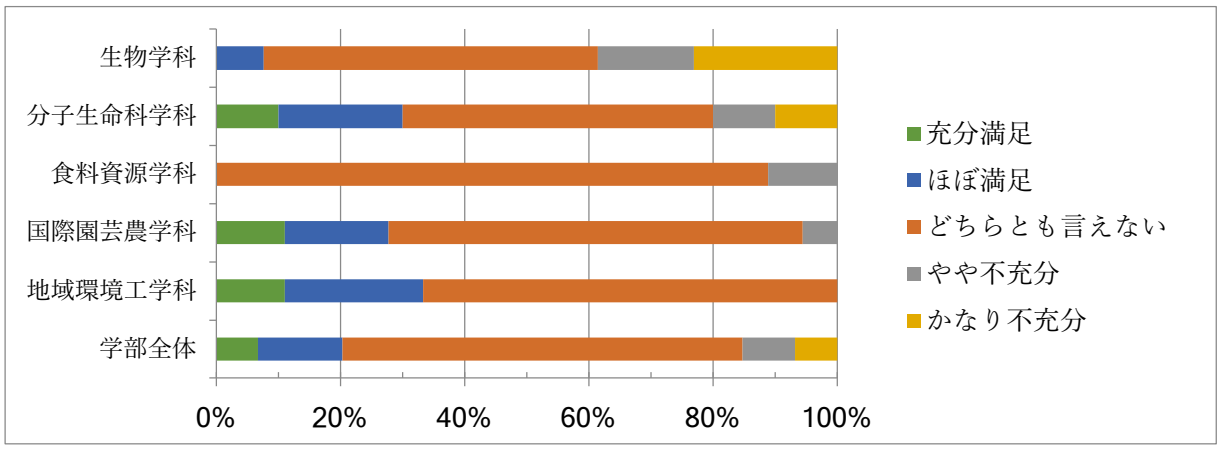


図Ⅲ- 11(1) - 3. 本学部の施設に対する満足度（情報処理演習室）

情報処理演習室について 3 か年で見ると，学部全体では「充分満足・ほぼ満足」(66%→55%→38%),「どちらとも言えない」(30%→45%→56%),「かなり不充分・やや不充分」(4%→0%→7%）と推移した。肯定的評価が減少し,「どちらとも言えない」が過半数となった。この結果は,講義等での利用頻度によるものと考えられる。

学科別に「充分満足・ほぼ満足」を見ると「生物学科」(89%→82%→33%),「分子生命科学科」(83%→45%→60%),「食料資源学科」(33%→30%→0%),「国際園芸農学科」(54%→38%→37%),「地域環境工学科」(80%→80%→60%）と各学科とも概ね低下傾向にある。「かなり不十分・やや不十分」は,「生物学科」(0%→0%→8%),「分子生命科学科」(0%→0%→10%),「食料資源学科」(0%→0%→0%),「国際園芸農学科」(8%→0%→11%),「地域環境工学科」(10%→10%→0%）であった。各学科とも「どちらとも言えない」が多くなっており，演習室のあり方について検討する必要がある。

4. 蔵書室(4 階)

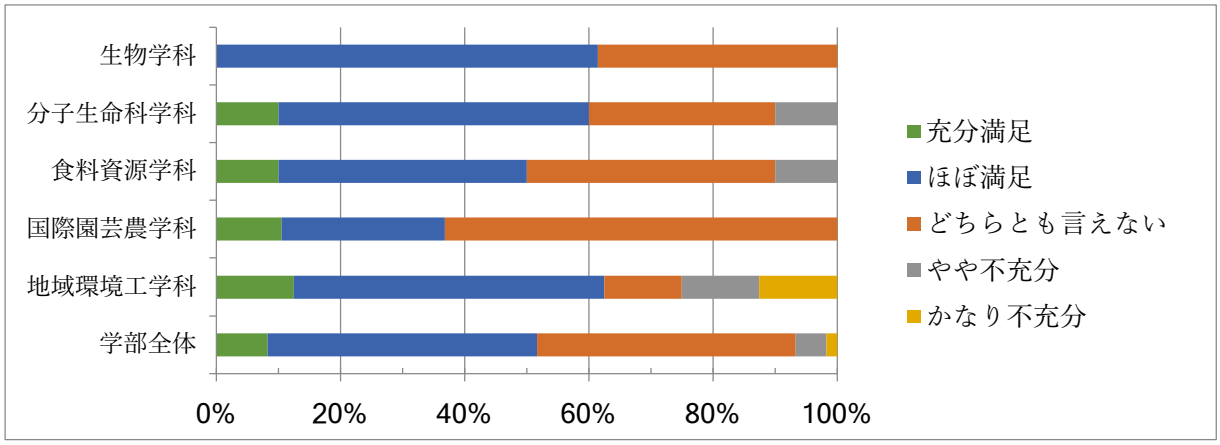


図Ⅲ- 11(1) - 4. 本学部の施設に対する満足度（蔵書室［4 階］）

4 階の蔵書室は、平成 28 年 3 月に 2 階の図書閲覧室の書物が移されて新設された。過去 3 か年で見ると、学部全体では「充分満足・ほぼ満足」が 33%→25%→20%,「どちらとも言えない」が 57%→58%→64%,「やや不充分」が 11%→8%→8%,「かなり不充分」が 0%→9%→7%と推移している。「やや不充分」,「かなり不充分」は 15%程度であるが，6 割以上の教員が「どちらとも言えない」と答えている。認知度が低く，あまり有効に活用されていない状況が考えられる。

学科別に「充分満足」と「ほぼ満足」の合計を見ると「生物学科」が 33%→30%→8%,「分子生命科学科」が 33%→20%→30%,「食料資源学科」が 25%→30%→0%,「国際園芸農学科」が 31%→15%→28%,「地域環境工学科」が 40%→30%→33%と推移している。

5. 学生自習室・学生控室(2 階)

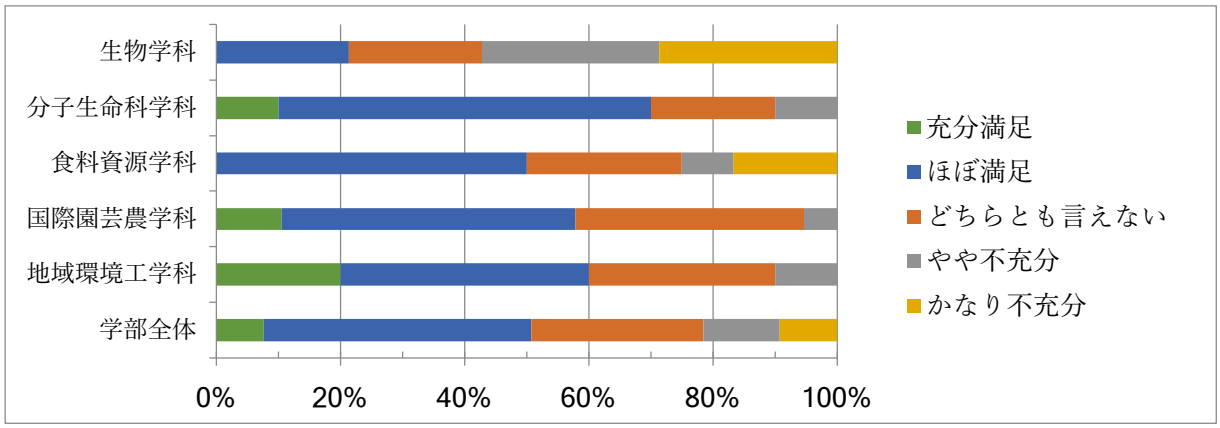


図Ⅲ- 11(1) - 5. 本学部の施設に対する満足度（学生実習室・学生控室［2 階］）

2 階の学生自習室・学生控室(2 階) は平成 28 年 3 月より新設された。過去 3 か年で見ると，学部全体では「充分満足・ほぼ満足」が 62%→51%→52%,「どちらとも言えない」が 30%→38%→42%,「やや不充分」が 6%→7%→5%,「かなり不充分」が 2%→4%→2%と推移している。このように，約 5 割の教員が概ね満足している。

学科別に「充分満足」と「ほぼ満足」の合計を見ると,「生物学科」が 56%→40%→62%,「分子生命科学科」が 33%→36%→60%,「食料資源学科」が 67%→73%→50%,「国際園芸農学科」が 69%→46%→37%,「地域環境工学科」が 70%→60%→63%と推移している。他学科は若干の増減傾向を繰り返しているが，国際園芸農学科は年々低下し 3 か年でほぼ半減している。「かなり不充分」と「やや不充分」の合計は,「生物学科」が 11%→20%→0%,「分子生命科学科」が 0%→9%→10%,「食料資源学科」が 11%→0%→10%,「国際園芸農学科」が 8%→15%→0%,「地域環境工学科」が 10%→10%→25%と推移している。

6. 研究室



図Ⅲ－ 11(1) － 6. 本学部の施設に対する満足度（研究室）

研究室について 3 か年で見ると，学部全体では「充分満足・ほぼ満足」(62%→51%→51%)，「どちらとも言えない」(23%→20%→28%)，「かなり不充分・やや不充分」(15%→29%→22%)と推移した。満足している教員が 5 割を維持しているが，不充分と感じている教員も半数程度いる状況である。

学科別に「充分満足・ほぼ満足」を見ると，「生物学科」(33%→45%→21%)，「分子生命科学科」(67%→36%→70%)，「食料資源学科」(78%→62%→50%)，「国際園芸農学科」(57%→64%→58%)「地域環境工学科」(80%→40%→60%) である。「かなり不充分・やや不充分」は，「生物学科」(33%→45%→57%)，「分子生命科学科」(17%→55%→10%)，「食料資源学科」(11%→23%→25%)，「国際園芸農学科」(7%→14%→5%)，「地域環境工学科」(10%→10%→10%)と推移した。3 か年継続し「生物学科」の満足度が低下し，不満を感じている割合が過半数を超えている。

(2) 上記で「4. やや不充分」と「5. かなり不充分」を選択した場合，その理由を次の欄に具体的に書いて下さい。

【生物学科】

・実験器具が古く、十分に機能するものが全員に行き渡らない。空調がなく(エアコン）実験に制限が生じる（実験室）
・仕方がないが、研究室が狭くて困っている。産業医の巡視の度にいろいろクレームをつけられるが、物の置場もない。学生数も今後増えるので、本当に困っている（研究室）
・クーラーがない。ＤＶＤ、マイク等の設備が良くない部屋が多い（講義室）
・設備、広さに問題（研究室・実験室）
・学生の人数に対して、面積が不足している（研究室）
・研究費を得て、新たな装置を導入して、研究を進めていこうにも、スペースに全く拡張性や柔軟性がないために思うように進められない（実験室）
・生物の実験なのに、調温の困難さ、課金までされる（実験室）
・スペースが足りない、窮屈（研究室・実験室）
・プロジェクターの古さ、エアコンの不備、研究室のスペースの狭さ、設備の不備（講義室・研究室・実験室）
・2～5 の「どちらとも言えない」は、利用していないので、この判断。6. 研究室は、教員・学生

双方にとって、十分な広さがないこと。エアコン設備がない。プロジェクターの質が低い講義室がある。マイク設備のない講義室がある。講義室の数が不足している。実験室の基本的設備（天秤等）の数が不足している（講義室，実験・実習室）

【分子生命科学科】
・実験室にエアコンがついていないため。情報処理演習室は狭いため、通路から離れた位置にいる学生まで目が届きにくいため（実験室・情報処理演習室・講義室）
・1．講義室：通路を歩けないほど、可動式の机を置くことはおかしい。試験もやりにくい。　5．学習自習室・学生控室：図書室とつなげて、広いスペースを利用させた方が良い（講義室にいるより良い）。　6．研究室：近い分野（内容が）が集められていないので、共有機器（冷蔵・冷凍含む）が少ない。
・不便になった

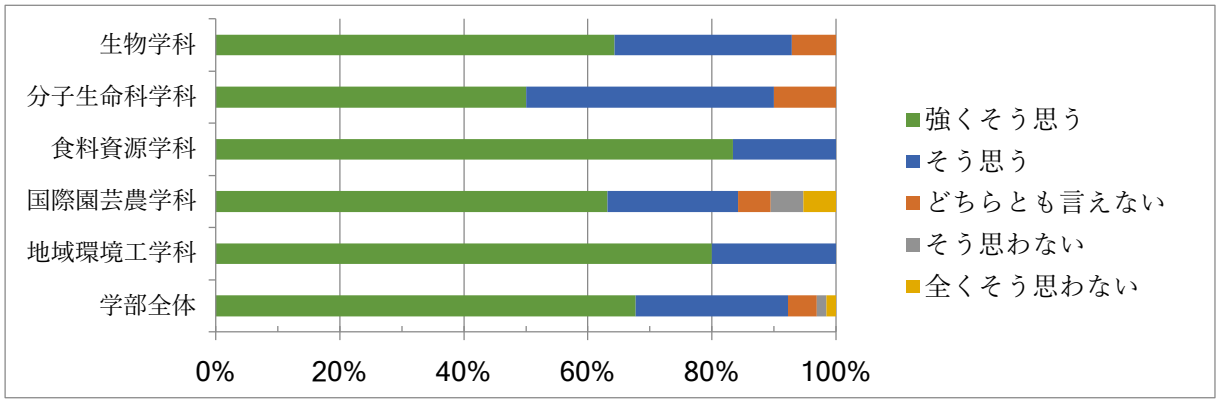
【食料資源科学科】
・学生実験室にエアコンがなく、夏場の実験に支障が出る。研究室に十分なスペースがない（実験室・研究室）
・ 広いスペースで物事をさせてあげたいから（実験室）
・ 前任の教員が学生控室を作らず、すべて実験室にしてしまったため、学生は飲食ができず、不自由している。そもそも全職員一律の部屋にせず、好き放題に作らせたのが間違い！（実験室）
・ 空調が整っていない（実験室・研究室）
・ クーラーがない（実験室・研究室）
・ 実験室・研究室は、学生人数に比して狭い（学生にも不評）。定員が増えたにもかかわらず、授業で使う実験器具を充実させるべきである。学生が払った授業料に見合うだけのものは提供すべきと思う（実験室・研究室）

【国際園芸農学科】
・黒板への板書とパワーポイント表示用のスクリーンを同時に使えるようにしてほしい（講義室）
・講義室プロジェクターにＰＣの画面が納まりきらない。冬季、熱気が上方に充満し、プロジェクターが異常加熱で停止する。サーキュレーションの工夫は急務（頭寒足熱、学習効率も上がる）（講義室）
・冷房が整備されるべき
・1．講義室：パソコンを設置してほしい。　3．情報処理演習室：故障した機器が時々ある（講義室・情報処理演習室）

【地域環境科学科】
・狭いと思う。
・2．実験・実習室：野外にある農地工学実験室が古く、冬場は寒い。　5．学生自習室・学生控室：自習室が狭いと感じる。

設問 12．(1) 卒業研究は必要であると思いますか。

1．強くそう思う　2．そう思う　3．どちらとも言えない　4．そう思わない　5．全くそう思わない



図Ⅲ－ 12(1)．卒業研究は必要か

3か年で見ると，学部全体で，「強くそう思う・そう思う」(90%→90%→92%)，「どちらとも言えない」(10%→8%→5%)，「そう思わない・全くそう思わない」(0%→2%→3%) となった。卒業研究は必要と考える教員の割合は9割を超えている。

学科別に見ると，「強くそう思う・そう思う」は，「生物学科」(100%→82%→93%)，「分子生命科学科」(89%→100%→90%)，「食料資源学科」(89%→85%→100%)，「国際園芸農学科」(79%→86%→84%)，「地域環境工学科」(100%→100%→100%) と推移した。

(2) 上記のように回答した理由を下欄に分りやすく記入して下さい。

【生物学科】

1. 国立大の理系で、卒業研究がないことは考えられない。学生が社会に出る前に、最後に教育を受ける重要な項目の一つである。
1. 何か一つの事を時間をかけて、計画を立て、実行し、失敗を繰り返しながら、改善していくという経験は、社会に出ても役に立つ。
1. 自主的な活動で、教科書では得られないものをたくさん学べる。教員とのコミュニケーションを通じて、成長できることが多い。
1. 日本の大学教育で、最も成功している例。
1. 研究を行わないと学力は向上しない。
1. 論理的思考力の育成、責任感の育成、コミュニケーション能力の育成。
1. どのようなテーマでも、結果よりもそのプロセスが重要であり、社会においても良い経験となると思うので。
1. 結果がどうであれ、一つの目標を持って、教員(専門家)の指導の下で取り組むのは良いことと思います。
2. 卒業研究をすることで、大きく成長する学生がいるから。選択制にすると、その機会を奪いかねない。
2. 大学での学習の結果が反映されるから。
3. 選択にしても良いと思うようになった。一定数必ずいるモチベーションの低い学生には（その指導教員にとっても）重い「かせ」となる。

【分子生命科学科】

1. 学生の精神的(心的)成長につながり、根拠のある自信を持って社会で活躍することができる。

1. 研究論文の書き方を一通り学べるため。
1. 生の評判が良い（やって良かったという声が多い)。
2. 専門性の高い技術や考え方を修得する機会となる。
2. 体験することが何よりも重要。
3. 学生による。

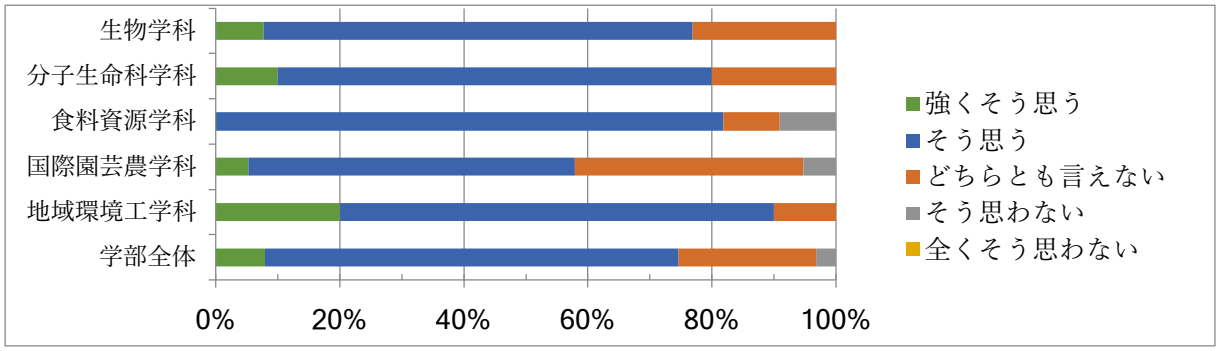
【食料資源学科】
1. 知識を活用し、自身で考え、行動する力を最も要求されると共に、論理的思考、調査力の向上につながる。
1. 理系の学部では、あって当然であると思う。
1. 卒業研究がなければ、専門学校と変わらなくなってしまう。ただし、教員一人当たりの卒研生が五人よりも多くなった場合、卒業研究を選択にする必要がある。できればそうならないようにしてほしいが。
1. 目標を見つけて、克服して、まとめる能力を習得させるためには、重要な科目。
1. 総合的に考える力を養えるため。
2. 専門性が身につく。

【国際園芸農学科】
1. 自身で問題を解決する能力、わかりやすく説明する能力が身につく。受身でなく主体的に学問を追究できる。
1. 学生が自ら取り組むことで、知ることが多いと考える。
1. 社会との接点を持つ、資料収集の方法を学ぶ、論理的思考の訓練など、社会人として必須のスキルを学べる。
1. 課題に取り組む力、まとめる力、考える力をつけることができるから。
1. 教員一人で十人以上の学生を担当し、卒業研究不要の私立大学と差別するため。卒業研究を通じて、学生が成長するのを感じるため。
2. 主体的に学ぶ学生が多ければあった方がいいと思うが、そうでない場合は、教員・学生双方にとって、負担でしかない。
2. 知識を活かし、自ら考え、創意工夫するプロセスは、有意義である。今後何らかの形で生きてくるものでは、と考えています。
2. 特に理系では、研究活動を行うことで、学習したことを実際に活用する力がつくと思われるため。ただ、研究に興味がない学生にとっては、意味があまりないので「強く」は思わない。
3. 意味あるかはわからない。
5. 教員から与えられたテーマで、指示通りやっている卒業研究も多いように見受けられるため。学部生に卒業研究を課すのは、事実上無理なので、そのようになるのではないか。

【地域環境工学科】
1. 学生の能力が伸びる。
1. 社会人に向けての自信となると考える。
1. 総合的な力の育成に必要。
1. 自ら考え、自主的に取り組む科目として、大切に考えている。

2. 高等教育の場であるため。
2. 卒業研究によって、データを読み解く力や文章力、責任感など社会人として、必要なスキルが身につくと思うので。

設問 13. (1) あなたの学科の大多数の卒業生は,本学部での教育により大学卒業生に相応の知識と学力を身に付けたと思いますか。



図Ⅲ- 13(1). 学部卒業生に相応の知識と学力を身に付けたか

3か年で見ると学部全体で,「強くそう思う・そう思う」(59%→72%→75%),「どちらとも言えない」(35%→21%→21%),「全くそう思わない・そう思わない」(6%→7%→3%) であった。7割超の教員が,「卒業生は知識と学力を身に付けた」と考えている。

学科別に3か年で「強くそう思う・そう思う」を見ると,「生物学科」(67%→55%→77%),「分子生命科学科」(29%→64%→80%),「食料資源学科」(56%→83%→82%),「国際園芸農学科」(50%→69%→58%),「地域環境工学科」(90%→100%→90%), と推移している。このように,学部生の知識と学力が身についたと感じる度合いは, 例年において「地域環境工学科」が9割以上と高く,「国際園芸農学科」が5,6割と低い傾向が見られる。「全くそうは思わない・そう思わない」は, 各学科とも大きく減少し,「生物学科」(11%→18%→0%),「分子生命科学科」(0%→9%→0%),「食料資源学科」(22%→11%→2%),「国際園芸農学科」(7%→8%→2%),「地域環境工学科」(0%→0%→0%) と推移した。

(2) 上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合, その理由は何ですか。以下の中から選んで下さい。

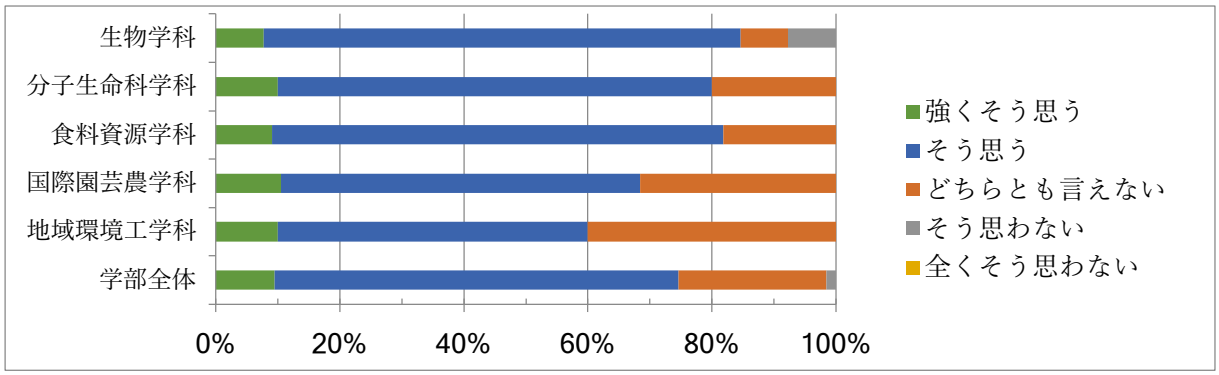
1. 学生に意欲がない　2. 学生の基礎学力不足　3. 講義内容が高度過ぎた
4. 教員に問題　5. その他 (　　)

表Ⅲ- 13(2). 身についていない理由 (学部)

理　由	回答数 (学科)
学生に意欲がない	2 (生物1, 食料資源1)
学生の基礎学力不足	0
講義内容が高度過ぎた	0
教員に問題	1 (生物1)
その他	0

3 か年で見ると，「学生の基礎学力不足」（3 人→3 人→0 人），「学生の意欲がない」（1 人→2 人→2 人），「教員に問題」（0 人→1 人→1 人），「講義内容が高度過ぎた」（0 人→1 人→0 人）と推移した。「その他」（自由記述欄）への記載はなかった。

設問 14.（1）あなたの専攻の大多数の修了生は，本研究科での教育により大学院修了程度の専門知識を身に付けたと思いますか。



図Ⅲ- 14(1)．大学院修了生は相応の専門知識を身に付けたか

3 か年で見ると研究科全体で「強くそう思う・そう思う」（65%→74%→75%），「どちらとも言えない」（33%→26%→24%），「全くそう思わない・そう思わない」（2%→0%→2%）であった。

コース別に 3 か年で見ると，「強くそう思う・そう思う」は，「生物学コース」（50%→91%→85%），「分子生命科学コース」（43%→91%→80%），「生物資源学コース」（88%→83%→82%），「園芸農学コース」（57%→43%→68%），「地域環境工学コース」（89%→90%→60%）と推移した。他コースは大きな変化はみられないが，「地域環境工学コース」の割合が大きく低下した。

(2) 上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合，その理由は何ですか．以下の中から選んで下さい。

1. 学生に意欲がない　2. 学生の基礎学力不足　3. 講義内容が高度過ぎた
4. 教員に問題　5. その他（　　）

表Ⅲ- 14(2)．身についていない理由（研究科）

理　由	回答数（コース）
学生に意欲がない	3（生物２，分子生命１）
学生の基礎学力不足	0
講義内容が高度過ぎた	0
教員に問題	0
その他	0

これまでは，「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した教員がいなかったが，今年度は研究科について，「学生に意欲がない」という回答が３件（生物２・分子１）あった。

Ⅳ．教員対象授業アンケート（学部授業および研究科授業）

１．アンケート調査内容

調査目的：農学生命科学部および研究科の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため，学部および研究科の授業に関する教員の意識について調査することを目的にアンケート調査を実施した。

調査方法：各教員にアンケート用紙を配布することで調査を行った。各教員が担当している授業のうち最も重要と考えられる学部専門教育科目，研究科講義科目それぞれ１科目の合計２科目について回答してもらった。

調査対象：平成 31 年 2 月に学部，研究科および生物共生教育研究センター所属の教員とした。

調査期間：平成 31 年 2 月 21 日～3 月 8 日

教員数：　80 人　回答者数：　61 人(学部)，57 人(研究科)

調査項目：設問は以下の通りである。

［学部授業に関する調査］

設問 1．あなたが所属する学科を選択して下さい[注 1)]。

1．生物学科　　2．分子生命科学科　　3．生物資源学科　　4．園芸農学科

5．地域環境工学科

*生物共生教育研究センターの先生は 4 をお選び下さい。

設問 2．授業の予定回数と実施回数について記入して下さい。

① 予定回数（2 単位 15 回とし、集中講義の場合は 90 分間を 1 回に換算して下さい。オムニバス形式の科目を除きます）　（　　）回

② 実施回数(集中講義の場合は 90 分間を 1 回に換算して下さい。オムニバス形式の科目を除きます)　（　　）回

設問 3．休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。

1．休講回数分を補講した　2．一部補講した　3．他の措置（　　）

4．何もしなかった

設問 4.

① シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。

1．シラバスに記載した内容に一致させて講義を行った

2．シラバスに記載した内容を意識し、できるだけ沿うように講義した

3．シラバスに記載した内容にはとらわれないで講義した

② 上記で、「3.」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記入して下さい。

設問 5.

① 本年度のシラバスの記載内容は昨年度と同一でしたか。

1．昨年度と同一であった　2．一部変更した　3．大幅に変更した

② 上記で、「2．」または「3．」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。

③ 上記の場合で、シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。

1．教育効果が向上した　2．教育効果は変わらなかった　3．教育効果は低下した

4. 分からない

④ 上記の設問③で「１」と回答した方は、その具体的な事例を教えて下さい。

設問 6. 学部の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。

1. 大多数の学生のレベルを意識して展開した
2. より専門性を重視して展開した
3. その他（　　）

設問 7. 学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい（複数回答可）。

1. 視聴覚教材（ビデオや DVD 教材など）の利用
2. 画像データ（OHP、スライドプロジェクター、プレゼンテーションソフトなど）の提示
3. 授業の合間に質疑や討論の時間を設けた
4. 小グループによる課題学習の発表や討論の場を設けた
5. 宿題（レポートを含む）を課した
6. その他（　　）

設問 8. 成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが、そのような場合への対応として、どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。

設問 9. 教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために、このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。

設問 10. このアンケート調査の実施や内容について他にご意見がありましたらご記入下さい。

［研究科授業に関する調査］

設問 1. あなたが所属するコースを選択して下さい。

1. 生物学コース　2. 分子生命科学コース　3. 生物資源学コース 4. 園芸農学コース
5. 地域環境工学コース

設問 2. 授業の予定回数と実施回数を選択して下さい。

① 予定回数（１単位８回を目安*とし、集中講義の場合は 90 分間を 1 回に換算して下さい。オムニバス形式の科目は除きます。*2014 年 12 月 3 日コース長会議で了承）

1. 8 回　　2. 7 回　　3. 6 回　　4. 5 回以下

② 実施回数（集中講義の場合は 90 分間を 1 回に換算して下さい。オムニバス形式の科目は除きます。）

1. 8 回　　2. 7 回　　3. 6 回　　4. 5 回以下

設問 3. 休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。

1. 休講回数分を補講した　2. 一部補講した　3. 他の措置（　　）
4. 何もしなかった

設問 4.

① シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。

1. シラバスに記載した内容に一致させて講義を行った
2. シラバスに記載した内容を意識し、できるだけ沿うように講義した
3. シラバスに記載した内容にはとらわれないで講義した

② 上記で、「3. 」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記入して下さい。

設問 5.

(1)本年度のシラバスの記載内容は昨年度と同一でしたか。

1. 昨年度と同一であった　2. 一部変更した　3. 大幅に変更した

(2)上記で、「2. 」または「3. 」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。

(3) 上記の場合で、シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。

1. 教育効果が向上した　2. 教育効果は変わらなかった　3. 教育効果は低下した

4. 分からない

(4) 上記の設問(3)で「１」と回答した方は、その具体的な事例を教えて下さい。

設問 6. 大学院の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。

1. 大多数の学生のレベルを意識して展開した

2. より専門性を重視して展開した

3. その他（　　）

設問 7. 学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい（複数回答可）。

1. 視聴覚教材（ビデオや DVD 教材など）の利用

2. 画像データ（OHP、スライドプロジェクター、プレゼンテーションソフトなど）の提示

3. 授業の合間に質疑や討論の時間を設けた

4. 小グループによる課題学習の発表や討論の場を設けた

5. 宿題（レポートを含む）を課した

6. 実習形式の授業を行った

7. その他（　　）

設問 8. 成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが、そのような場合への対応として、どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。

設問 9. 教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために、このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。

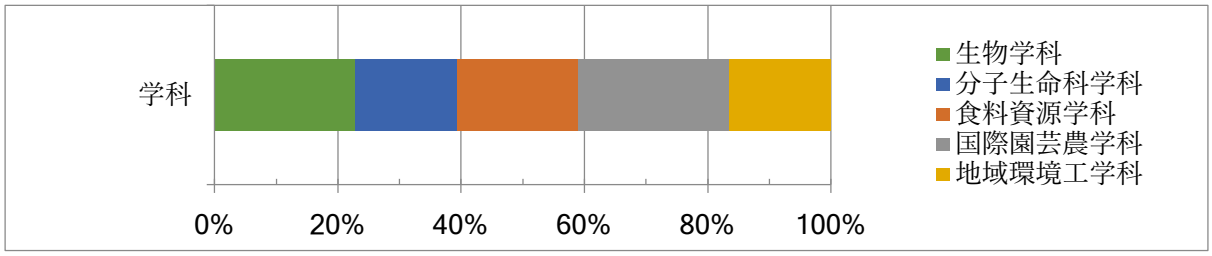
設問 10. このアンケート調査の実施や内容についてご意見がありましたらご記入下さい。

２．学部授業に関する調査結果

設問 1．あなたの所属学科をお答え下さい。

表Ⅳ－２－１．回答率

	教員数（人）	回答数（人）	回答率（%）
生物学科（白神含む）	17	14	82
分子生命科学科	13	12	77
食料資源学科	18	12	67
国際園芸農学科（農場含む）	21	15	71
地域環境工学科	11	10	91
学部全体	80	61	76

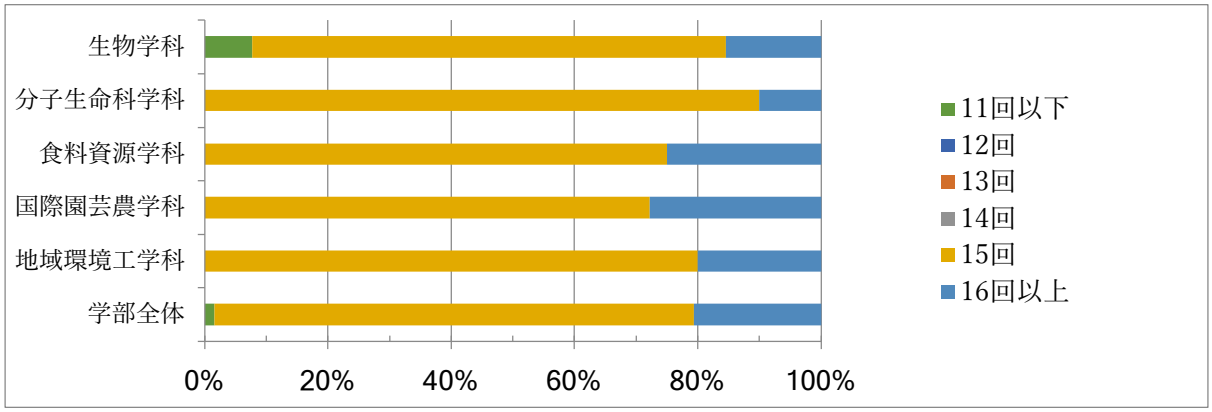


図Ⅳ－２－１．学科別回答割合

学部全体の回答率は 76%で過去 2 年(昨年度:78.6%，一昨年度:68.6%）と比べると、一昨年より増加したが昨年度と同程度であった。学科別では食料資源学科が 67%と低い。その理由として，赴任 1 年目の新任教員が加わったためであると考えられる。一方，地域環境工学科は安定して 91%という高い値であった。

設問 2．授業の予定回数と実施回数について記入して下さい。

(1) 予定回数（2 単位 15 回とし，集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。）

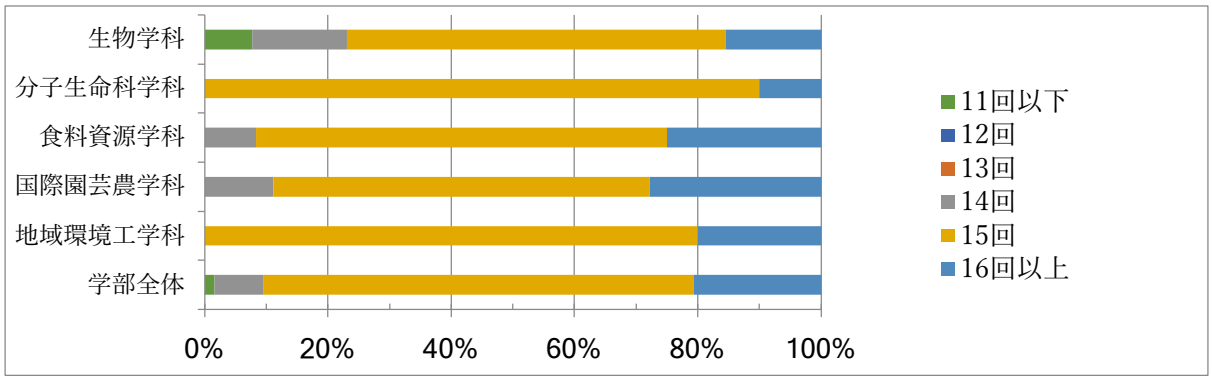


図Ⅳ－２－２(1)．授業予定回数

学部全体回答数は 63 である。全体ではほとんどの回答が 15 回以上としており，11 回以下との回答者は 1 名いた。また 16 回以上が昨年度 15.5%から 20.6%へ増加したが、一昨年度（28.9%）よ

り低かった。学科では，16 回以上が，国際園芸農学科で 27.7%と高かった%。

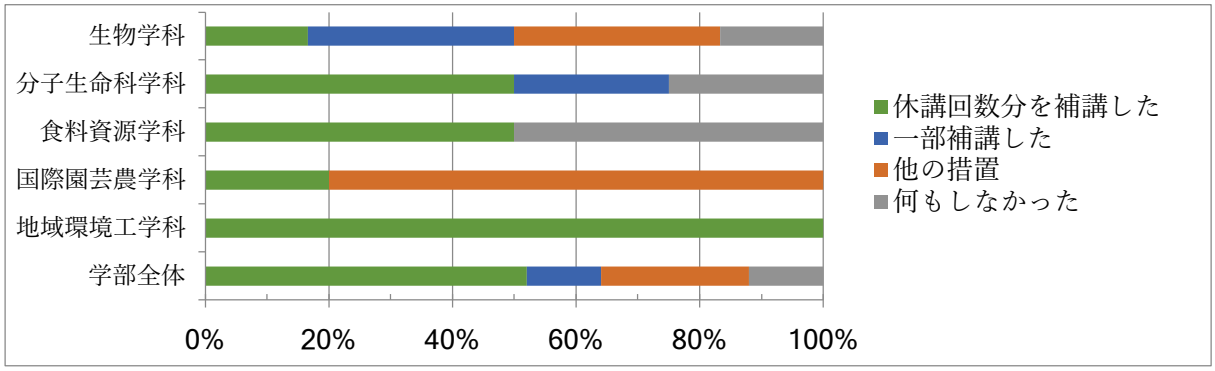
(2) 授業実施回数（集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。）



図Ⅳ- 2 - 2(2). 授業実施回数

学部全体回答数 63 で，実施回数 15 回以上が，過去 2 年は 8 割台だったが 90%へ増加した(昨年度：82.8%，一昨年度:85%)。また，16 回以上実施との回答は，前年度 15.5%であったのが 20.6%になった(一昨年度：22%)。一方で，14 回以下との回答は 9.5%と昨年度の 3.4%より増加した(一昨年度 11%)。学科別で見ると，分子生命科学科と地域環境工学科では全て 15 回以上実施となっている。生物学科で 11 回以下が 1 名あった。14 回以下との回答は，国際園芸農学科で 2 名，食料資源学科 1 名(前年度は 46.2%)，生物学科で 2 名となっている。

設問 3. 休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。



図Ⅳ- 2 - 3. 休講の代償措置

学部全体の回答数は 25 である。休講回数分の補講措置が取られたのは，学部全体で 52%であった。これは，昨年度の 55.2%からやや減少した（一昨年度：61.5%）。 一方，「一部補講した」・「他の措置」も併せなんらかの措置を取ったとの回答は 88%で過去 2 年より減少した%（昨年度:93.1%，一昨年度: 92.3%)。学科別では，地域環境工学科は「休講回数分補講した」が 100%と最も多かった。一方，「何もしなかった」が，回答数は 3 名で，生物学科で 1 人，食料資源学科分子生命科学科でそれぞれ 1 人がいた。

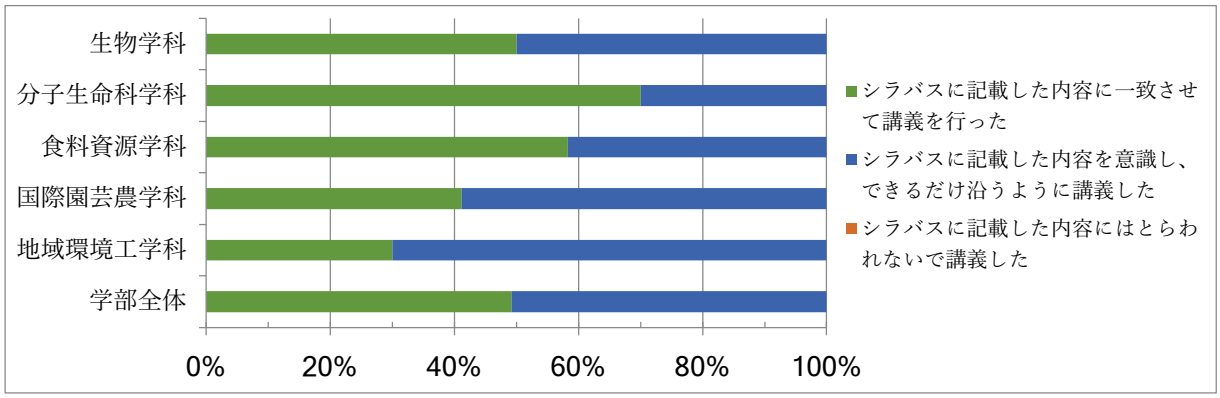
「講じた代替措置」については以下の記述があった。

・学科教員に代わってもらった。(生物学科)

・レポート（生物学科 2 件、分子生命科学科 2 件、食料資源学科 1 件、園芸農学科 3 件）

・課題を課した（食料資源学科 1 件，園芸農学科 1 件）

設問 4. (1) シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。



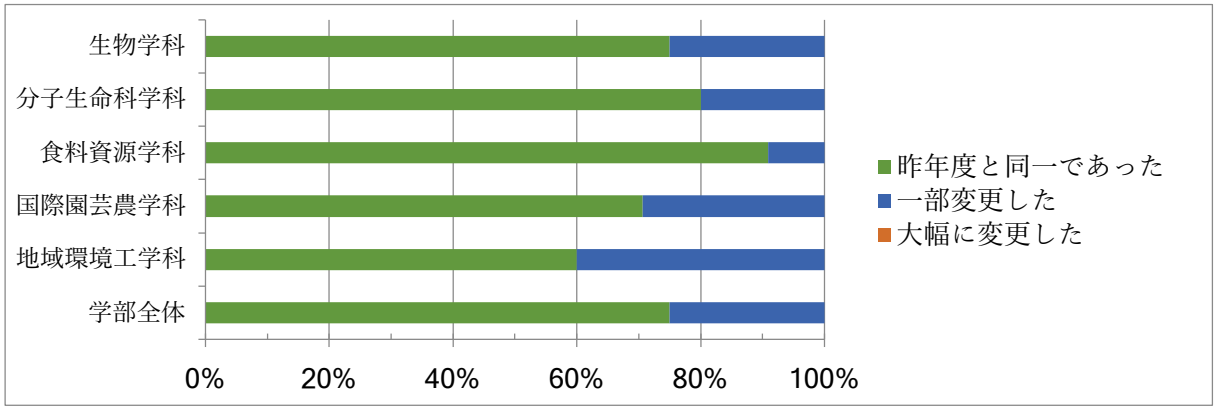
図Ⅳ- 2 - 4. シラバスと実際の授業の一致度

全体回答数は 61 である。学部全体で,「シラバスに一致させた講義を行った」が，昨年度の 55%から 49%に減少した（一昨年度：51%),「できるだけ沿うように講義した」が，前年度の 43%から 51%に増加した（一昨年度：49%)。これらから，基本的にシラバスを重視して授業が行われていると言える。学科別では,「シラバスに一致させた講義を行った」は，分子生命科学科で 70%と最も高かった。

(2) 上記で,「3. 内容にはとらわれないで講義した。」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記入して下さい。

回答がなかった。

設問 5. (1) 本年度のシラバスの記載内容は昨年度と同一でしたか。



図Ⅳ- 2 - 5(1). 昨年度のシラバスとの比較

全体回答数は 60 である。学部全体では,「昨年度と同一」が過去 2 年度の 59%（一昨年度）と 68%（昨年度）から 75%へ大幅に増加した。「大幅に変更」は，昨年度の 7%から 0%へ減少した。学科別では，食料資源学科で「昨年度と同一」が昨年度と同様に 91%と最も高かった。シラバス内容は大幅な変更はなされずに授業が行われていると言える。

(2) 上記で，「2. 一部変更した。」または「3. 大幅に変更した。」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。

【生物学科】

・新しい内容を盛り込んだ。

・より新しい知見を盛り込む。

・新しい知見を取り入れたため。

【分子生命科学科】

・前年度の試験結果から、各内容の割合を変更したため。

【食料資源学科】

・新しい内容を入れた。

【国際園芸農学科】

・講義内容を変更した。季節的に扱うものが変更されるので…。

【地域環境工学科】

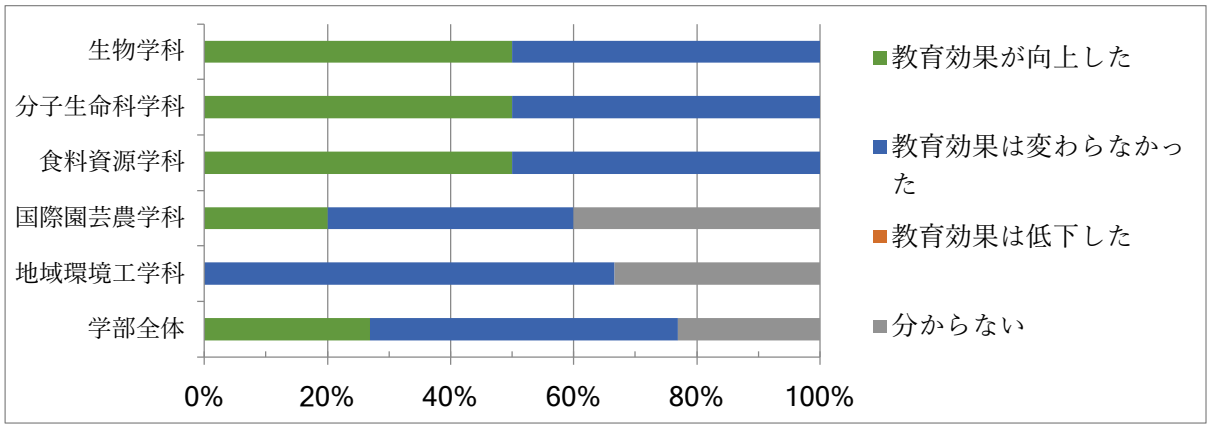
・改善のため。

・社会情勢の変化と学生の反応を考慮したため。

・社会的な要請を考慮して。

9 件の記述があり，シラバスの一部変更があるが，新たな知見や研究動向の取り入れ，学生の理解状況などからの改善，などが積極的に行われていると言える。

(3) 上記の場合で，シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。



図Ⅳ－ 2 － 5(3)．シラバス変更の効果

全回答数は 26 である。学部全体では，教育効果は「変わらなかった」、「分からない」を合わせて前年度の 85%から 73%へと減少し（一昨年度：74%），「教育効果が向上した」に比べ回答割合は大きかった。学科別では，生物学科、国際園芸農学科と分子生命科学科でそれぞれ 2 名、食料資源学科で 1 名が「教育効果が向上した」と指摘した。この具体的内容については(4)で述べる。総じて，シラバス変更の教育効果への影響は明瞭でない場合が多いようである。

(4) 上記の設問３で「１．教育効果が向上した」と回答した方は，その具体的な事例を教えてく

ださい。

【生物学科】

・トレンドを研究し、伝える。

【分子生命科学科】

・受講学生の所属学科、学年などを配慮しつつ、内容のマイナーな修正を行っている(専門性の度合いなど）。

【食料資源学科】

・新しいデータで説明した。

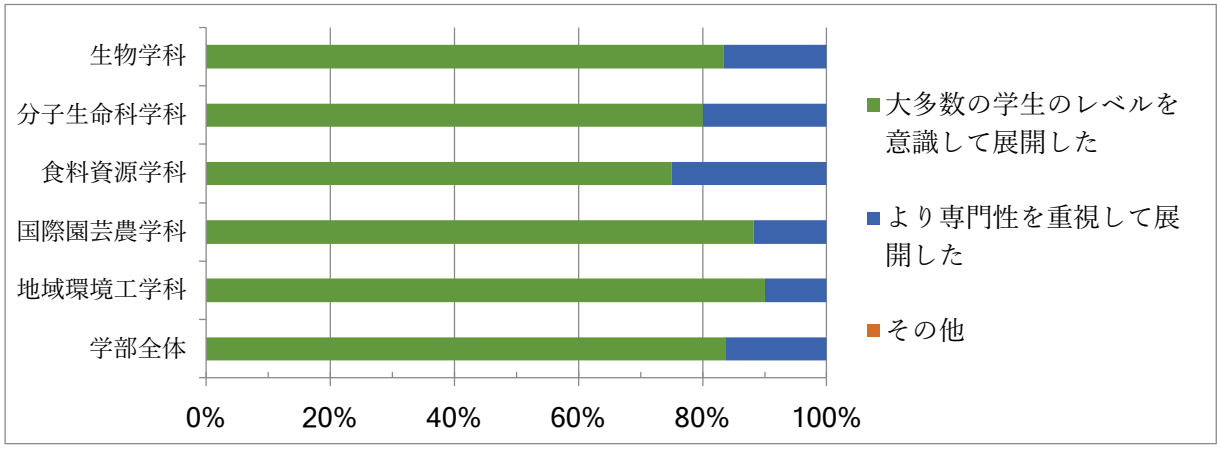
【国際園芸農学科】

・学生が納得して、取り組めた。

【地域環境工学科】

（記述なし）

設問 6. 学部の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。



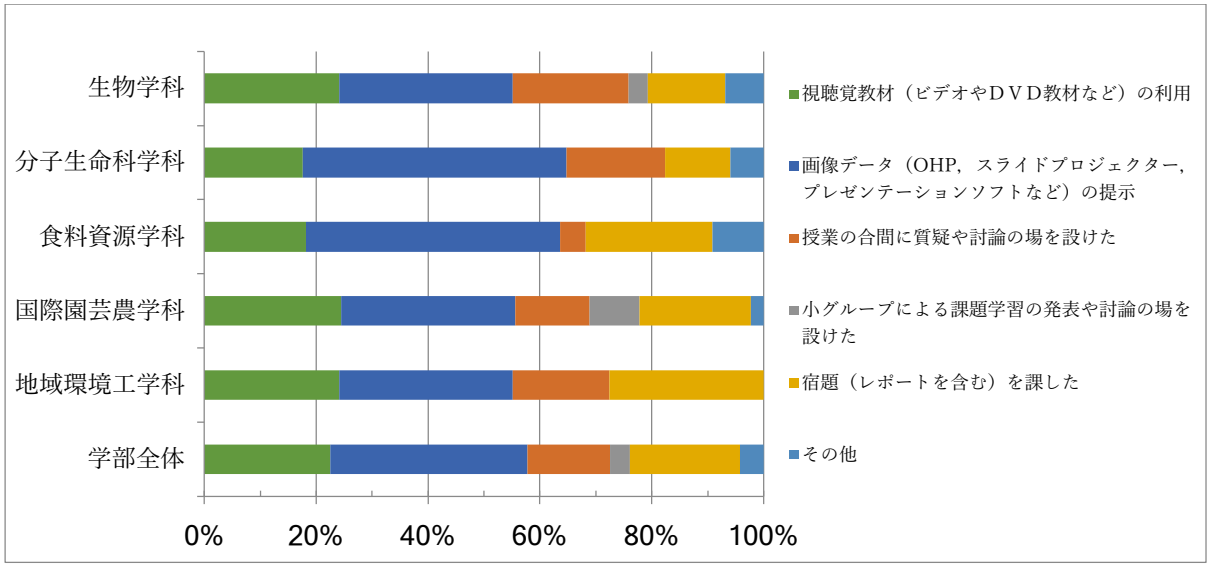
図Ⅳ- 2 - 6. 講義展開の考え方

全回答数は 61 である。学部全体では，83.6%が学生のレベルを意識した講義を行っており，昨年度の 77.2%より増加した(一昨年度：78.2%)。学科別では，食料資源学科では「専門性をより重視した講義」が 3 名の 25%と最も多かった。ほかの各学科では 1 名から 2 名が「専門性をより重視した講義」と指摘した。

「その他」について、回答がなかった。

設問 7. 学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい（複数回答可)。

1. **視聴覚教材（ビデオや DVD 教材など）の利用**
2. **画像データ（OHP，スライドプロジェクター，プレゼンテーションソフトなど）の提示**
3. **授業の合間に質疑や討論の時間を設けた**
4. **小グループによる課題学習の発表や討論の場を設けた**
5. **宿題（レポートを含む）を課した**
6. **その他（　　）**



図Ⅳ－２－７．授業の工夫

回答は学部全体で 142 件に上った。全体では，「画像データの呈示」がほかの授業の工夫と比べると過去 2 年度と同様に最も多かった状況が続き，昨年度の 35%と同じ程度であった（一昨年度：40%）。これと「視聴覚機材の利用」と併せ 58%で前年度の 56%とほぼ同じ割合に及び（一昨年度：58%），これらが一般的に使われていることを示す。一方，「小グループによる課題学習の発表や討論の場を設ける」，「宿題を課す」が 23.2%(33 件）となって，一昨年度（27.6%）以降多い状態が続いている（前年度：22.5%）。これは科目の単位取得が，授業受講だけでなく自己学習を含めたものであることから，授業外の学習を重視した取り組みが行われていることを表している。

「その他」について、以下の回答があった。

【生物学科】

・雑談で最新の話題を紹介。

・多くの資料を提供。

【分子生命科学科】

・直後に小テストをして、復習させる。

【食料資源学科】

・手で書かせる。

・授業中に穴埋め式の質問を学生に順番に当てていく。

【国際園芸農学科】

・板書も併用

設問 8. 成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが，そのような場合への対応として，どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。

【生物学科】

・答案の開示。

・面談を行い、説明する。

・特になし。説明をする（納得するまで）。

・直接話をすることから始め、主張を聞きたいと思う。

・レポートについては、評点を開示し、コメントを付して返却している。期末テストについては、評価に異議があれば、回答する。
・疑義を持つ学生はいなかった。

【分子生命科学科】
・テストの返却と解説。
・疑義の連絡を受けたことがない。
・答案の返却を行うとともに、質問があれば対応する。
・納得がいくまで説寧する。
・テストはすべて返却する。
・学科長や学部長に相談する。
・評価基準をいつでも説明できるように準備しておく。
・予め加点と評価のポイント等をなるべく具体的に学生に知らせている。

【食料資源学科】
・答案を提示し、説明を行った。
・点数の評価の基準を明確にしておく。
・解答の解説。
・採点結果を見せて、説明する。
・答案用紙を返却し、疑義がある場合はいつでも問い合わせに応じる旨、伝えている。
・ガイダンスにおいて、評価基準を説明している。
・試験に関しては、模範解答と配点を明示し、説明している。
・評価方法を詳細に述べる。納得するまで説明する。
・話を聞いて、対応する。
・そのような状況になったことがない。

【国際園芸農学科】
・特に直面していないが、その場合はきちんと説明して、納得させる。
・きちんと評価基準を設けている。
・疑義を持つ学生がいなかった。
・疑義まではいかないが、問い合わせはあった。評価の根拠を示し、理解を得た。
・基準を明確にし、講義内でも、意識的に説明することを心掛けています。
・数値化と希望する学生への開示。
・まず授業の際に、評価方法について、明確に説明した。
・答案返却、回答の公開。
・テストを返却し、解説している。
・照会があれば、評価の内訳・期末テストの詳細（当該学生の点数、平均点、成績分布）を細かく開示している。
・説明する。

【地域環境工学科】
・点数の付け方の明示。
・点数をつけた解答を返却する事。
・ガイダンス時、試験返却時など、成績評価方法と根拠を丁寧に説明している。

・答案返却後の解説のあとで、学生に対して疑義がないかを確認している。
・テストを解説し、返却した。
・事例なし。
・答案返却　・解説　・評価に疑義があれば、質問に来るように伝えている

昨年度同様，成績評価に疑義を持つ学生に対して評価基準を説明・開示したり，理解するまで説明する等の対応が非常に多い。さらに，答案の返却が行われるなど，さまざまな取組がなされており，多くの教員は学生の疑義に対し積極的に対応している。

設問 9. 教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために，このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。

【生物学科】
・困ったことの経験談を書いてもらう。
・改善を要すると考える教室名と具体的な問題点。

【分子生命科学科】
・質問の内容について(質問文について)、そのままで良いと思っているか、教員側からの確認など。

【国際園芸農学科】
・授業評価と併せて、教員の意識を問う方が良いと思う。例えば、評価が大きく上がった理由は何だったか？もしくは下がった理由は何だったか？

設問 10. このアンケート調査の実施や内容について他にご意見がありましたらご記入下さい。

【生物学科】
・今年は〆切が早い気がします。回収率に響くのでは？

【食料資源学科】
・今年度アンケート実施を二月末にしたが、卒論発表会の前に行わないと学生がいなくなってしまう。このこと自体情けないことであるが、しょうがない。一月末に実施すべきである。

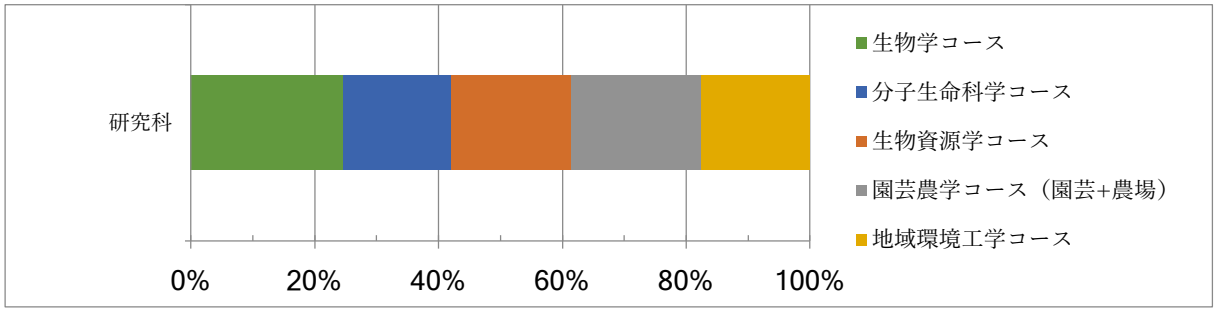
【地域環境工学科】
・担当委員の方々には、毎年ご苦労様です。

３．研究科授業に関する調査結果

設問 1．あなたが所属するコースを選択して下さい。

表Ⅳ－３－１．回答数

所属	回答者数
生物学コース	14
分子生命科学コース	10
生物資源学コース	11
園芸農学コース	12
地域環境工学コース	10
研究科全体	57



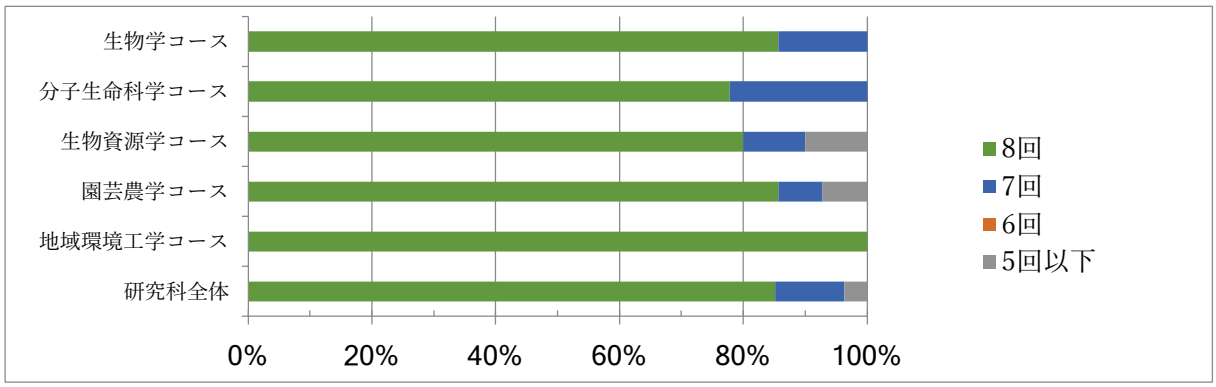
図Ⅳ－３－１．コース別回答割合

集計では，生物共生教育研究センター（農場）を園芸農学コースに，白神自然環境研究所（白神）を生物学コースに入れている。

研究科全体での回答割合は 71%で昨年度(76%）よりやや減少した（一昨年度：68.5%)。

設問 2．授業の予定回数と実施回数について記入して下さい。

(1）予定回数（２単位 15 回とし，集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。）

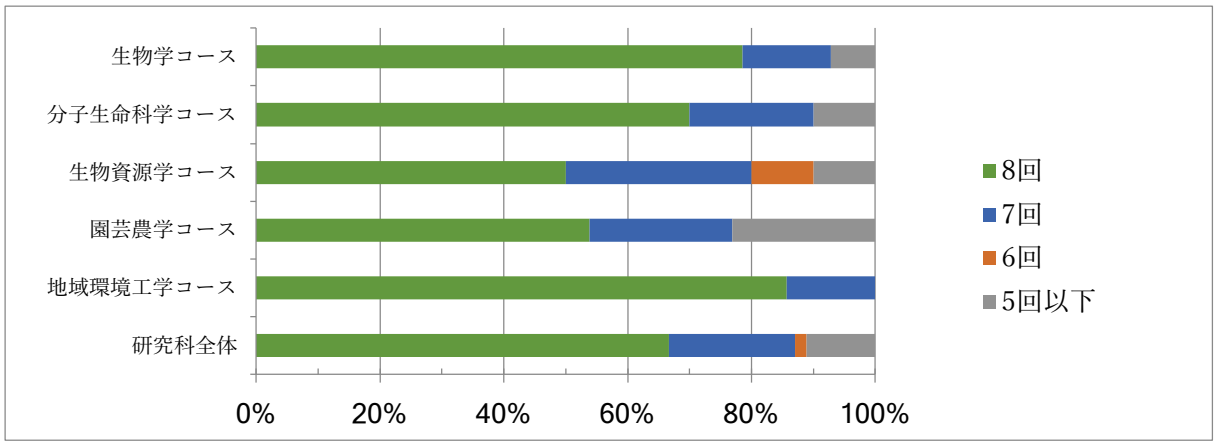


図Ⅳ－３－２(1)．授業予定回数

全体回答数は 54 である。研究科全体で授業予定回数は，8 回が 85%，7 回が 11%でほとんどが所

定講義数を満たしているが、前年度の 7 回以上との回答数割合 96%と比較すると概ね同じである。5 回以下との回答者は生物資源学コース・園芸農学コースでそれぞれ 1 名がいた。地域環境工学コースでは，回答者全員が 8 回としている。

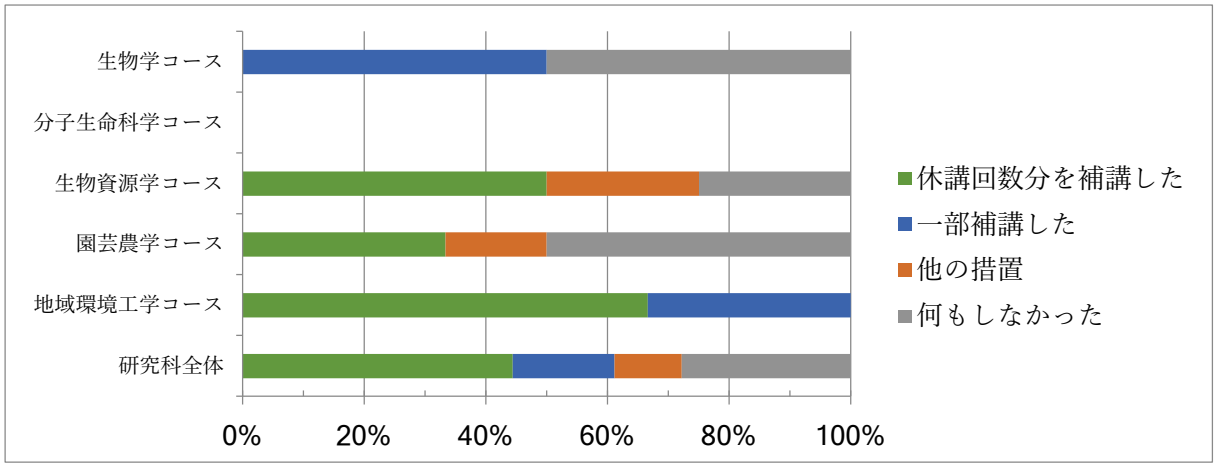
(2) 実施回数（集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。）



図Ⅳ－ 3 － 2(2)．授業実施回数

全体回答数は 54 であった。研究科全体では 66.7%が 8 回講義をしている（前年度：80%）。地域環境工学コース・分子生命科学コース・生物学コースでは回答者の 70%以上が 8 回実施している。7 回が地域環境工学コース・園芸農学コース・生物資源学コース・分子生命科学コース・生物学コースでそれぞれ 14%(1 名)、23%（3 名）、30%（3 名）、20%（2 名）と 14%（2 名）がいる。6 回が生物資源学コースで 1 名、5 回以下が園芸農学コースで 3 名、生物資源学コース・分子生命科学コース・生物学コースで各 1 名がいる。

設問 3. 休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。



図Ⅳ－ 3 － 3．休講の代償措置

全回答数は 18 である（この数は昨年度の 25 から大きく減少した）。研究科全体では，一部補講も含め「補講した」が 61%で，昨年度(62%)と比較してほぼ同じである （一昨年度：67%)。また，「何もしなかった」が研究科全体で 28%あるが，昨年度(24%)に比べやや増加した。コース別では，

地域環境工学コースで回答者全員が一部補講も含め「補講した」としている。ほかの各コースで、「他の措置」が園芸農学コースと生物資源学コースでそれぞれ 1 名あった。「何もしなかった」が園芸農学コースで 3 名、生物資源学コースと生物学コースでそれぞれ 1 名あった。

「他の措置」については，以下のようであった。

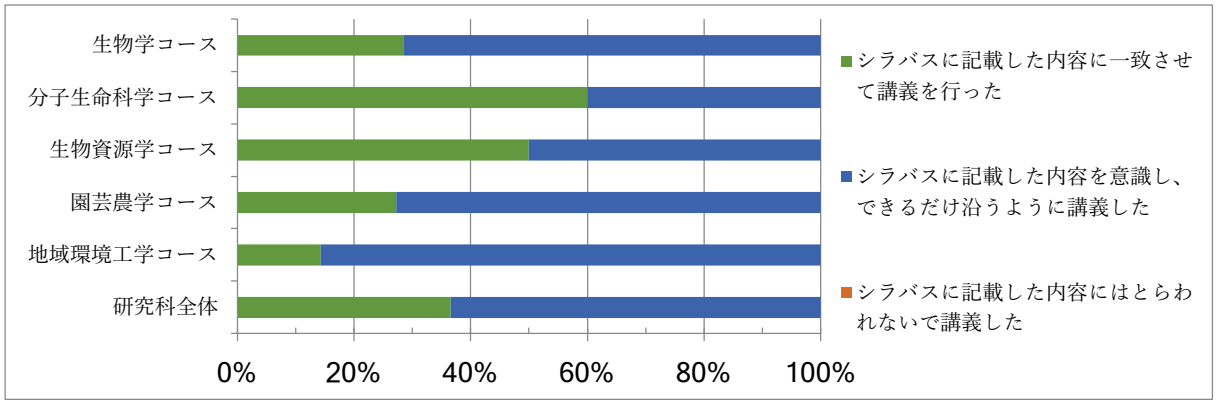
【生物資源学コース】

・レポートを課した（2 件）

【園芸農学コース】

・レポートのよる代替措置。

設問 4. (1) シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。



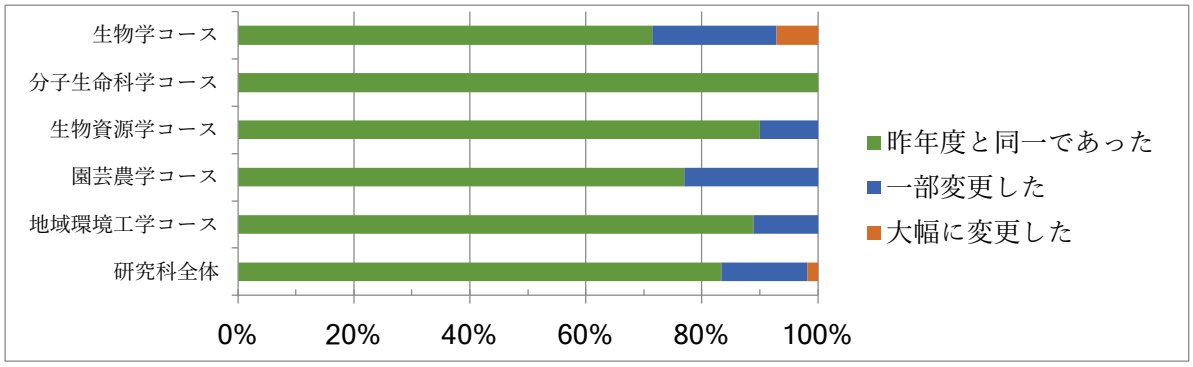
図Ⅳ- 3 - 4. シラバスと実際の授業内容との一致度合

全回答数は 52 である。研究科全体では，「シラバスと一致」，「できるだけ一致」と合わせると 100%で，過去 3 年（98%）よりやや増加した。シラバスに捉われない内容での講義がなかった。大学院でもほぼシラバスに沿った講義が行われていることが分かる。

(2) 上記で，「3. 内容にとらわれないで講義した」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記入して下さい。

回答がなかった。

設問 5. (1) 本年度のシラバスの記載内容は前年度と同一でしたか。



図Ⅳ- 3 - 5(1). 前年度のシラバスとの比較

全体回答数は 54 である。研究科全体で，「昨年度と同一」と「一部変更」がそれぞれ 83%，15%であった（昨年度は 88%と 10%）。「大幅に変更」は生物学コースで昨年度と同様に 1 名いた（一昨年度は無かった）。シラバスのほとんどを大きく変更しない状況で推移している。

(2) 上記で，「2. 一部変更した。」または「3. 大幅に変更した。」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。

【生物学コース】

・よりよいもの、新しいものを伝えるため。

・新しい知見を導入したため。

・受講者数が大幅に増加したためにこれまでの方法では、講座が一部難しくなったため。

・集中で行っていたものを、週一回の講義形式に変更したため、内容を大きく変えた。

【分子生命科学コース】

【生物資源学コース】

・最新の研究成果を踏まえて、講義したため。

【園芸農学コース】

・内容更新

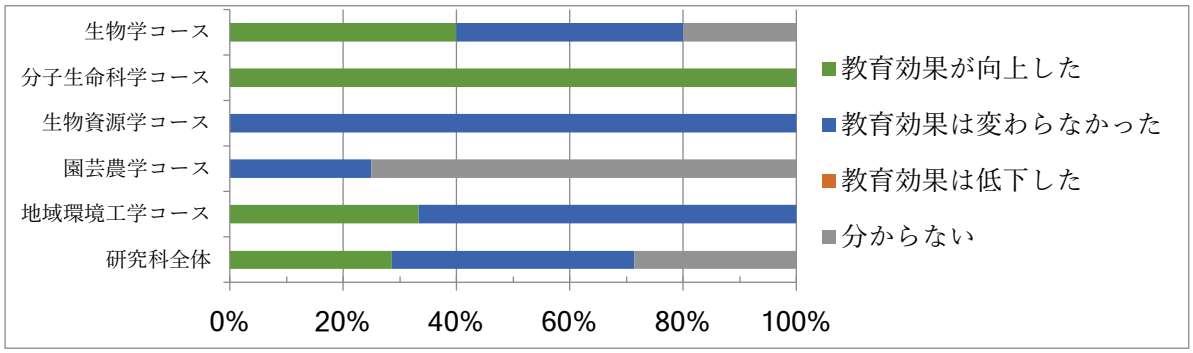
【地域環境工学科】

・受講予定の学生の研究テーマや専門性を考慮した。

(3) 上記の場合で、シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。

1. 教育効果が向上した 2. 教育効果は変わらなかった 3. 教育効果は低下した

4. 分からない



図Ⅳ－ 3 － 5(3)．シラバス変更の教育効果

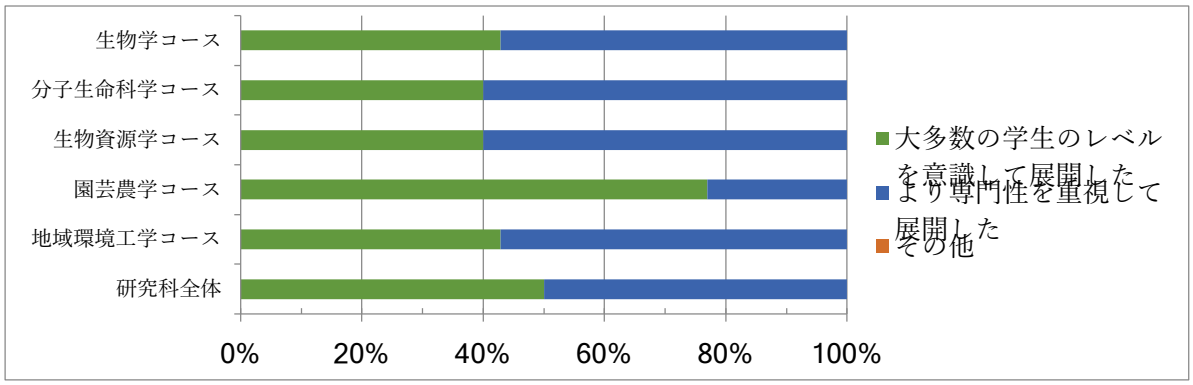
全回答数は 14 である。研究科全体で，「教育効果が向上した」と回答した件数(率)は 4 件(29%)であり、昨年度と概ね同じであった（昨年度：30%，一昨年度：12.5%)。「教育効果は変わらなかった」が 43%を占める（昨年度 30%）が，①でシラバスが昨年度と同一の選択が多かったので当然とも言える。「分からない」が 4 件あったことは，変更が直ちに教育効果の改善に寄与したとは判断できないためであろう。

設問 6. 大学院の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。

1. 大多数の学生のレベルを意識して展開した

2. より専門性を重視して展開した

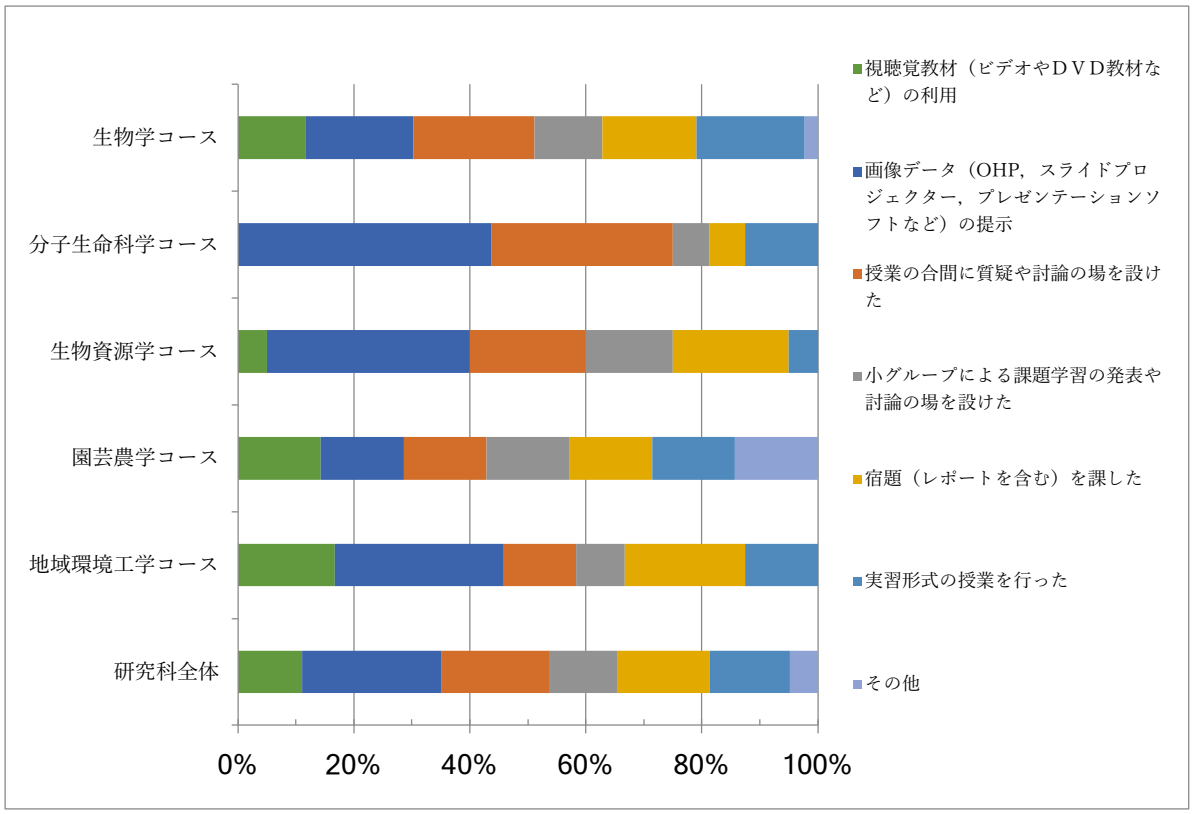
3. その他（　　）



図Ⅳ－３－６．講義展開の考え方

全回答数は 54 である。研究科全体では，「学生のレベルを重視」とした回答%と「専門性重視」とした回答がそれぞれ 50%であり，昨年度の各回答（55%，45%）と比べると専門性が学生のレベルとの同じ程度で重視されるようになった。しかし，過去 3 年間で両者は概ね同程度と言える範囲にある（一昨年度：49%，45%）。

設問 7．学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい（複数回答可）。



図Ⅳ－３－７．授業の工夫

全体回答数は 145 件である。研究科全体で,「画像データ活用」・「視聴覚機材の利用」が計約 35%を占め，学部授業（58%）より低かった。「授業の合間に質疑・討論の場を設けた」,「小グループによる課題学習の発表や討論の場を設けた」,「実習形式の授業を行った」など学生の能動的学習としたケースが 44%となり,昨年度の 39%より上昇したが､前々年度の 51%レベルに届かなかった。なお、このような取り組みのいずれかを実施していた教員は回答者全体の 84%を占める。

「その他」とした回答

【生物学コース】

・出来るだけ、対象となる実物を用いた。

【分子生命科学コース】

【園芸農学コース】

・板書も併用。

【地域環境工学コース】

設問 8. 成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが，そのような場合への対応として，どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。

【生物学コース】

・納得するまで説明する。

・なし

・直接話をして、主張を聞いてみようと思う。

・レポートについて、評価の根拠を回答した。

・疑義を持つ学生はいなかった。

・配点について、事前に説明を行った。

・これまで受講した学生の数が少ないためか、そのような意見を聞いたことがありません。そのため、特に対応を考えたこともありません。

【分子生命科学コース】

・なし

・質問があれば、説明する。

・達成すべき課題を明確にする。

・疑義が出たことないので、わからない。

【生物資源学コース】

・評価する際の基準の説明をしておく。

・採点内容を説明する。

・大学院生で今まで成績評価に疑義を持つ学生はいなかったが、いつでも何か疑問があれば、問い合わせるよう伝えている。

・採点方法を説明して、納得してもらう

・そのような事例はない

【園芸農学コース】

・疑義を持つ学生はいなかった。

・なし

・講義開始時にしっかり説明し、履修者と相互に理解を深めながら、進行することを意識しています。
・評価方法について、説明を徹底した。
・答案返却、回答公開。

【地域環境工学コース】
・話し合い。
・点数をつけた解答を返却する。
・疑義を持つ学生は、いませんでした。
・事例なし。
・答案返却　・解説　・質問への対応

全体で 26 件の記述があり。「疑義を持つ事例無し」が 10 件と多い。また,「学生に説明する」が 13 件,「レポート等を返却する」が 3 件あった。

設問 9.　教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために，このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。

【生物学コース】
・困ったことの体験談を書いてもらう。→事例集にしてもよいかも。

設問 10.　このアンケート調査の実施や内容についてご意見がありましたらご記入下さい。

【生物学コース】
・修士学生からは「授業のために、研究のための時間が都合がつかない」という意見をよく聞く。学生のためには、より柔軟な授業のあり方があってよいと思う。学生アンケートの意見に沿った改革が必要。

【分子生命科学コース】
・御世話様です。

【園芸農学コース】
・履修生がいない場合の選択肢がないのは困ります。

Ｖ．アンケート調査結果に対する各学科の見解

生物学科

学部の教育理念、教育目的、教育目標や学科の教育目標、アドミッションポリシーについては知っている割合が高いとは言えないのでさらにガイダンスや基礎ゼミナールなどで周知することが必要である。学生の主体的学習について、講義や演習の受講にあたりその講義の受講期間中に何倍程度の時間を講義室外での学習（予習や復習など）にあてましたかについては、１倍から２倍未満と答えた割合が約 40%で最も高く、次いで 0.5 倍から１倍未満が約 30%であった。学生の主体的学習の時間に関する基準やその意義については各授業においても必要に応じてさらに周知していくことが必要であると考えられる。授業の中では最大の単位数である卒業研究についての満足度は９割を超える学生が肯定的な回答だった。自由記述をみても否定的な意見はみられなかった。一方、研究設備については約 15%の学生がやや不十分という回答だった。これについては簡単に解決できる課題ではないが、改善に向けた取り組みが必要であると考えられる。大学卒業者としての知識や学力を身に付けたかの問いについては約６割の学生が肯定的意見だったが、本学部のカリキュラムで学んだことが進路の決定に役立ったかについては肯定的意見が約 35%で、残りのほとんどは分からないの回答だった。これは学科において今年度は大学院への進学者が多く、したがって「役立った」という回答をするにはまだ早いとした学生が多かったのではないかと考えられる。本学部の教育活動の中で最も早急に改善すべき点については割合としておよそ 10～15%であったが、「教員の指導方法」、「授業の方法」、「教育・研究設備」が多かった。自由記述をみると、研究室における指導のあり方や学年別の授業の質や授業方法のあり方、また、実験室や講義室の冷暖房設備などについて改善の要望があった。これらは学生･教員間のコミュニケーションのあり方などとも関係すると考えられるが、今後も学生に対する十分な説明など、改善に向けた取り組みが必要であると考えられる。なお、所属する学科の教員の講義・実習・演習などにおける学生への指導や対応についての満足度や、総合的に判断したときの本学部・学科の教育・研究に対する取組み・姿勢に対する満足度はいずれもおよそ 70%であった。これらはほぼよい結果であったが、今後もさらに高めていくための取り組みや努力が必要である。

修士課程については研究科全体の調査結果であるが、本研究科を修了するにあたり大学院修了者に相応の知識および学力を身に付けたと感じているかの問いには肯定的な意見はおよそ 65%であった。また本研究科の教育活動の中で最も早急に改善すべき点については割合としておよそ 10～15%程度であったが、「教員の指導方法」、「授業の方法」、「教育・研究設備」、「就職支援」が多かった。これらは学生･教員間のコミュニケーションのあり方などとも関係すると考えられるが、今後も学生に対する十分な説明など、改善に向けた取り組みが必要であると考えられる。なお、所属するコースの教員の学生への指導や対応に対する満足度や、修士研究に対する満足度、また、総合的に判断したときの本研究科・コースの教育・研究に対する取組み・姿勢に対する満足度についてはおよそ 80%であり、ほぼよい結果であった。これらは今後もさらに高めていくための取り組みや努力が必要である。

（令和元年度学科長　葛西身延）

分子生命科学科

他学科と比べて「学部の理念」、「学科の理念」、「アドミッションポリシー」を知らない学生が多い。一昨年度に比べて昨年度はこれらを知る学生が増加したところであり、今回低下したことは残念である。年度初めに行うガイダンスや基礎ゼミ等を通して周知を継続的に行う必要がある。一方、「学科の教育目標とカリキュラムの合致」については比較的肯定的な評価となった。

専門教育に満足している学生は約７５％であり、昨年（約９０％）に比べて大幅に低下した。教員の指導に対する満足度も他学科と比べて低い。分子生命科学科における専門性の修得にあたっては、化学や生物学はもちろんのこと、物理学や数学の要素を含む積み重ねの基礎知識が前提となる。ここにあげられているコメントや、次の「学生の主体的学習について」にある各設問の回答から推測するに、専門教育に向かうまでの基礎知識の修得に対する学生と教員の認識に隔たりがあるのかもしれない。双方に改善の余地がある。

講義室外での学習の時間は概して少ない。講義室での受講時間の２倍（大学設置基準）に満たない学生が９０％を越えており、中でも０．５倍未満のものが２０％もいた。ガイダンスや面談などを通して自主学習の重要性を訴えていく必要がある。また、コメントの中には「単位の取得のみを目標に」や「興味のないものは受動的」といったものがあり、主体的・意欲的な学習を促す取り組みの必要性を感じた。

卒業研究については肯定的評価が８０％を超え、満足していない学生は１０％未満であった。コメントからも多くの学生が充実した期間を過ごしたことがうかがわれる。昨年と異なり、卒業研究を行なった研究室の設備については評価が低かった。

進路に関しては、専門関連の企業への就職が減少し、公務員および専門とは関連しない企業への就職が増加した。専門関連外の企業への就職が学生の希望によるものであるか否かは不明である。今後の傾向によっては、さらに深く分析することが必要となるかもしれない。

本学部の教育活動の中で最も早急に改善すべき点として、本学科では「学生に対する教員の指導方法」が他学科よりも多く、２５％を超えている。専門教育に対する満足度や卒業研究についてのコメントにも否定的な意見がみられる。これらを真摯に受け止め、改善をはかることを忘れてはならない。

大学院では、例年同様にプレゼンテーション演習Ｉに対する不満が複数あげられていた。昨年度の同演習に関する評価はそれ以前に比べると改善していたとのことであるが、引き続き研究科全体で考えなければいけない問題である。

（令和元年度学科長　牛田千里）

生物資源学科

【学部学生の回答】に基づく分析

全体的に、当学科に対する回答は学部全体の平均と大きく異なるものではなく、それは総合的な評価（設問 18）に現れている。一方で、当学科の優れていた点と改善すべき点もいくつか見受けられた。

まず、学科のカリキュラムがその目標に合致していると思う学生が少ないこと（設問 4）。これは、育種、食品、土壌など幅広く学ぶことができると評価する学生がいる一方で、それが反対により専門的な知識の深まりにつながらないと感じている学生もいるためである。おそらく、これが反映して、学科で

受けた専門教育への満足度（設問 7）への肯定的意見が学部全体より低下していると思われる。

一方、教員の指導には学生は概ね満足しており（設問 17 等）、これは持続すべきことである。従って、学生の興味と各コースを如何に上手くマッチングするかによって、学問分野の広範さと学びの深化を両立できると思われる。

また、卒業研究の満足度（設問 14）では、否定感はないものの、強い肯定感の少なさが指摘されている。これも基本的には学生のコース・研究室配属が希望と異なったり、教員とのコミュニケーション不足が要因と考えられることから、ミスマッチを減らすことが重要である。特に、当学科教員は 20 名と多く、学生は全教員の専門科目を受講する前にコース・研究室配属を決めなければならない。そのため、全教員が研究内容を紹介する科目を設定しているものの、講義室内での情報提供は限定されてしまうので、授業とは別にラボツアーを行うなど、研究室の現場を学生に理解させることも必要かと思う。

学生の主体的学習時間が短いことも大きな課題である（0.5 倍未満の 3 割を含み、1 倍未満が 6 割）。授業では丁寧な講義や指導を心がけることは当然だが、学生が時間外に学習に取り組む姿勢を培う方策も施すべきであろう（例えば課題や授業における小テスト等）。

学生の支援体制に関しては、学業関係では教員（クラス担任+指導教員+指導教員以外の教員）への相談が最も多いことから、今後も学生の相談には積極的かつ適切に応じるよう心がけるべきである。

進路に関しては、決定率が高く、また進路決定に際して学んだことが役に立った割合も昨年より若干改善されており、当学科のカリキュラムをさらに進化させて行くべきである。一方で、大学院進学が減少したことと進路支援に肯定的な意見が約 4 割と低いことから、指導教員の学生への接し方を含めた改善の余地があると思われる。

【研究科学生の回答】に基づく分析

研究科の調査結果は研究科全体でまとめられているため、生物資源学コースとしての分析はしなかったが、個別のコメントの中には今後のカリキュラムに反映させる等の形で受け止める必要があるものがあると思われる。

【教員の回答】に基づく分析

まず、当学科は教員の回答率が低いので、改善が必要である。また、学部・研究科・学科の理念、教育目標等に対する認識が低いことが指摘されており、その理由に新任教員の多さが挙げられている。次年度には改善されるものと思われる。

授業に関しては、当学科教員がシラバスを重視していることが示され（設問 7）、この姿勢は継続すべきである。FD 活動に関しては、平成 29 年度に低かった学科主催 FD 参加が平成 30 年度は大きく改善された（平均 1.8 回→6.8 回）。これは学科会議で学生の動向や授業の様子などに関する情報の共有を図っており、それを FD 活動として認識することが教員に定着したためと思われる。この活動は令和元年度も継続しているため、この水準は維持できると思われる。また、参加するだけでなく、4 分の 3 の教員は実際の教育改善に役立っていると捉えていることからも、この水準を持続するべきである。

一方、学習環境や研究環境の施設・設備面での不十分さを指摘する教員は他学科より多く、これは前年度からあまり改善されていない。新任教員が多いことから前所属と比較してそのように感じている部分や、教員間での研究室の作りや面積に差があることに起因していると思われるが、同様の指摘は学生にもある。当学科は令和元年度から学部全学年が食料資源学科生となり、単純

な学生定員数だけでも 1 学年あたり 20 人増えていることから、手狭感を含めた満足度は教員・学生ともに低いと思われる。特に、実験・実習関係では学生の怪我や健康面への影響も懸念されるため（例えば夏場の学生実験で微生物や火を使わなければならない作業で窓を開けられないのに実験室に冷房がないこと等)、施設・設備の改善は学部としての対応を検討していただきたい。

（令和元年度学科長 岩井 邦久）

園芸農学科

学部学生の回収率は約 89%と例年より高くなった。アンケートの結果は学科の学生の意見を概ね集約出来ていると考えられるが、回収率を上げるにはさらなる工夫が必要であろう。学科の専門教育などに対する満足度は約 90%で良好な結果を示している。詳細を見ると、シラバスへの満足度は 80%、教員の指導は 90%、卒業研究を行った研究室の満足度は 80%、カリキュラムと進路決定の関係は 85%であった。一方で、大学卒業者に相応の知識や学力を身に付けたと感じている学生の割合は約 50%と低い。これらは第一に、学部全体として低い傾向にある点が挙げられるが、もうひとつ、本学科の学生の就職先が専門分野以外になる学生が多く、様々な分野に就職する現状から、必ずしも大学で学んだことが職業に直接結び付きにくく、学生が実感しにくいことを表していると考えられる。

改善点としては、一部教員の講義や研究室での指導が不適切であったことがうかがえるので、これらはその講義や指導教員を特定して具体的な解決策を取る必要があろう。講義に関しては授業アンケートで特定出来るので、卒業研究についても授業アンケートのような形式のアンケートが必要かもしれない。また、研究室の狭さについての不満については現状では解決が難しいが、冷暖房施設については徐々に改善が図られている。こうしたアンケートがムダではないことを示していると思う。

（令和元年度学科長　前田智雄）

地域環境工学科

卒業生のアンケート回答率は 93%で、平成 28 年度より上昇傾向にあることから、各指導教員を通じての積極的な協力依頼等がアンケート回答率の上昇に繋がったと考えられる。

教育目標等の認識に関して、平成 29 年度は 5 割を下回る結果であったが、平成 30 年度は 7 割程度に上昇しており、各学年に対する年度初めのガイダンス等で、本学部の教育理念や教育目標等を説明した効果であると考えられ、今後、卒業時に再度認識出来るよう工夫してく必要がある。

カリキュラムやガイダンス内容の適切さに関しては、平成 29 年度に引き続き肯定的な回答が 8 割を上回り、シラバスへの評価も肯定的な回答が約 9 割以上である。特に、学科で受けた教育への満足度は「強くそう思う」回答が平成 29 年度に引き続き 4 割を上回るなど、本学科の教育は学生に高く評価されており、学科教員の教育への努力に対する成果であると考えられる。

学生の主体的学習に関して、授業時間の 1 倍未満の学生は平成 29 年度よりも増加し、4 割を上回る程度になったが、2～3 倍未満の学生が平成 29 年度よりも増加しており、他学科と比較してもその割合が特に高い。

学生の学習環境に関して、教員の相談体制については、平成 29 年度と同様に、学業の相談窓口

における教員との面談が 6 割程度の回答率であり、学生への学習指導が丁寧に行われていることを示している。また、施設・設備面では、全体に否定的な回答は目立たず、大きな問題は無いと考えられる。

卒業後の進路に関しては、カリキュラム、進路支援への取組みとも 8 割を上回る肯定的な回答を得ており、学部内で最も高い水準である。また、大学卒業者として修得した知識・学力について肯定的な回答が 8 割に達しており、学科教育への満足と対応している。

教育活動全体に関しては、まず早急に改善すべき点について、「特に問題はない」という回答が平成 29 年度は 6 割を上回っていたが、平成 30 年度は 4 割程度に減少している。しかし、総合的判断による肯定的な回答が平成 29 年度に引き続き 9 割を上回っていることから、一定程度の水準はクリアーしていると判断出来るが、今後ともこうした評価を継続出来るよう努力が望まれる。

地域環境工学コース（修士課程）の教育活動に関しては、学部に準じた教育活動が行われているため、大きな問題は存在しないものと推測しているが、修士学生が平成 29 年度に引き続き 2 名のみであるため、学生の定員充足が最大の課題である。

教員対象教育評価アンケートに関して、本学科教員は平成 29 年度と同様に学科の教育目標とカリキュラムとの関係を強く意識し、予習復習を学生に課し、学生の反応を見ながら授業運営していることがいずれの設問からも伺える。また、学科会議内で行われていた学生に関する情報交換を学科主催 FD と位置付けたため、平成 29 年度に比べて FD の参加回数が大きく増加することになったと考えられる。また、施設・設備面については、一部否定的な回答も存在するが、概ね一定水準には達していると評価している。卒業研究の必要性の意識は毎年度高く、卒業生に相応する知識と学力を身に着けさせたとの回答が 9 割にも達しており、高水準である。

教員対象授業アンケートに関しては、平成 29 年度に引き続き平成 30 年度も回答率が 100%に至らず残念である。学部の授業実施では規定回数に達しない授業は皆無であり、休講時には補講が実施されている。授業実施に際しては、7 割がシラバス通りではなく、シラバスに沿うように授業を行っているのと同時に、平成 29 年度のシラバスとの比較では 4 割（他学科と比較して高い）が一部変更していることから、常に教育改善を意識して、授業実施に当たっていることが分かる。また、研究科の授業実施についても、学部と同様であると推測される。

以上、地域環境工学科では教育実施に対し、これまでの努力を継続しつつ、一定水準の成果を上げ続けているが、部分的には学生の評価が高くない事項もあるので、ガイダンス等を通じて、教育目標の周知を一層進め、主体的学習意欲を高めていくことが望まれる。

（令和元年度学科長　森　洋）

VI. 教育改善委員会（平成３０年度教育改善にむけたアンケート調査についての意見）

・学部卒業時・研究科修了時学生対象教育評価アンケートについて

（１） 学部・研究科の教育理念，教育目的，教育目標，学部の教育目標，アドミッションポリシーについて

学部全体での教育理念，教育目的および教育目標についての認知度（知っている＋ある程度知っているの割合）は 54%で昨年，一昨年と変化がないが、研究科全体での認知度 75%に比べても低い値となった。各学科/コースの教育目標，アドミッションポリシーの認知度もそれぞれ平均で 51%，58%と低い。学科別に見ると地域環境工学科でいずれの認知度も高い傾向にある。学科/コース毎のカリキュラムと教育目標はおおむね 6 割の学生が合致していると肯定的に答えている。中でも地域環境工学科では９割以上が合致していると答えており，この値が他学科に比べて突出して高い。これらの項目の評価が低い学科では入学時教育，ガイダンスはもちろん，その後も繰り返し理念や目標について説明をする必要がある。

（２） 学科／コースの専門教育について

学年毎のガイダンスの内容は学部全体では 75%が肯定的（適切だったと強くそう思う＋そう思う)にとらえているが,研究科では否定的な意見はなかったものの､その値が 60%を下回っており，研究科において改善の努力が求められる。シラバスについては学部/研究科ともに８割以上が役に立ったと答えている。

専門教育についての満足度は学部では 81%が満足していると答えている。学科別に見ると地域環境工学科と園芸農学科で９割を超える学生が満足と答えている一方，生物学科ではその割合が７割を下回っている。研究科では 66%が受けた教育に満足したと答えているが否定的な意見も 14%あり，どのような点が否定的な意見につながったかの検討とそれに対する対策が必要である。

（３） 教員の指導について

教員による指導，対応への満足度は学部全体で 82%，研究科全体では 83%が肯定的に答えているが、学科によって評価に開きがあった（地域環境工学科 100%～分子生命科学科 65%)。

成績評価の結果に異議を持ったことのある学生は学部全体で 18%,研究科で 8%と低く、地域環境工学科では異議を持ったことがあると答えた学生はいなかった。異議を持った際,「成績評価の問い合せ」を行った学生はほとんどいなかった（5%のみ)。自由コメントで知らなかったと答えた学生もいることから，この制度について周知する必要を感じる。

（４） 主体的学習について

主体的学習に充てた時間は，必要とされる講義室での学習時間の 2 倍未満と答えた学生の割合は学部では全体の 86%，研究科では 75%であり，0.5 倍未満と答えた学生も 2 割近くおり，多くの学生が必要とされる学習時間をこなしていない。根本的な対策が求められる。

（5） 教育支援，施設・設備について

学業に関する相談窓口，学生生活に関する相談窓口ともにクラス担任や指導教員との面談の利用者が多い。進路についての相談窓口としてはクラス担任や指導教員との面談と就職支援センターを利用した学生の割合がそれぞれ30%以上と高かった。

講義室，実験・実習室について満足と答えた学生は50～54%で，逆に不充分であると否定的な意見を述べた学生は講義室35%，実験室23%と高かった。

施設に対する要望では空調機（特に夏場の冷房）とWi-Fiの利用勝手への不満が多いようである。順次改善の努力を続ける必要がある。

（6） 卒業研究，修士研究に対する満足度

卒業/修士研究に対して学部全体では90%，研究科では81%が満足と肯定的に答えており，評価が高い。しかし，わずかながら否定的な評価もあり，自由意見からは一部に学生と教員間にコミュニケーション不足のあることが伺われる。個別に丁寧な指導が求められる。

（7） 進路指導について

学部において学んだことが進路決定に役立ったと答えた学生は学部全体では半数を超えて55%いたが，役に立たなかったと答えた学生も15%いた。

地域環境工学科では否定的な意見はなく役に立ったと答えた学生が 88%に上った。この学科では就職した者の割合が93%と高く，学内で学んだことが直接進路（就職先）の決定につながっている様子がうかがえる。生物学科は59%が大学院へ進学しており，卒業後すぐに就職する割合が低い(40%以下)こともあり，学部で学んだことが進路決定に役立ったかはわからないとする学生の割合が高かった。「まだ」わからないと言う意識が強いと想像される。他の学科では卒業生のおよそ7割が就職をしているが，分子生命科学科では学部で学んだことが進路の決定に役立たなかったと否定的に答えた学生が 34%と抜きん出て多かった。

本学，本学部の進路支援に対する取り組みが十分であったかとの問いに対し，充分であったと答えた割合は学部全体の平均では 44%と低い。しかしこの評価は学科間の差が大きく，取り組みが十分だと答えた割合は地域環境工学科では76%であるのに対し，生物学科では25%に留まった。

（8） 教育のあり方について

卒業/修了時に相応の知識や学力が身に付いたかとの問いに対し、学部全体では55%，研究科では64%がそう思うと答えている。一方でそう思わないと否定的に答えた学生は学部で 14%，研究科で 11%に上る。その理由を見ると勉強不足に対する反省が多く見られることから，このアンケートで実施時間が短いことが示された主体的学習を促すことによって否定的意見の改善が期待される。

教育活動の中で早急に改善すべき点について、先に示した設備面での空調とWi-Fi環境の整備を求める声が多い。また，アカデミックハラスメントを訴える意見があることに関しては個別に丁寧な対応が必要である。

・教員対象授業アンケートについて

学部の授業科目では 15 回以上授業を実施した教員が全体の 9 割，研究科で 7 回以上実施した教員が 9 割弱を占め，いずれでも休講があった場合に休講の回数分あるいは一部補講を行った教員は全体の 6 割以上を占めた。シラバスと授業内容の一致については全ての教員が一致させた講義を行った，あるいはシラバスに沿うように講義を行ったと答えている。学部では専門性より学生のレベルを意識して授業展開をしている教員の割合が高く（83.6%），研究科ではその割合は 50%で，より専門性を重視した教員の割合が高くなった（50%）。

・教員対象教育評価アンケートについて

学部/研究科の理念，教育目的，教育目標，学科/コースの教育目標とアドミッションポリシーについてはほとんどの教員に認知されている。また，シラバス作成時に教育目的，教育目標に沿った講義内容にしようとしているかの問いには，全ての教員が意識していると答えた。よりよい授業を提供するためにはシラバスと実際の授業内容はある程度異なっていても構わないとほぼ半数の教員が考えているが，その場合にも，ほとんど（95%）の教員が異なる理由を受講生に対して説明する必要があると感じている。「授業方法改善のための学生による授業評価に関するアンケート調査」は教員の 60%が学生からの評価を妥当だと考え，80%の教員が評価の低かった項目の評価をあげるよう努力していることがわかる。

学生の授業時間外の学習を促すための工夫として，課題の提出を求めている割合は教員全体で 33%ながら、地域環境工学科ではこの割合が 60%をこえている。地域環境工学科では講義室以外での学習に授業時間の 2 倍以上かけている学生の割合が他学科に比べて顕著に高く，学生の学習時間を増やすためには有効な手段となっているかもしれない。

（令和元年度副委員長　中村　剛之）